埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第 92 集

居立（第２次）／森吉古墳／下郷

2007.8

深谷市教育委員会

巻頭図版 1

居立遺跡第 1 号竪穴建物跡

居立遺跡第 1 号竪穴建物跡カマド

巻頭図版２

下郷遺跡遠景

森吉古墳・下郷遺跡調査区全景

序

このたび、深谷市教育委員会では、「居立（第２次）／森吉古墳／下郷」の発掘調査報告書を刊行するはこびとなりました。

古墳時代～平安時代の集落跡である居立遺跡は妻沼低地にあり、５～６世紀の古墳跡が多く出土している森吉古墳と下郷遺跡は櫛挽台地上にあり、その対照的な立地からは、古代の土地利用のあり方が窺えます。恐らく、居住地は主な生産物である稲を栽培し易い場所の近くに、墓は見晴らしが良く、居住地を見下ろす高台の上に設定したのでしょう。

また、今回報告します下郷遺跡の調査区のすぐ南には、幡羅郡家跡が広がっていることが、平成 13 年度に明らかになりました。森吉古墳や下郷遺跡で確認された古墳跡は、郡家の時代よりも１世紀程遡るものの、古墳に葬られた人々と郡家を運営した人々との関係については興味深いものがあります。

現在、深谷市には縄文時代から近現代までの様々な遺跡が残されています。こうした遺跡は、一度消滅すると二度と見ることのできないものであり、これを保護し、後世に伝えていくことは私たちの大きな課題です。今回の発掘調査の成果を報告書というかたちにまとめ、広く市民の皆様にご紹介することで、郷土の歴史の古さやその優れた文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立てば、望外の喜びです。

最後に、今回の発掘調査および報告書作成にあたり深いご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして序にかえます。

平成 19 年８月

深谷市教育委員会
教育長　　猪　野　幸　男

例　　言

１．本書は、埼玉県深谷市上増田字居立 44 －３における個人専用住宅建設、及び東方字森吉 2980 －１、－２における豚舎建設工事に伴う遺跡発掘調査報告書である。

２．発掘調査は、深谷市教育委員会が主体となり、居立遺跡・下郷遺跡発掘調査については国庫補助事業、森吉古墳確認調査については深谷市単独事業として行った。

３．発掘調査期間は、居立遺跡が平成 10 年７月 27 日～８月 14 日、森吉古墳及び下郷遺跡が平成 10 年 10 月２日～ 11 月 11 日である。

４．下郷遺跡は当初、東方東部遺跡として調査を行なった。遺跡の略号はＨＫＴＢである。

５．発掘調査及び出土遺物の整理全般は主に知久裕昭､埴輪の実測･トレースは主に永井智教（現鳩山町教育委員会）が担当した。発掘調査については、古池晋禄、青木克尚の補助を受けた。報告書の執筆は知久が行った。

６．遺跡の基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。

７．出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。

８．発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の諸氏から数々のご指導ご助言を賜った。
新井　端　　太田博之　　竹野谷俊夫　　永井智教　　松田　哲　　宮本直樹　　（敬称略）

凡　　例

１．遺跡原点は、居立遺跡：国家方眼座標Ｘ＝ 22520.000、Ｙ＝－ 48100.000、森吉古墳・下郷遺跡：Ｘ＝ 22520.000、Ｙ＝－ 48100.000 である。また、各遺構図における方位指示は、全て座標北を示している。

２．遺物の実測図は、須恵器の断面を黒塗りで表現した。また、赤彩部分については、スクリーントーンで表した。

３．遺物観察表の記載は、以下のとおりである。
・計測値の単位は cm である。
・器径、器高で（ ）を付したものは推定値を表す。
・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。
Ａ…白色粒子、Ｂ…赤色粒子、Ｃ…黒色粒子、Ｄ…石英、Ｅ…角閃石、Ｆ…片岩
Ｇ…白色針状物質、Ｈ…砂礫、Ｉ…雲母
・ハケメは２cm ごとの本数である。。

４．遺物の注記、および原図における遺構の略号は、次のとおりである。
竪穴建物跡…ＳＪ、古墳跡…ＳＴ、溝…ＳＤ、土坑…ＳＫ

５．遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。

発掘調査の組織

発掘調査（平成10年度）

調査主体者	深谷市教育委員会	教育長	加藤　和説
		教育次長	逸見　　稔
事務局	深谷市教育委員会生涯学習課	課　　長	根松　文良
		課長補佐	金井　秀夫
		文化財保護係長	石川　　博
		主　　任	古池　晋禄
		主　　任	青木　克尚
		主　　事	冨田　和利
		主　　事	知久　裕昭

報告書刊行（平成19年度）

調査主体者	深谷市教育委員会	教育長	猪野　幸男
		教育次長	石田　文雄
		次　　長	中村　信雄
事務局	深谷市教育委員会生涯学習課	課　　長	澤出　晃越
		主幹兼課長補佐	武井　　茂
		文化財保護係長	古池　晋禄
		主　　査	森下昌市郎
		主　　査	鳥羽　政之
		主　　査	高村　敏則
		主　　任	荻野　直美
		主　　任	知久　裕昭
		主事補	幾島　　審
		臨時職員	栗原貴世実

調査参加者

阿部ルリ子	江原　木子	大沢日出子	大澤　大美	大原　黎子	大島　周子	小野寺和子
河合　詔子	久米　紀子	倉上多美子	小沼　和子	島津　芳子	砂田伊久子	関口由美子
高田　秀子	滝沢はつえ	田中　美樹	知久　祥子	都築百合子	鳥山　瀧子	中沢　モト
楢橋　道子	根岸　邦子	根本　智子	浜野　光子	藤浦　春枝	藤野ウメ子	本橋　玲子
森　　光代	諸岡美樹子	除村　敦子	吉野真由美			

目　　次

序
例言
凡例
発掘調査の組織
Ⅰ　発掘調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相 …… 2
Ⅲ　居立遺跡 …… 5
　１．遺跡の概要 …… 5
　２．遺構と遺物 …… 7
　　ａ　竪穴建物跡 …… 7
　　ｂ　土坑 …… 17
Ⅳ　森吉古墳・下郷遺跡 …… 19
　１．遺跡の概要 …… 19
　２．森吉古墳 …… 22
　３．下郷遺跡 …… 28
　　ａ　古墳跡 …… 28
　　ｂ　溝 …… 50
　　ｃ　竪穴建物跡 …… 67
　　ｄ　土坑 …… 74
Ⅴ　調査のまとめ …… 78
報告書抄録

挿図目次

第１図　埼玉県の地形図 …… 2
第２図　周辺の遺跡 …… 3
第３図　居立遺跡の位置と発掘調査区 …… 5
第４図　居立遺跡第２次調査区全体測量図 …… 6
第５図　第１号竪穴建物跡 …… 7
第６図　第１号竪穴建物跡カマド …… 8
第７図　第１号竪穴建物跡遺物出土状況 …… 9
第８図　第１号竪穴建物跡出土遺物（１） …… 10
第９図　第１号竪穴建物跡出土遺物（２） …… 11
第10図　第１号竪穴建物跡出土遺物（３） …… 13
第11図　第１号竪穴建物跡出土遺物（４） …… 15
第12図　第１号竪穴建物跡出土遺物（５） …… 16
第13図　土坑実測図 …… 18
第14図　第１号土坑出土遺物 …… 18
第15図　幡羅遺跡周辺グリッド分割図 …… 19
第16図　森吉古墳・下郷遺跡の位置と発掘調査区 …… 20
第17図　森吉古墳・下郷遺跡全体測量図 …… 21
第18図　森吉古墳全体測量図 …… 23
第19図　森吉古墳土層断面図 …… 25
第20図　森吉古墳出土遺物 …… 27

第21図　第１号墳 …… 29
第22図　第１号墳遺物出土状況 …… 30
第23図　第１号墳断面図 …… 31
第24図　第１号墳出土円筒埴輪（１） …… 32
第25図　第１号墳出土円筒埴輪（２） …… 33
第26図　第１号墳出土円筒埴輪（３） …… 34
第27図　第１号墳出土円筒埴輪（４） …… 36
第28図　第１号墳出土円筒埴輪（５） …… 38
第29図　第１号墳出土円筒埴輪（６） …… 39
第30図　第１号墳出土円筒埴輪（７） …… 40
第31図　第１号墳出土円筒埴輪（８） …… 42
第32図　第１号墳出土形象埴輪（１） …… 43
第33図　第１号墳出土形象埴輪（２） …… 45
第34図　第１号墳出土形象埴輪（３） …… 46
第35図　第１号墳出土形象埴輪（４） …… 47
第36図　第１号墳出土形象埴輪（５） …… 49
第37図　第１号墳出土遺物 …… 51
第38図　第２号墳、第１・２号溝 …… 52
第39図　第２号墳、第１号溝遺物出土状況 …… 53
第40図　第２号墳、第１号溝断面図 …… 54
第41図　第２号墳出土円筒埴輪（１） …… 55
第42図　第２号墳出土円筒埴輪（２） …… 56
第43図　第２号墳出土円筒埴輪（３） …… 57
第44図　第２号墳出土円筒埴輪（４） …… 59
第45図　第２号墳出土形象埴輪（１） …… 61
第46図　第２号墳出土形象埴輪（２） …… 62
第47図　第２号墳出土形象埴輪（３） …… 63
第48図　第２号墳出土遺物 …… 64
第49図　第１号溝出土遺物（１） …… 65
第50図　第１号溝出土遺物（２） …… 66
第51図　第１・２号竪穴建物跡 …… 68
第52図　第１・２号竪穴建物跡遺物出土状況 …… 69
第53図　第１号竪穴建物跡出土遺物（１） …… 70
第54図　第１号竪穴建物跡出土遺物（２） …… 71
第55図　第２号竪穴建物跡出土遺物 …… 72
第56図　第３号竪穴建物跡 …… 73
第57図　第３号竪穴建物跡遺物出土状況 …… 73
第58図　第３号竪穴建物跡出土遺物 …… 74
第59図　土坑実測図 …… 75
第60図　調査区出土遺物 …… 77
第61図　幡羅郡家正倉跡 …… 79

表 目 次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… ３
第２表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（１） … ９
第３表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（２） … 12
第４表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（３） … 14
第５表　第１号土坑出土遺物観察表 …… 18
第６表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（１） …… 35
第７表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（２） …… 37
第８表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（３） …… 38
第９表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（４） …… 39
第10表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（５） …… 41
第11表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（６） …… 42
第12表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（７） …… 46
第13表　第１号墳出土形象埴輪観察表 …… 50
第14表　第１号墳出土遺物観察表 …… 51
第15表　第２号墳出土円筒埴輪観察表（１） …… 57
第16表　第２号墳出土円筒埴輪観察表（２） …… 58
第17表　第２号墳出土円筒埴輪観察表（３） …… 60
第18表　第２号墳出土形象埴輪観察表（１） …… 63
第19表　第２号墳出土形象埴輪観察表（２） …… 64
第20表　第２号墳出土遺物観察表 …… 64
第21表　第１号溝出土遺物観察表（１） …… 66
第22表　第１号溝出土遺物観察表（２） …… 67
第23表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 71
第24表　第２号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 72
第25表　第３号竪穴建物跡出土遺物観察表 …… 74
第26表　調査区出土遺物観察表 …… 76

図版目次

巻頭図版１　居立遺跡第１号竪穴建物跡　居立遺跡第１号竪穴建物跡カマド
巻頭図版２　下郷遺跡遠景　森吉古墳･下郷遺跡調査区全景
図版１　第１号竪穴建物跡（１）　第１号竪穴建物跡（２）　第１号竪穴建物跡遺物出土状況
第１号竪穴建物跡カマド（１）　第１号竪穴建物跡カマド（２）　第１号竪穴建物跡カマド（３）
第１号竪穴建物跡カマド（４）　第１号竪穴建物跡カマド袖（１）
図版２　第１号竪穴建物跡カマド袖（２）　第１号竪穴建物跡貯蔵穴　第１号竪穴建物跡管玉出土状況
第１号竪穴建物跡紡錘車出土状況　第１号土坑　１号竪カマド袖材　縄文土器、石器　１号竪編物石
図版３　１号竪１　１号竪７　１号竪８　１号竪12　１号竪13　１号竪14　１号竪15　１号竪18　１号竪20
１号竪22　１号竪26　１号竪27　１号竪32　１号竪38　１号竪40　１号竪41　１号竪43　１号竪46
図版４　１号竪47　１号竪48　１号竪49　１号竪51　１号竪52　１号竪53　１号竪54　１号竪55　１号竪58
１号竪59　１号竪60　１号竪64　１号竪70　１号竪72　１号竪73
図版５　１号竪74　１号竪75　１号竪77　１号竪80　１号竪91　１号竪92　１号竪93　１号竪94　１号土坑６
１号竪96　１号竪97　１号土坑１　１号土坑２　１号土坑３
図版６　Ａトレンチ　Ｂトレンチ　Ｃトレンチ　Ｄトレンチ　出土遺物　１号土坑出土遺物
図版７　調査区全景　第１号墳　第１号墳遺物出土状況（１）　第１号墳遺物出土状況（２）
第１号墳遺物出土状況（３）　第２号墳　第２号墳遺物出土状況（１）　第２号墳遺物出土状況（２）
図版８　第１号溝　第１号溝遺物出土状況　第１・２号溝　第１号竪穴建物跡遺物出土状況　第１号竪穴建物跡
第１号竪穴建物跡カマド　第２号竪穴建物跡遺物出土状況　第２号竪穴建物跡カマド遺物出土状況
図版９　第２号竪穴建物跡カマド　第１・２号竪穴建物跡　第３号竪穴建物跡　第３号竪穴建物跡カマド
第１号土坑　第２号土坑　第３･５･９号土坑　第６号土坑
図版10　第７号土坑　第８号土坑　１号墳１　１号墳２　１号墳３　１号墳４　１号墳５　１号墳12　１号墳13
１号墳14　１号墳15
図版11　１号墳16　１号墳17　１号墳18　１号墳19　１号墳20　１号墳21　１号墳22　１号墳23　１号墳24
１号墳25　１号墳26　１号墳27
図版12　１号墳28　１号墳29　１号墳30　１号墳31　１号墳32　１号墳33　１号墳34　１号墳35　１号墳36
１号墳46（１）　１号墳46（２）　１号墳47　１号墳48
図版13　１号墳49　１号墳50　１号墳51　１号墳75（１）　１号墳75（２）　１号墳75（３）　１号墳76（１）
１号墳76（２）　１号墳77（１）　１号墳77（２）
図版14　１号墳78　１号墳80　１号墳85　１号墳82（１）　１号墳82（２）　１号墳出土形象埴輪　２号墳１
２号墳２　２号墳３　２号墳４
図版15　２号墳５　２号墳７　２号墳８　２号墳９　２号墳12　２号墳14　２号墳15　２号墳16　２号墳17
２号墳21　２号墳38
図版16　２号墳39（１）　２号墳39（２）　２号墳39（３）　２号墳出土形象埴輪　１号溝出土土錘　１号溝29
１号竪９　１号竪10　１号竪13　１号竪15　１号竪16
図版17　１号竪19　２号竪１　２号竪２　２号竪３　２号竪４　２号竪５　２号竪６　３号竪１　３号竪２
調査区１　調査区11　鉄製品　縄文土器･石器

Ⅰ　発掘調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年１月１日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58㎢、人口約146,500人となった。当地は農業、工業ともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。歴史的に見ても、後期旧石器、縄文、弥生時代、古墳時代を始め、幡羅郡家や榛沢郡家が造られそれぞれ郡の中心として機能していた奈良～平安時代、また百済木遺跡で郡領クラスの豪族が居宅を営んだ奈良時代、深谷上杉氏の拠点であった室町・戦国時代、宿場町として栄えた江戸時代、そして近・現代まで多くの遺跡、文化財が残され、非常に重要な土地であったことが窺える。鎌倉時代の有力御家人であった畠山重忠の本拠地として、或いは近代日本経済界を築いた渋沢栄一の生地としても良く知られる。

居立遺跡は、ＪＲ深谷駅より北東へ約4.8km、妻沼低地に立地する。標高は約31ｍ、遺跡の範囲は約95,000㎡と推定される。これまでに埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって調査が行われ、竪穴建物跡118棟、掘立柱建物跡１棟、井戸35基、土坑14基、溝16条、周溝状遺構２基が検出されている。住居跡は古墳時代後期のものが中心だが、奈良・平安時代のものもみられる。他に館或いは集落を区画するためと考えられる近世の溝も確認されている。

そのため、深谷市教育委員会では、居立遺跡周辺の広い範囲を重要な埋蔵文化財包蔵地であると考え、事前調査等を行ってきた。

平成10年６月、居立遺跡地内の深谷市大字上増田字居立44-3で個人専用住宅建設工事の実施が明らかとなった。深谷市教育委員会は施主である大島恵一氏、大島周子氏との協議を経て、平成10年７月16日に当該地の確認調査を実施した。調査の結果、竪穴建物跡１棟と多量の土師器が検出された。この結果を踏まえ、発掘調査の実施について、市教育委員会と大島氏とで協議を行い、工事予定地の一部について、市教育委員会が主体となって発掘調査を実施することで合意した。

市教育委員会は直ちに、文化財保護法第98条の２の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成10年７月24日付深教社発第732号）を提出し、準備に入った。

なお、埼玉県教育委員会教育長から、平成10年８月４日付教文第３－294号で指示通知を受けた。

次に、森吉古墳・下郷遺跡は、ＪＲ深谷駅より東へ約4.1km、櫛挽台地先端部に立地する。標高は約33.4ｍ、下郷遺跡は約1,007,500㎡と広大な範囲に及ぶ。遺跡は東側が熊谷市との境に接しており、熊谷市側には西別府祭祀遺跡や西別府廃寺跡が存在する。発掘調査当時は、幡羅郡家跡が発見されていなかったが、この周辺が郡家の候補地の一つとして認識されていた。そのため、深谷市教育委員会では、森吉古墳・下郷遺跡の周辺を重要な埋蔵文化財包蔵地であると考え、事前調査等を行ってきた。

平成10年８月、森吉古墳の周囲及び下郷遺跡地内の深谷市大字東方字森吉2978、2979-1、2980-1、2980-2、2984、2985-2で豚舎建設工事の実施が明らかとなった。深谷市教育委員会は施主である橋本雄二氏と協議を経て、平成10年９月９日に当該地の確認調査を実施した。調査の結果、一部に攪乱が及んでいたものの、古墳周溝と思われる遺構や、人物埴輪等の埴輪が多量に検出された。この結果を踏まえ、発掘調査の実施について、市教育委員会と橋本氏とで協議を行い、2980-1、2980-2について、市教育委員会が主体となって発掘調査を実施することで合意した。

市教育委員会は直ちに、文化財保護法第98条の２の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成10年９月22日付深教社発第938号）を提出し、準備に入った。

なお、埼玉県教育委員会教育長から、平成10年９月30日付教生文第３－431号で指示通知を受けた。

II　深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相

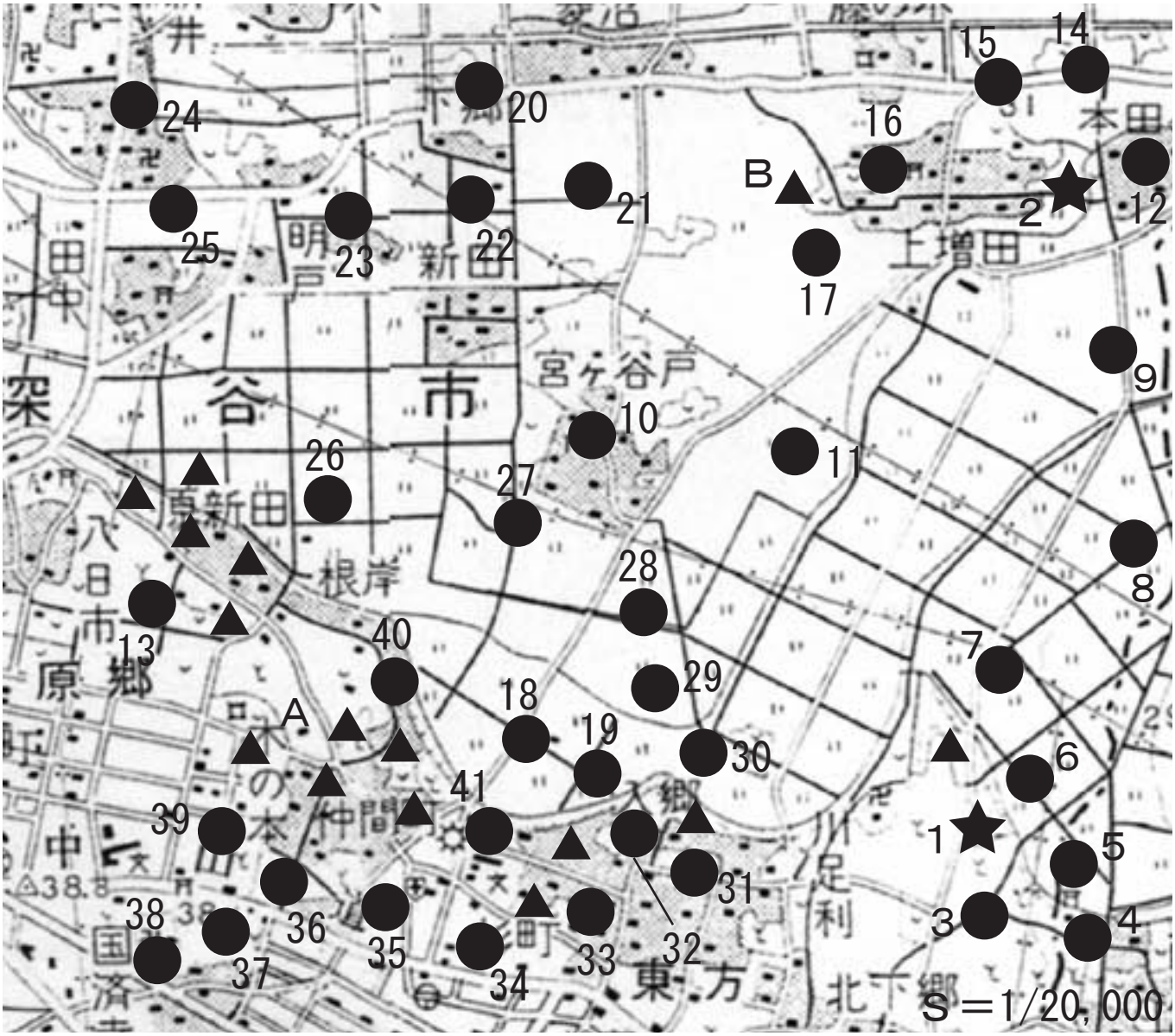
深谷市の地形を概観すると、東西に走るＪＲ高崎線付近を境として、南側に櫛挽台地が広がり北側には妻沼低地が形成されている。櫛挽台地は荒川によって作られた古い扇状地が浸食されてできた沖積台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び利根川の中流低地の一つに数えられる。

櫛挽台地は構造的には、北西側の武蔵野面に比定される櫛挽面（櫛挽段丘）と、南東側の立川面に比定される寄居面（御稜威ヶ原段丘）とで段丘状に形成されている。櫛挽面はほぼＪＲ高崎線沿いの崖線で比高差５～10ｍをもって妻沼低地と接しているが、寄居面は高崎線より北へ1.5～1.8ｍほど延びていて、比高差２～５ｍをもって妻沼低地と接している。接線付近での標高は櫛挽面が40～50ｍ、寄居面が32～36ｍ、妻沼低地が30～31ｍである。櫛挽面は標高70ｍ付近より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川などが北流していて、櫛挽面北端部は南北に台地を開析する浅い谷が発達したものと考えられる。発掘調査で埋没谷が検出されることも多い。また、末端には所謂先端湧水と認められる池等もある。寄居面にはこうした谷筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低地に接する。妻沼低地の南端に櫛挽面、東に寄居面を控える一画に深谷市の中心部があり、周辺では住宅地が増加している。妻沼低地は現在ではかなり平坦であるが、利根川の氾濫や流路の変遷などにより、自然堤防が発達したものと考えられる。

深谷市内で確認されている旧石器時代の遺跡は多くはないが、荒川右岸の江南台地上には、細石刃や彫刻刀形石器が出土した白草遺跡がある。他に３の幡羅遺跡でナイフ形石器が１点出土している。縄文時代では、31の東方城跡で草創期の可能性がある尖頭器が出土している。幡羅遺跡、東方城跡共に櫛挽台地の先端

第１図　埼玉県の地形図



第２図　周辺の遺跡

番号	遺跡名称	時代	番号	遺跡名称	時代
1	下郷遺跡	縄文中期・後期、古墳後期～平安	23	新屋敷東遺跡	縄文中期～晩期、古墳後期～平安
2	居立遺跡	古墳後期～平安	24	上敷免北遺跡	縄文後期・晩期、古墳後期～平安
3	幡羅遺跡	古墳後期～平安	25	本郷前東遺跡	古墳後期～平安
4	西別府廃寺遺跡	古墳後期、平安、中・近世	26	60-184	古墳後期～平安
5	西別府祭祀遺跡	古墳後期～平安	27	宮ヶ谷戸遺跡	縄文中・後期、弥生中・後期、古墳後期～平安
6	欠下遺跡	奈良、平安	28	60-249	奈良、平安
7	60-193	古墳後期～平安	29	60-189	奈良、平安
8	清水上遺跡	縄文、弥生前期、古墳前・後期～平安	30	60-191	古墳後期～平安
9	前遺跡	古墳後期～平安	31	東方城跡	縄文早期・後期、室町
10	堀の内遺跡	平安、戦国	32	60-026	縄文中期・後期、古墳後期～平安
11	東川端遺跡	古墳前期･後期～平安	33	60-269	縄文中期、近世
12	60-174	古墳後期～平安	34	60-202	縄文中期、古墳後期～平安
13	社前遺跡	縄文前・中期、古墳後期～平安	35	60-200	古墳後期、中世
14	城北遺跡	縄文中期、古墳後期～平安	36	60-199	縄文中期、古墳後期～平安
15	60-172	古墳後期～平安	37	60-198	平安
16	増田氏館跡	室町	38	庁鼻和城跡	南北朝
17	原遺跡	弥生後期、古墳、中世	39	常盤町東遺跡	縄文前期・中期、古墳後期
18	60-190	古墳後期～平安	40	根岸遺跡	縄文中・後期、古墳後期～平安、中・近世
19	城下遺跡	縄文中期・後期、古墳後期、平安、中・近世	41	杉町遺跡	縄文中期、古墳後期、奈良、平安、近世
20	60-179	奈良、平安	A	木ノ本古墳群	古墳後期
21	明戸東遺跡	縄文中・後期、弥生中・後期、古墳後期～平安	B	上増田古墳群	古墳後期
22	新田裏遺跡	奈良、平安、中世			

第１表　周辺の遺跡一覧表

部に位置している。また、それらより南西に位置する小台遺跡からは、早期押型文土器や前期黒浜式土器、諸磯式土器の破片が出土している。

縄文中期、特に後半になると遺跡数やその規模は増大する。中でも上野台の小台遺跡は、多量の土器や石器を包含する埋没谷を中心に住居や土坑群が展開する。遺構は中期中葉～後期前葉までのものがこれまでに検出されている。小台遺跡と時期的に重なる遺跡は数多く、小河川を挟んで小集落が多数分布していたか、集落が移動していたものと思われる。

縄文後・晩期になると、縄文人の生活域の中心は櫛挽台地から妻沼低地へと移っていく。21の明戸東遺跡では後期初頭の住居跡、24の上敷免北遺跡では後期後葉の遺物包含層が検出されるなどしている。そして上敷免遺跡では、包含層から在地の後・晩期の資料に混じり、東海系条痕文土器が検出されたり、埼玉県では初の遠賀川系の壷が検出されるなど、他地域との交流を考えさせられる。また遺構が検出されなくても、妻沼低地にある遺跡を調査すると、ほとんどの場合に縄文後期の土器片が検出される状況である。

弥生時代に入ると、上敷免遺跡で中期の再葬墓と、若干時期が下る住居跡が同一の自然堤防上に確認され、弥生時代の集落のあり方を考える上で注目される。岡の四十坂遺跡も該期の代表的な遺跡である。弥生時代後期から古墳時代中期の遺跡の分布状況は明確ではないが、古墳時代前・中期の遺跡は最近調査例が増加している。

古墳時代後期前半になると遺跡数は爆発的に増加し、妻沼低地の自然堤防上に大規模な集落が営まれる。２の居立遺跡もその１つである。また、この時期に小規模な円墳が数多く造られるようになり、幾つかの古墳群を形成する。中でも代表的なものに、櫛挽台地の先端部に形成される木の本古墳群や白山古墳群がある。今回報告する森吉古墳や１の下郷遺跡内において確認された古墳群は、木の本古墳群の東端に位置する。大部分は20～30ｍ規模の円墳で、台地の縁辺に沿って構築される。

７世紀頃には、それまでの大集落は縮小傾向になり、代わって27の宮ヶ谷戸遺跡や11の東川端遺跡、８の清水上遺跡等の、幡羅郡家跡と推定される３の幡羅遺跡に比較的近い位置にある集落規模が拡大する傾向がみられる。律令期には、深谷市の東部は幡羅郡、西部は榛沢郡、南部は男衾郡に属すると考えられる。榛沢郡の郡家跡は岡の中宿遺跡で発見されている。また、幡羅郡家跡である東方の幡羅遺跡は、その範囲、内容を確認するための調査が継続中である。23の新屋敷東遺跡からは、正倉別院の可能性のある大型建物跡が検出されている。

平安時代末期以降は、猪俣党武士団の居館が各地に出現する。代表的なのは、県指定史跡にもなっている人見館跡である。また、鎌倉街道上道の跡が、旧川本町域から旧花園町域に残る。そして室町時代以降は深谷上杉氏が活躍する。深谷上杉氏は、当初38の庁鼻和城に居を構えたと言われるが、５代目房憲の時に、古河公方勢力との戦闘に備え、より堅固な深谷城に移ったとされる。深谷城跡の北東約１kmには、深谷上杉氏の宿老岡谷香丹が築いたと言われる皿沼城跡があり、北方の守りを堅固なものにしている。また、香丹が隠居後に移ったとされる曲田城跡が北西にある。東に約３kmの台地の先端部には、31の東方城跡がある。周辺には家臣の館が分布していたと思われ、南方約1.8kmには、家臣の館跡である秋元氏館跡、南西約2.8kmには、古河公方勢力を牽制し人見地域を防衛するために築かれたと考えられる館跡が検出された押切遺跡が存在する。また、割山西遺跡では、伝承等が一切残っていないが、方形の区画溝が検出され、館跡と考えられている。

江戸時代になると、深谷城は程なく廃城となり、深谷の大部分は天領となる。また、岡部には岡部藩があり、陣屋が構えられた。

Ⅲ　居立遺跡

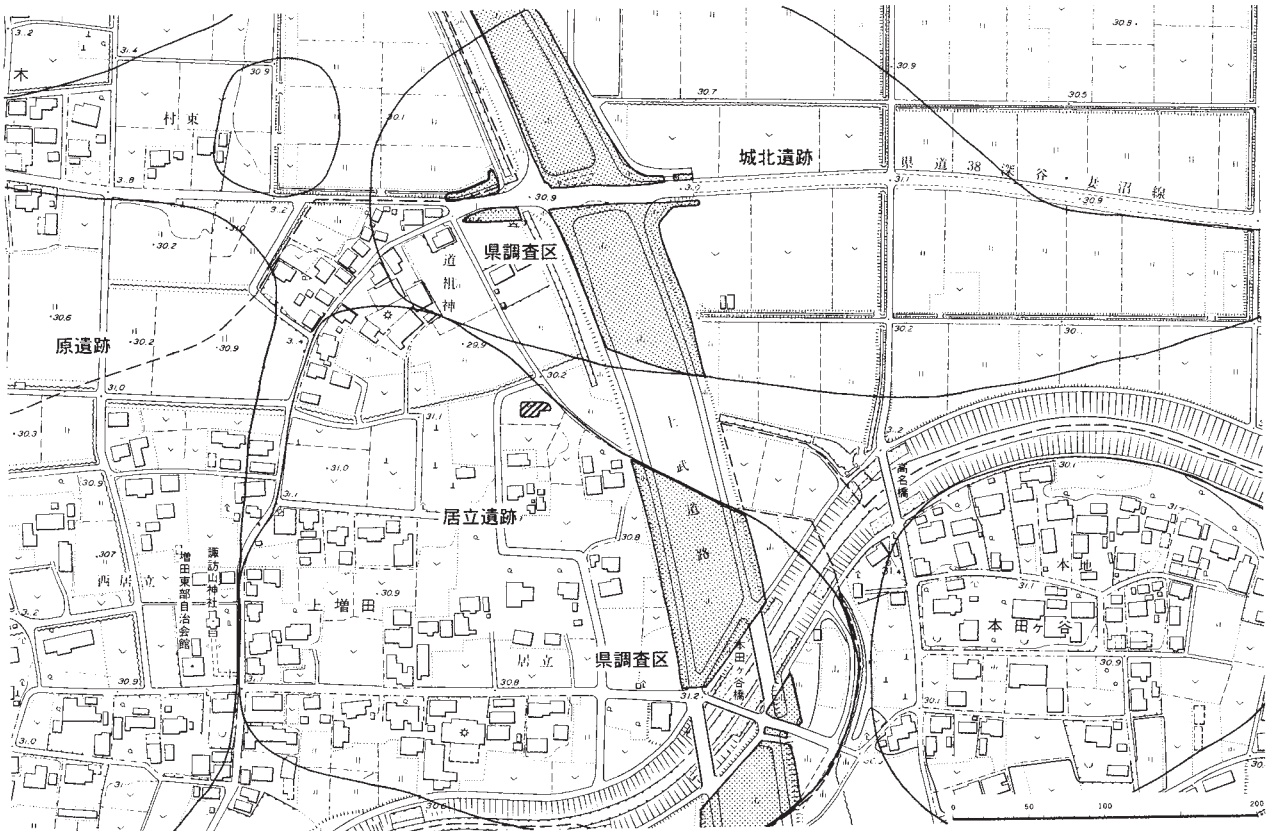
1　遺跡の概要

居立遺跡は、妻沼低地に位置し、自然堤防上に営まれた集落跡である。面積は約 95,000 ㎡である。今回報告する調査区の南西部が、埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって調査され、古墳時代後期のものを中心とし 10 世紀代までの竪穴建物跡 118 棟、掘立柱建物跡 1 棟、井戸 35 基、土坑 14 基、溝 16 条、周溝状遺構２基が検出されている。遺跡の時期は、古墳時代後期から近世にまで亘る。奈良時代頃の竪穴建物跡からは、鉄製の鋏が出土しており注目される。近世のものでは、館又は集落を区画すると考えられる溝が検出されている。

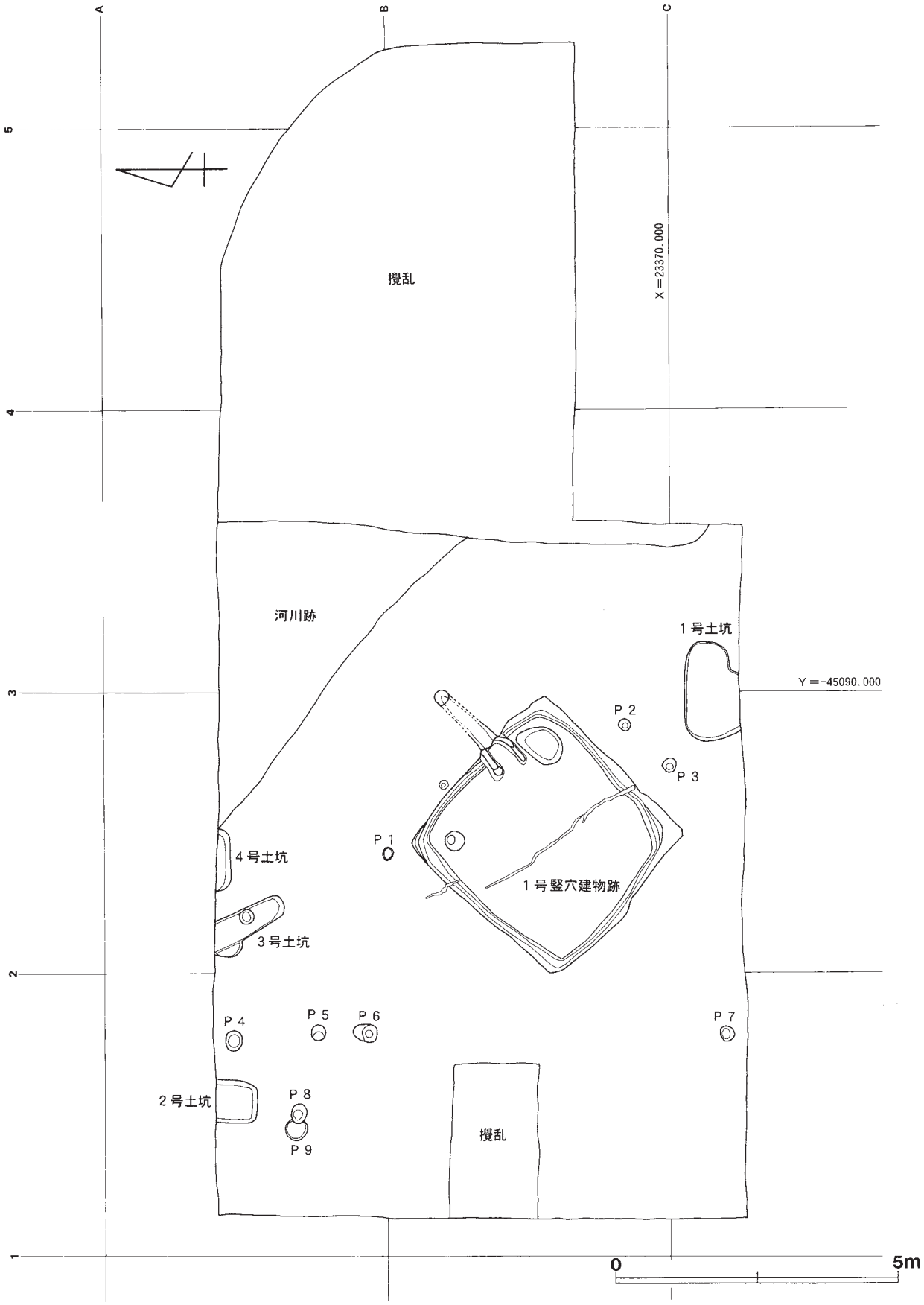
居立遺跡の北側には、間に旧流路を隔てて、６世紀前半を中心とする集落跡の城北遺跡がある。更に北側には柳町遺跡があり、周辺一帯には古墳時代後期を中心とした大集落が営まれていることが確認されている。両遺跡は居立遺跡と同様に県埋蔵文化財調査事業団によって調査されており、城北遺跡からは 157 棟の竪穴建物跡や５ヶ所の祭祀跡、多量の土器の他に人骨や獣骨等も出土している。柳町遺跡からも多量の土器が出土し、118 棟もの竪穴建物跡が検出されている。

深谷市教育委員会で行った第１次調査は、ほ場整備に伴う水路部分の調査である。調査面積は狭小であり、出土遺物は少ない。

今回報告する第２次調査区は、県による調査区の北西に位置し、住居跡の密集する場所からやや離れた場所と思われる。実際、旧河川の跡が検出されており、居立集落の外縁部であったのであろう。検出された１棟の竪穴建物跡は７世紀のもので、非常に残りが良かった。特にカマドは、遺存状態だけでなく、袖の造り方が特殊であり、特筆すべきものである。



第３図　居立遺跡の位置と発掘調査区



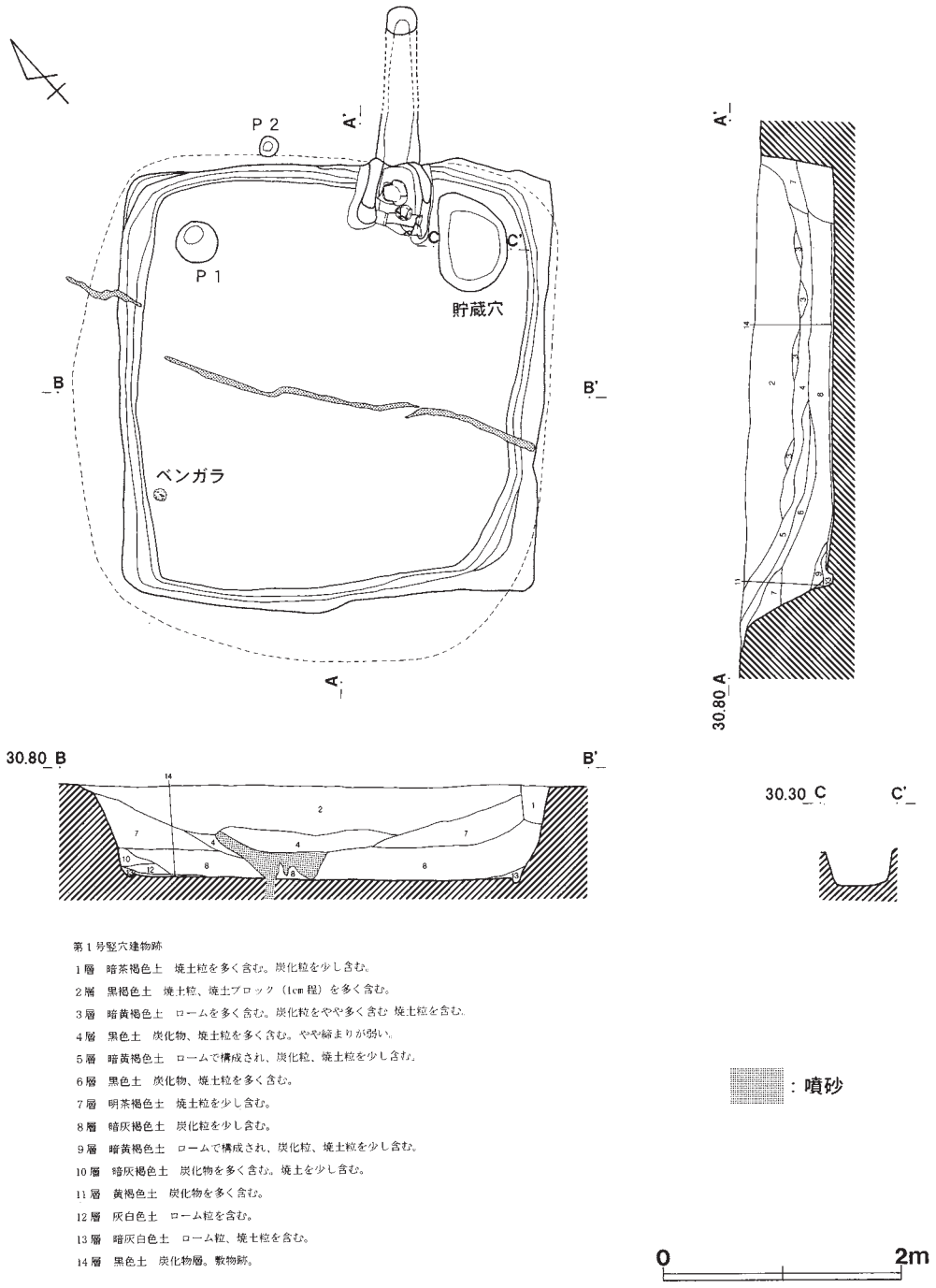
第４図　居立遺跡第２次調査区全体測量図

2　遺構と遺物

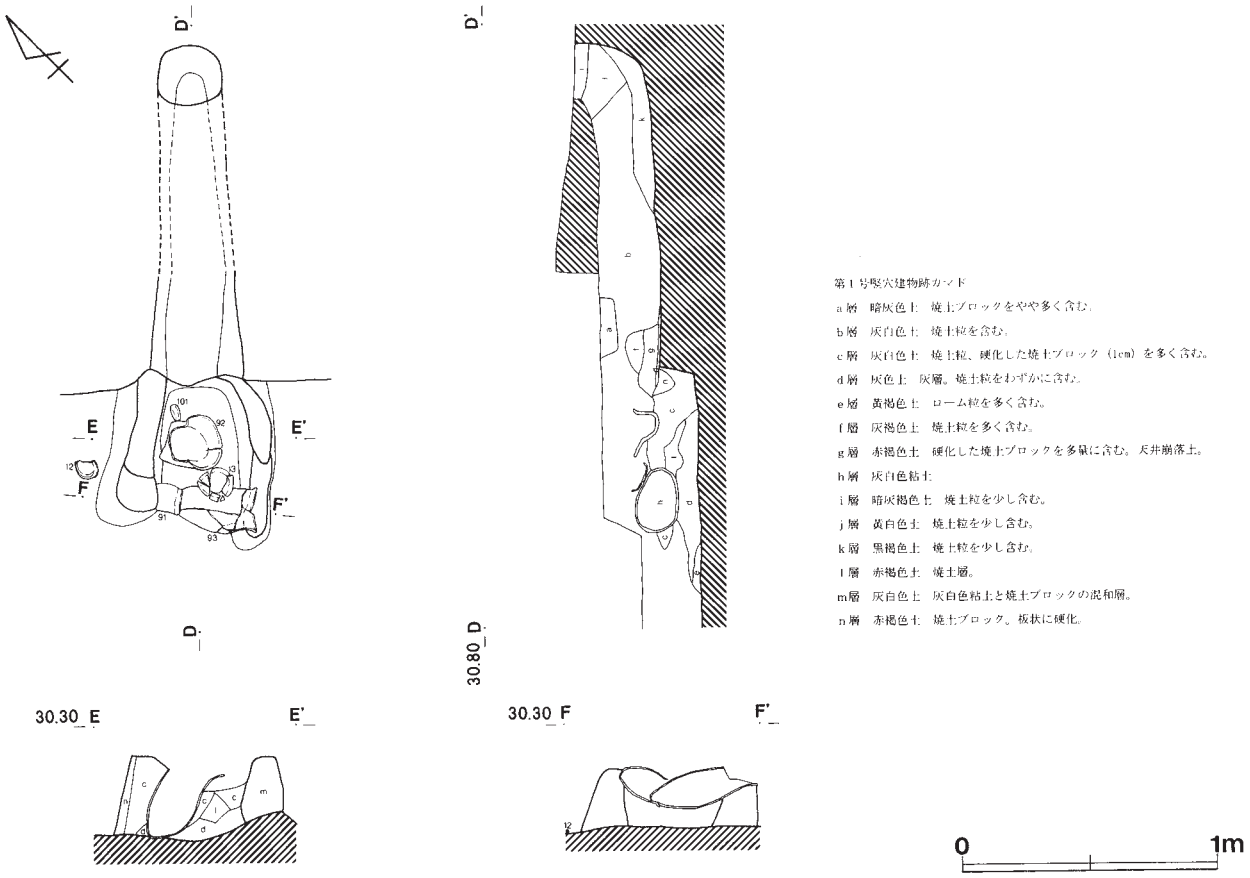
a　竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡（第５～７図）

調査区のほぼ中央に位置する。洪水に起因すると思われる堆積土のため、確認面における平面プランは明瞭ではなかったが、竪穴建物部分を含む円形に近い範囲で、多量の遺物を包含する黒色土が確認された。方形のプランは、黒色土を約 30cm 掘り下げたところで



第５図　第１号竪穴建物跡



第６図　第１号竪穴建物跡カマド

明らかとなった。黒色土は覆土中層にかけてレンズ状に堆積しており、土器の他に炭化物や焼土を多量に含んでいた。

平面形は方形で、規模は一辺約 3.7 m、確認面から床面までの深さは約 80cm を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上部については不明瞭であった。主軸方位はＮ－ 45°－Ｅである。

床面はほぼ平坦で、硬く締まる。床面直上にほぼ全体から薄い炭化物層が確認された。炭化物は編物状であり、敷物としていたムシロ等が炭化したものとみられる。

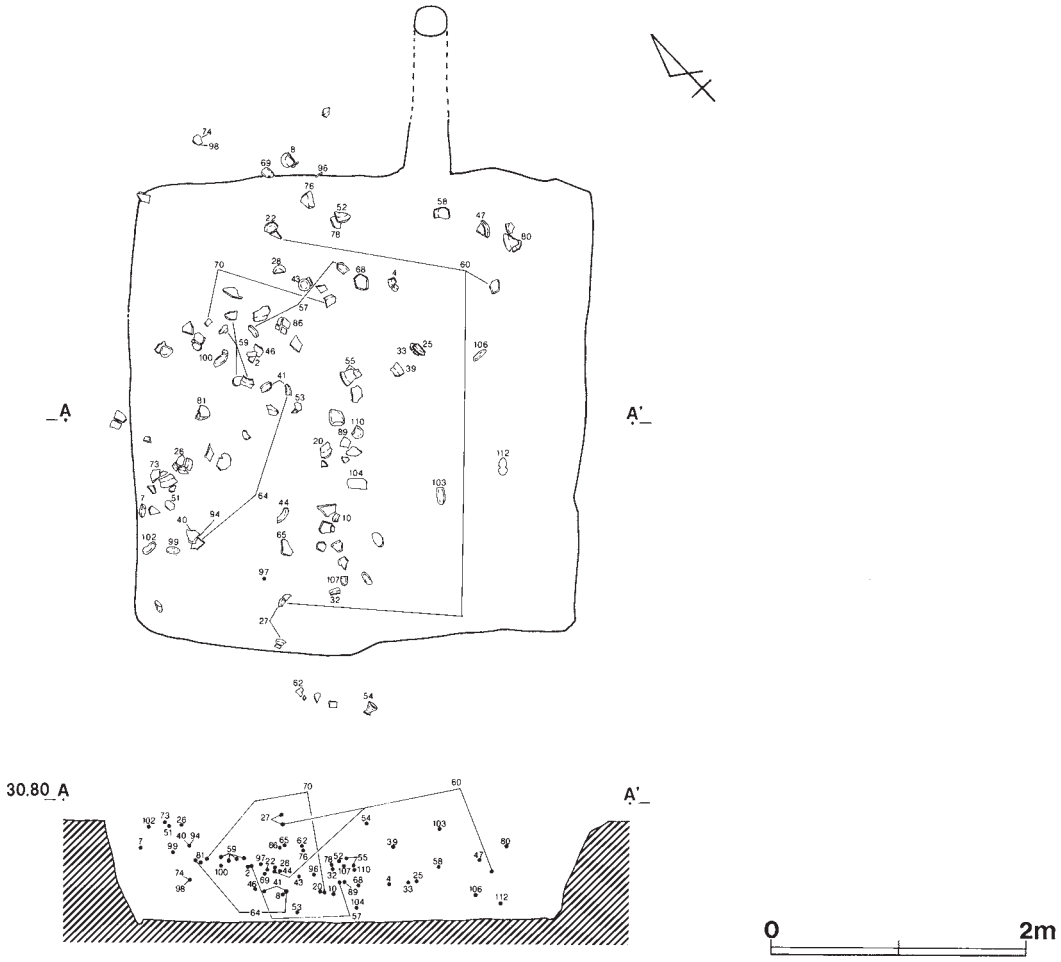
カマドは北東壁やや東寄りに造られる。燃焼部は幅 38cm、奥行き 56cm で、竪穴内に収まる。煙道は天井が遺存する。幅 40cm、高さ 23cm、長さ 132cm、確認面から底面までの深さ 40cm を測る。袖は灰白色粘土と焼土ブロックにより造られるが、外面より被熱し、外面が板状に硬化している。焚き口天井部には２個体の甕が組み合わされて架かる。その上からは、ほぼ完形の坏が出土した。カマド内からは、甕がほぼ使用時の状態で出土した。

貯蔵穴は東隅のカマド脇に造られる。平面形は長径 83cm、短径 56cm の長楕円形を呈する。底面はほぼ平坦で、床面からの深さは 30cm を測る。

壁溝は全周しており、幅 12 ～ 20cm、床面からの深さは５cm を測る。ピットは、北隅部から１基確認された。Ｐ１は径 34cm、床面からの深さ 57cm を測る。また、北西壁際の床面上から、ベンガラが出土した。

本竪穴建物跡からは、南北を分断するように噴砂が確認された。噴砂は床面を貫き、覆土中層にまで達する。

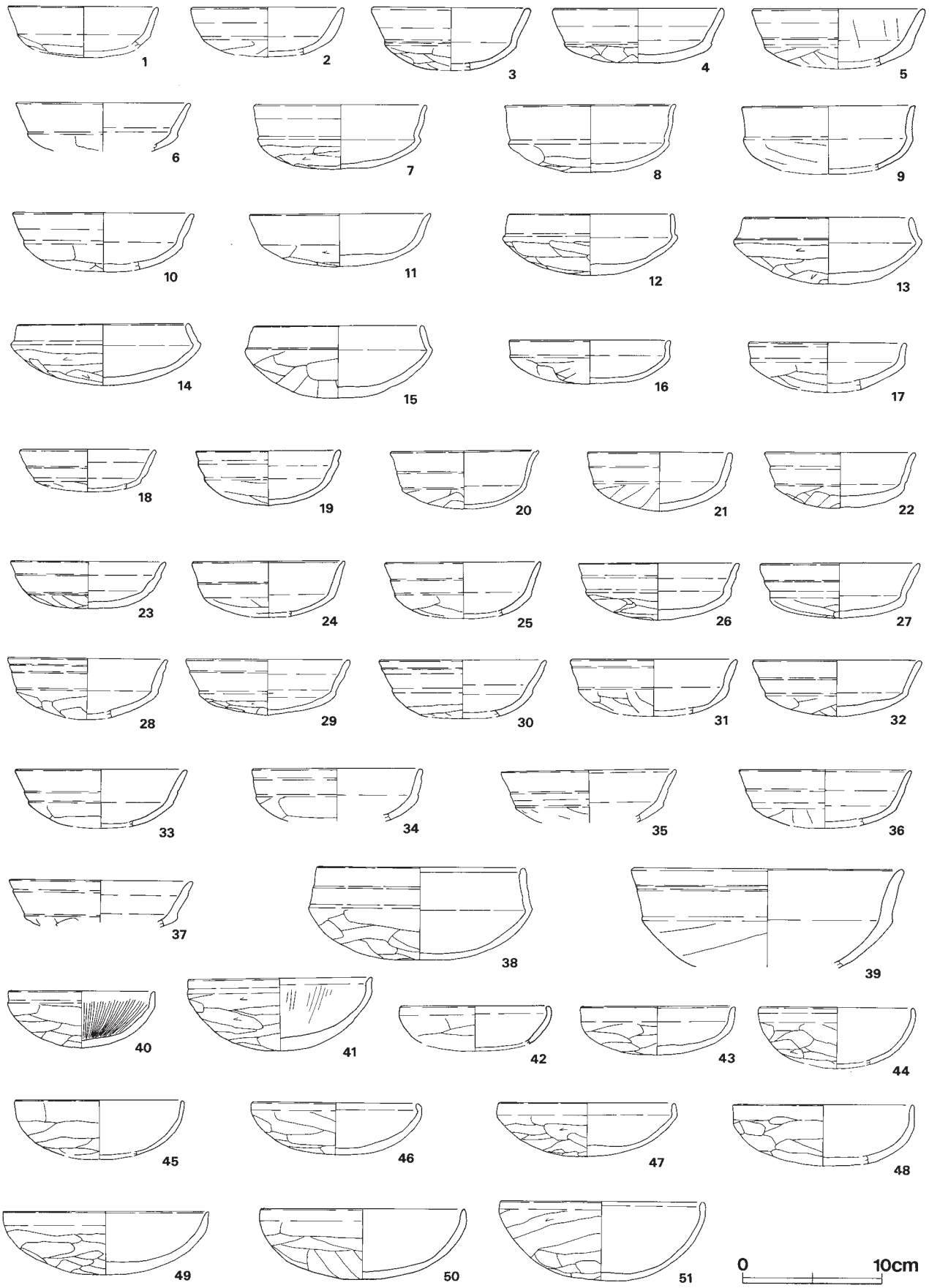
出土遺物の時間幅はやや大きいが、遺構の時期は概ね７世紀前半～中葉で、７世紀中葉～後半にかけて埋没したと推定される。



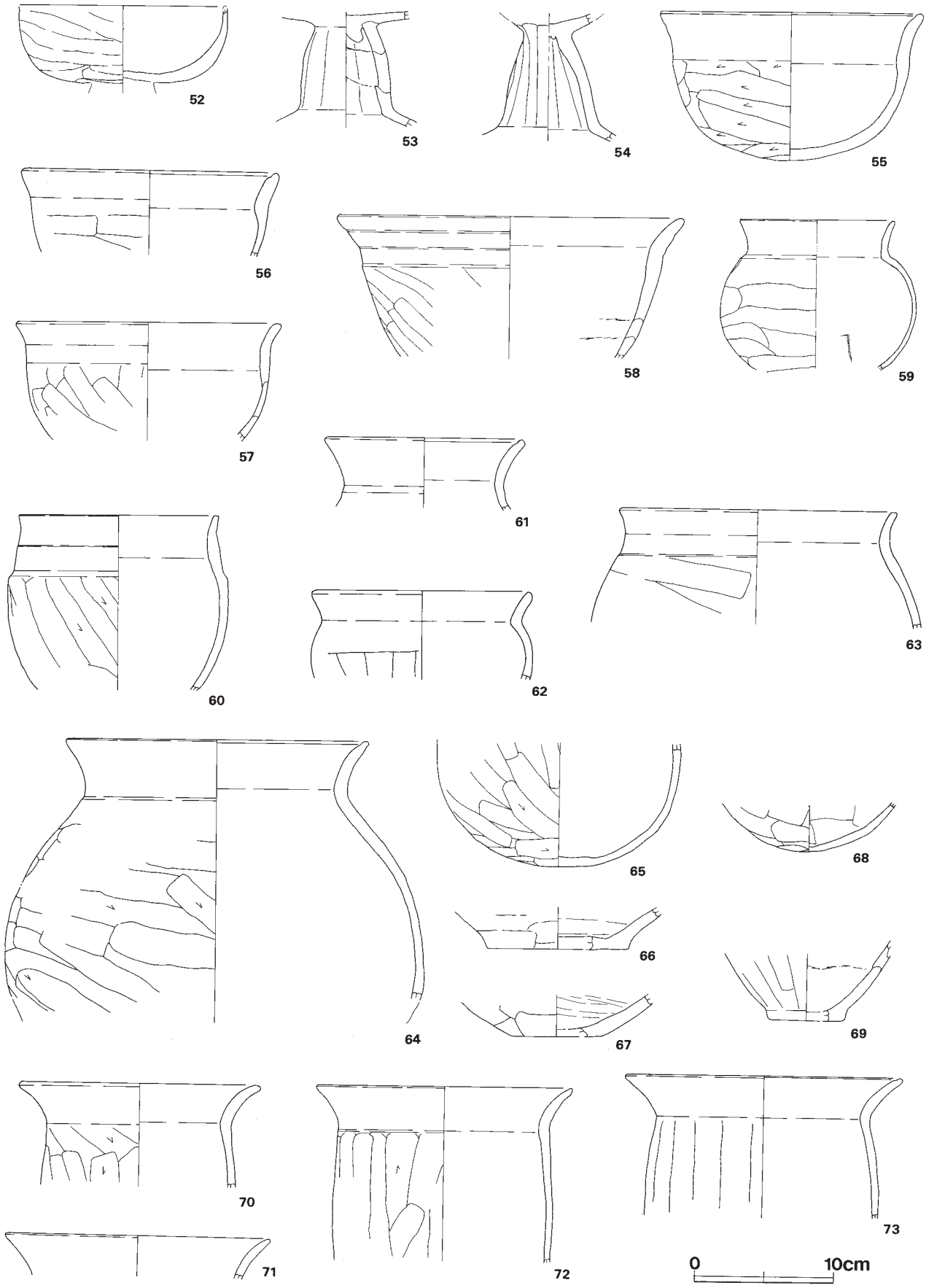
第７図　第１号竪穴建物跡遺物出土状況

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	坏	10.8	(3.7)	-	ＡＢＣＥ	普	灰橙	60%	
2	坏	(10.8)	(3.6)	-	ＡＢＣＤＥ	良	にぶい橙	25%	
3	坏	(11.0)	(4.6)	-	ＡＣＤＥ	普	黒褐	35%	
4	坏	12.2	3.9	-	ＡＢＣＥ	普	暗褐	30%	
5	坏	(12.2)	(4.3)	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	25%	
6	坏	(12.4)	-	-	ＡＢＣＤＥ	普	灰橙	25%	
7	坏	12.2	4.6	-	ＡＢＣＤＥ	普	灰橙	90%	
8	坏	12.2	4.8	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	100%	
9	坏	(12.2)	(4.9)	-	ＡＢＥ	普	橙	25%	
10	坏	(13.0)	(4.2)	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	20%	
11	坏	(13.0)	3.7	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	40%	
12	坏	11.8	4.3	-	ＡＢＣＤＥ	良	赤橙	75%	
13	坏	12.0	4.7	-	ＡＢＣＤＥ	普	黄橙	95%	
14	坏	12.3	4.4	-	ＡＢＤＥ	普	橙	75%	
15	坏	(12.0)	5.2	-	ＡＢＣＥ	良	赤橙	70%	
16	坏	(11.4)	3.1	-	ＡＢＣＥ	普	橙	40%	
17	坏	(11.4)	(3.6)	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	25%	

第２表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（1）



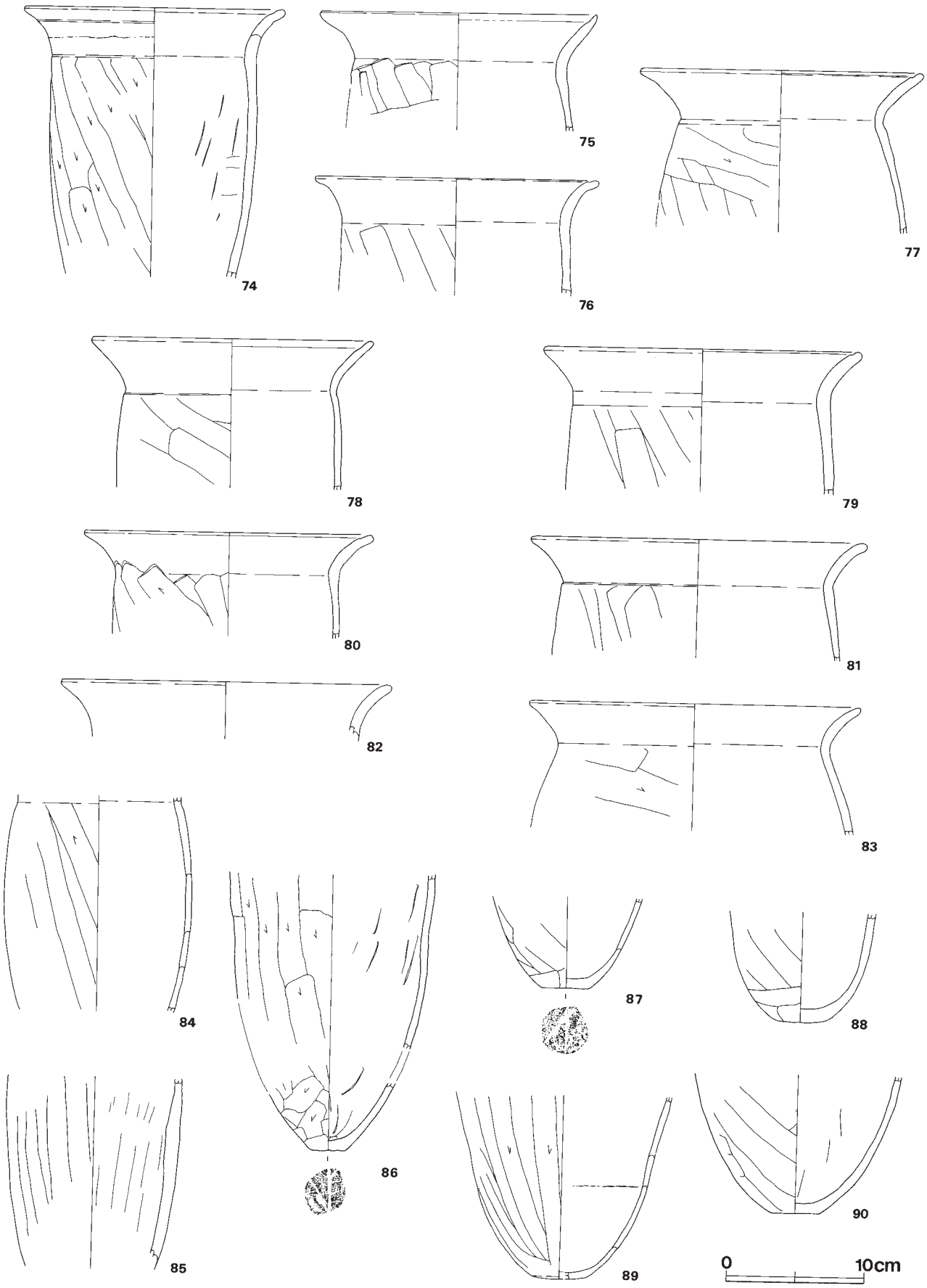
第８図　第１号竪穴建物跡出土遺物（１）



第９図　第１号竪穴建物跡出土遺物（２）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
18	坏	9.8	(3.0)	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	60%	
19	坏	(10.2)	3.9	-	ＡＢＣＤＥ	普	黄橙	20%	
20	坏	10.5	4.1	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	明橙	80%	
21	坏	(10.2)	4.2	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	30%	
22	坏	10.8	4.0	-	ＡＢＣＥ	良	橙	95%	
23	坏	(11.2)	3.4	-	ＡＢＣＤＥ	普	赤褐	30%	
24	坏	(10.8)	(4.0)	-	ＡＢＣＥ	普	橙	30%	
25	坏	(11.0)	(4.1)	-	ＡＢＣＤＥ	普	にぶい橙	25%	
26	坏	11.5	4.1	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	80%	
27	坏	11.3	3.9	-	ＡＢＣＤＥ	普	暗褐	100%	
28	坏	(11.4)	(4.4)	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	40%	
29	坏	(11.8)	4.0	-	ＡＢＣＥ	良	赤橙	30%	
30	坏	(12.0)	(4.2)	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	25%	
31	坏	(12.0)	(4.1)	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	30%	
32	坏	12.0	4.0	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	90%	
33	坏	12.0	(4.2)	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	30%	
34	坏	(12.0)	-	-	ＡＢＣＥ	普	黄橙	25%	
35	坏	(12.6)	-	-	ＡＢＣＥ	普	橙	25%	
36	坏	(12.2)	(4.2)	-	ＡＢＣＤＥ	普	暗褐	20%	
37	坏	(13.0)	-	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	20%	
38	坏	(14.8)	6.7	-	ＡＢＣＥＨ	普	橙	30%	
39	坏	(19.0)	-	-	ＡＢＣＤＥＩ	普	橙	10%	
40	坏	10.5	4.0	-	ＡＢＣＥＨ	良	橙	95%	内面に放射状暗文
41	坏	13.1	5.2	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	95%	磨耗が激しいが、 わずかに暗文を確認
42	坏	(10.6)	(3.2)	-	ＡＢＣＤＥ	良	にぶい橙	15%	
43	坏	11.0	3.4	-	ＡＢＣＥ	良	橙	100%	
44	坏	(11.0)	(3.3)	-	ＡＣＥ	良	にぶい橙	40%	
45	坏	(12.0)	(4.2)	-	ＡＤＥ	普	にぶい橙	40%	
46	坏	11.8	3.7	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	90%	
47	坏	(11.6)	3.8	-	ＡＢＣＤＥ	普	にぶい橙	50%	
48	坏	(13.0)	(4.3)	-	ＡＢＥ	良	橙	40%	
49	坏	(14.8)	4.4	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	40%	
50	坏	(14.6)	5.1	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	35%	
51	坏	14.5	5.7	-	ＡＢＣＤＥＩ	普	にぶい橙	80%	
52	高坏	(15.0)	-	-	ＡＢＣＥ	良	灰褐	30%	
53	高坏	-	-	-	ＡＢＣＥＦ	良	赤橙	30%	
54	高坏	-	-	-	ＡＢＣＥ	良	赤橙	40%	
55	鉢	18.8	10.7	-	ＡＢＣＤＥ	良	にぶい橙	50%	
56	鉢	18.2	-	-	ＡＢＣＤＥ	普	橙	15%	
57	鉢	(19.0)	-	-	ＡＢＣＥＨ	良	にぶい橙	25%	
58	鉢	(24.8)	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	灰橙	30%	
59	壷	11.0	-	-	ＡＢＥ	良	橙	60%	
60	壷	14.4	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	30%	
61	壷	14.0	-	-	ＡＢＣＥＨ	良	橙	15%	
62	壷	(15.4)	-	-	ＡＢＣＤ	良	赤橙	5%	
63	壷	(19.8)	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	橙	5%	
64	壷	(21.6)	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	にぶい橙	40%	
65	壷	-	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	30%	
66	壷	-	-	(10.0)	ＡＢＣＤＥ	良	赤橙	5%	

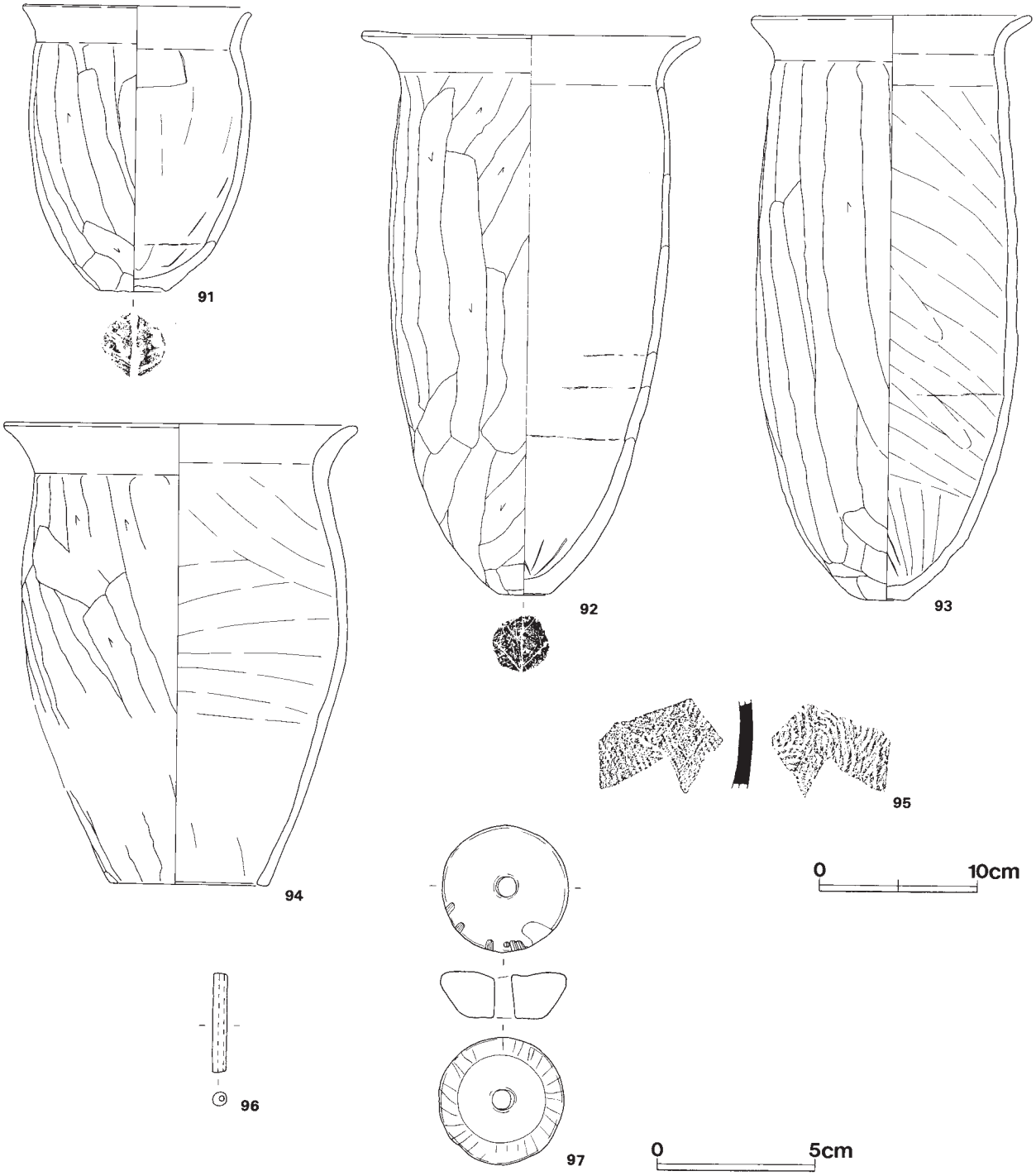
第３表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（２）



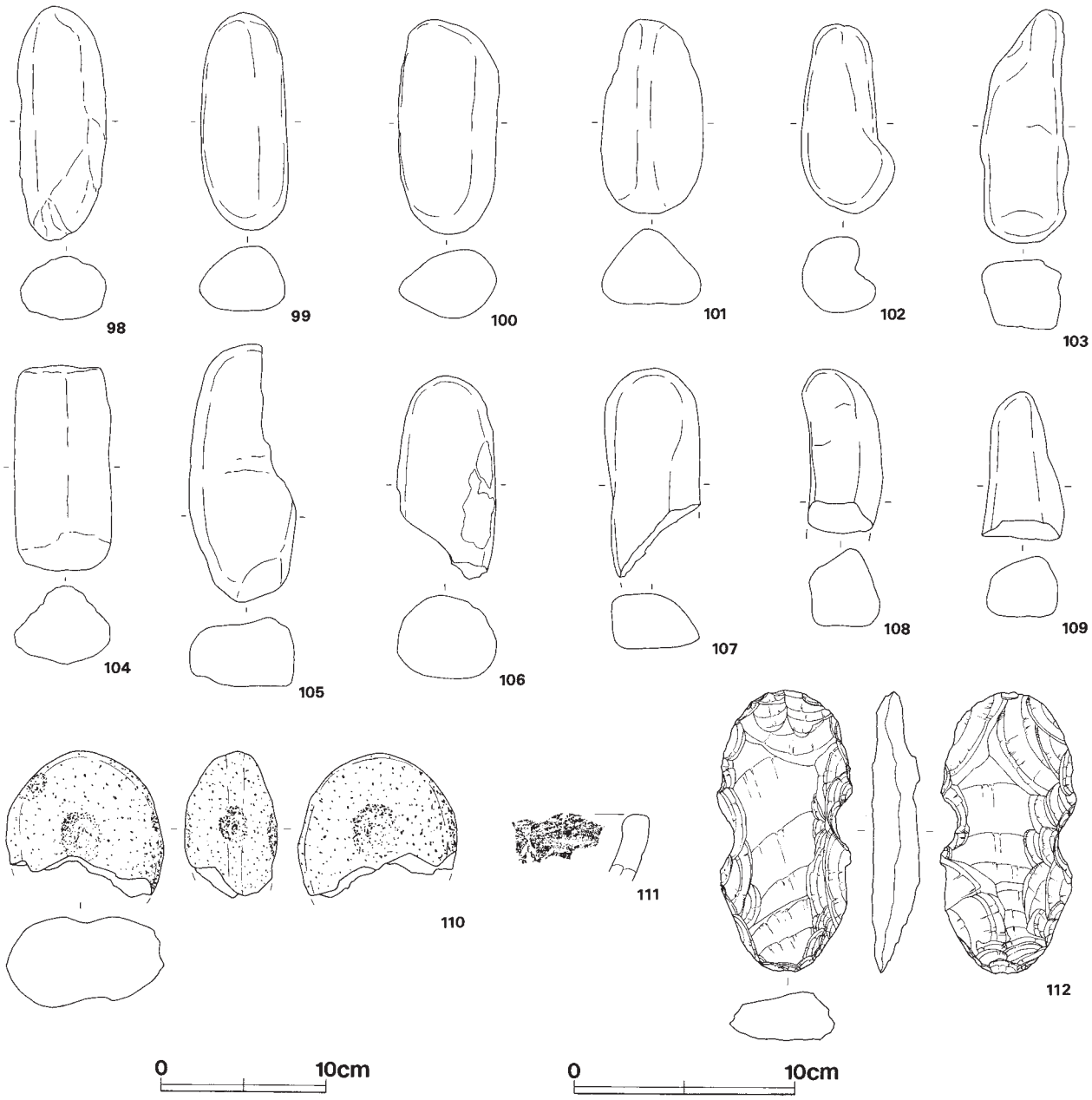
第 10 図　第 1 号竪穴建物跡出土遺物（3）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
67	壷	-	-	(6.4)	ＡＢＣＤＨ	普	にぶい橙	5%	
68	壷	-	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	5%	
69	壷	-	-	(5.2)	ＡＢＣＥＨ	良	橙	5%	
70	甕	(17.0)	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	15%	
71	甕	(19.0)	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	橙	5%	
72	甕	(18.4)	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	橙	20%	
73	甕	(20.0)	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	10%	
74	甕	(18.6)	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	橙	25%	
75	甕	20.0	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	20%	
76	甕	(20.4)	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	5%	
77	甕	20.2	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	にぶい橙	25%	
78	甕	(20.2)	-	-	ＡＢＣＥＨ	良	橙	15%	
79	甕	(22.4)	-	-	ＡＢＣＥＨ	良	黒褐	10%	
80	甕	20.7	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	橙	25%	
81	甕	(24.0)	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	5%	
82	甕	(23.8)	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	5%	
83	甕	(23.8)	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	橙	5%	
84	甕	-	-	-	ＡＢＣＥＨ	普	橙	5%	
85	甕	-	-	-	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	10%	
86	甕	-	-	2.3	ＡＢＣＥＨ	普	にぶい橙	25%	底面に木葉痕
87	甕	-	-	3.4	ＡＢＣＥ	普	にぶい橙	5%	底面に木葉痕
88	甕	-	-	4.0	ＡＢＣＥＨ	普	にぶい橙	10%	
89	甕	-	-	4.0	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	25%	
90	甕	-	-	3.6	ＡＢＣＤＥＨ	普	暗褐	15%	
91	甕	14.4	18.2	4.0	ＡＢＣＤＥＨ	普	にぶい橙	95%	底面に木葉痕
92	甕	21.4	35.8	3.0	ＡＢＣＤＥＨ	良	にぶい橙	95%	底面に木葉痕
93	甕	17.4	37.2	2.6	ＡＢＣＥＨ	普	橙	95%	
94	甑	22.2	29.2	10.0	ＡＢＣＥＨ	普	橙	40%	
95	須恵甕	-	-	-	ＡＣＦ	良	灰	-	
96	管玉	長 3.1	幅 0.4	厚 0.4	石材　碧玉				重さ　0.87 g
97	紡錘車	長 4.0	幅 4.0	厚 1.5	石材　滑石				重さ　39.45 g
98	編物石	長 14.2	幅 5.2	厚 3.8	石材　片岩				重さ　430 g
99	編物石	長 13.1	幅 5.3	厚 3.9	石材　砂岩				重さ　470 g
100	編物石	長 13.0	幅 5.9	厚 4.1	石材　砂岩				重さ　450 g
101	編物石	長 11.7	幅 6.1	厚 4.6	石材　砂岩				重さ　470 g
102	編物石	長 11.4	幅 5.6	厚 4.6	石材　安山岩				重さ　320 g
103	編物石	長 14.1	幅 5.4	厚 4.1	石材　チャート				重さ　510 g
104	編物石	長 12.3	幅 5.8	厚 4.7	石材　片岩				重さ　530 g
105	編物石	長 15.5	幅 6.4	厚 4.2	石材　砂岩				重さ　710 g
106	編物石	長 -	幅 5.9	厚 5.0	石材　砂岩				重さ　490 g
107	編物石	長 -	幅 5.5	厚 3.3	石材　砂岩				重さ　360 g
108	編物石	長 -	幅 4.2	厚 4.4	石材　砂岩				重さ　320 g
109	編物石	長 -	幅 4.8	厚 3.7	石材　砂岩				重さ　250 g
110	凹石	長 -	幅 9.6	厚 5.5	石材　安山岩				重さ　200 g
111	縄文土器	-	-	-	ＡＢＣＥＨ	不良	灰褐	-	ＬＲの縄文が施される
112	打製石斧	長 12.7	幅 6.1	厚 2.2	石材　ホルンフェルス				重さ　200 g

第４表　第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（３）



第 11 図　第 1 号竪穴建物跡出土遺物（4）



第 12 図　第 1 号竪穴建物跡出土遺物（5）

第 1 号竪穴建物跡出土遺物（第８～ 12 図、第２～４表）

図示できた遺物は 112 点である。1 ～ 94 は土師器で、1 ～ 11 は坏蓋模倣坏、12 ～ 17 は坏身模倣坏、18 ～ 39 は有段口縁坏、40 ～ 41 は暗文坏、42 ～ 51 は北武蔵型坏である。52 ～ 54 は高坏、55 ～ 58 は鉢、59 ～ 69 は壷、70 ～ 93 は甕、94 は甑である。95 は須恵器甕である。

96 は碧玉製の管玉である。長さ 3.1cm、幅 0.4cm を測り、径 1 mm の孔が穿たれる。97 は滑石製の紡錘車である。径 4.0cm、厚さ 1.5cm を測り、径５mm の孔が穿たれる。周縁に放射状の線刻が施される。98 ～ 109 は編物石である。

110 ～ 112 は縄文時代の遺物である。110 は凹石である。安山岩製で、両面及び側面に使用部が認められる。111 は縄文土器の口縁部資料である。112 は分銅型の打製石斧である。ホルンフェルス製で、全面に調整がなされる。

b　土　　坑

第１号土坑（第 13・14 図、第５表）

調査区南部に位置する。平面形は不整楕円形で、長径 173cm を測る。底面は平坦で、確認面からの深さは 14cm である。

出土遺物はやや多く、図示できた遺物は、第 14 図１～７である。１～３は坏、４は坩、５は甑、６～７は甕である。

古墳時代中期の所産と思われる。

第２号土坑（第 13 図）

調査区北西部に位置し、北半は調査区外にある。平面形は長方形と思われ、短軸 57cm を測る。底面は平坦で、確認面からの深さは 24cm である。

図示できる遺物は出土しなかった。

第３号土坑（第 13 図）

調査区北部に位置し、北部は調査区外にある。平面形は溝状で、短軸 46cm を測る。底面は平坦で、確認面からの深さは 21cm である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面からの深さ 28cm のピットが１基確認された。

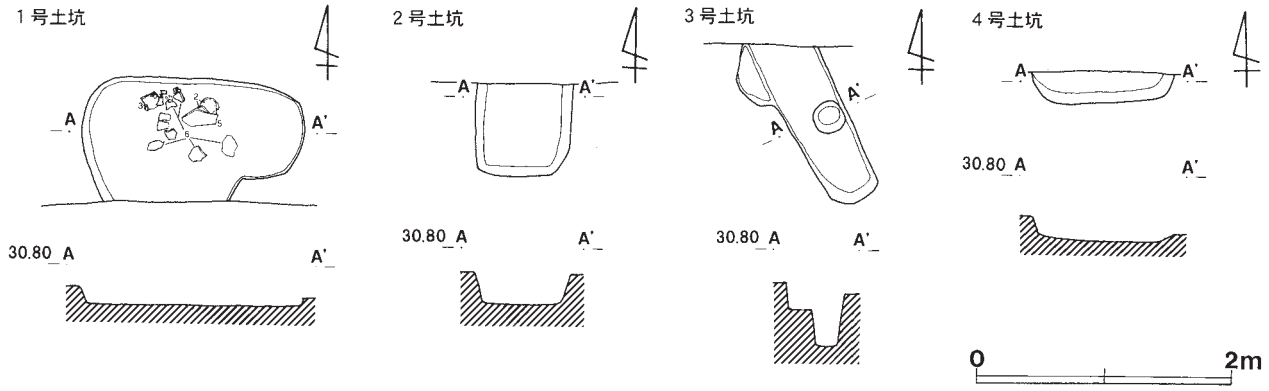
図示できる遺物は出土しなかった。

第４号土坑（第 13 図）

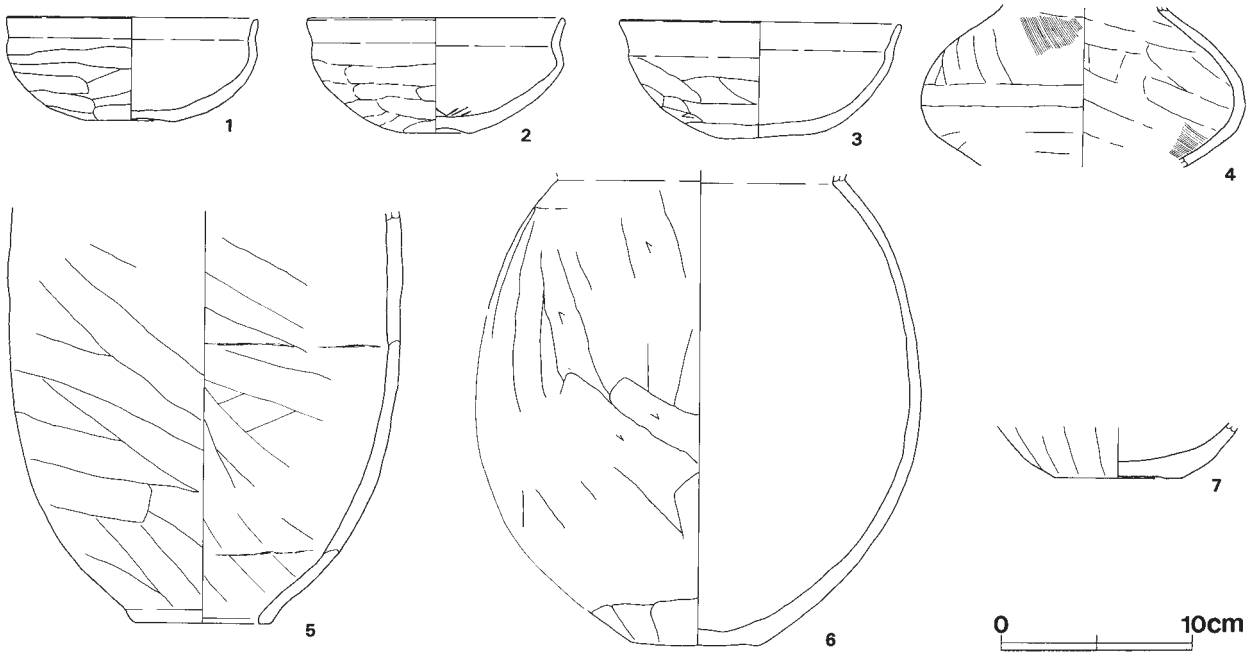
調査区北部に位置し、北部は調査区外にある。平面形は不明で、一辺 120cm を測る。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さ 30cm を測る。

図示できる遺物は出土しなかった。

第１号竪穴建物跡調査風景



第 13 図　土坑実測図



第 14 図　第 1 号土坑出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	坏	(13.0)	5.4	(4.8)	A B C E	良	赤橙	50%	
2	坏	13.4	6.0	3.8	A B C	良	赤橙	90%	
3	坏	(14.6)	6.0	4.8	A B C D E	普	橙	80%	
4	壷	-	-	-	A B C D E	普	赤橙	25%	ハケメがわずかに観察できる。
5	甑	-	-	(7.0)	A B C D E	普	橙	25%	
6	甕	-	-	6.7	A B C E F H	普	橙	30%	
7	甕	-	-	6.7	A B C D E H	普	橙	5%	

第５表　第１号土坑出土遺物観察表

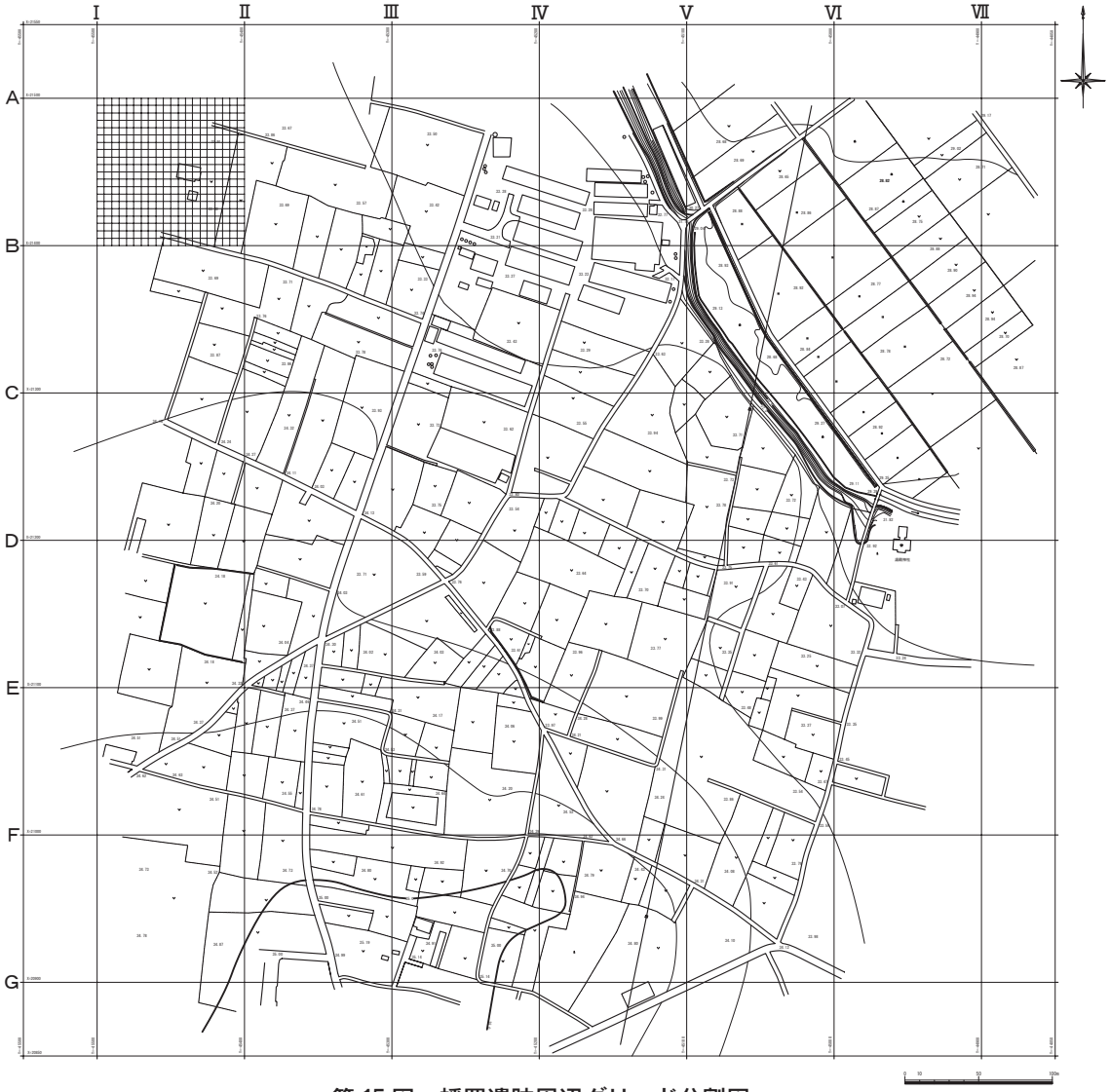
Ⅳ　森吉古墳・下郷遺跡

1　遺跡の概要

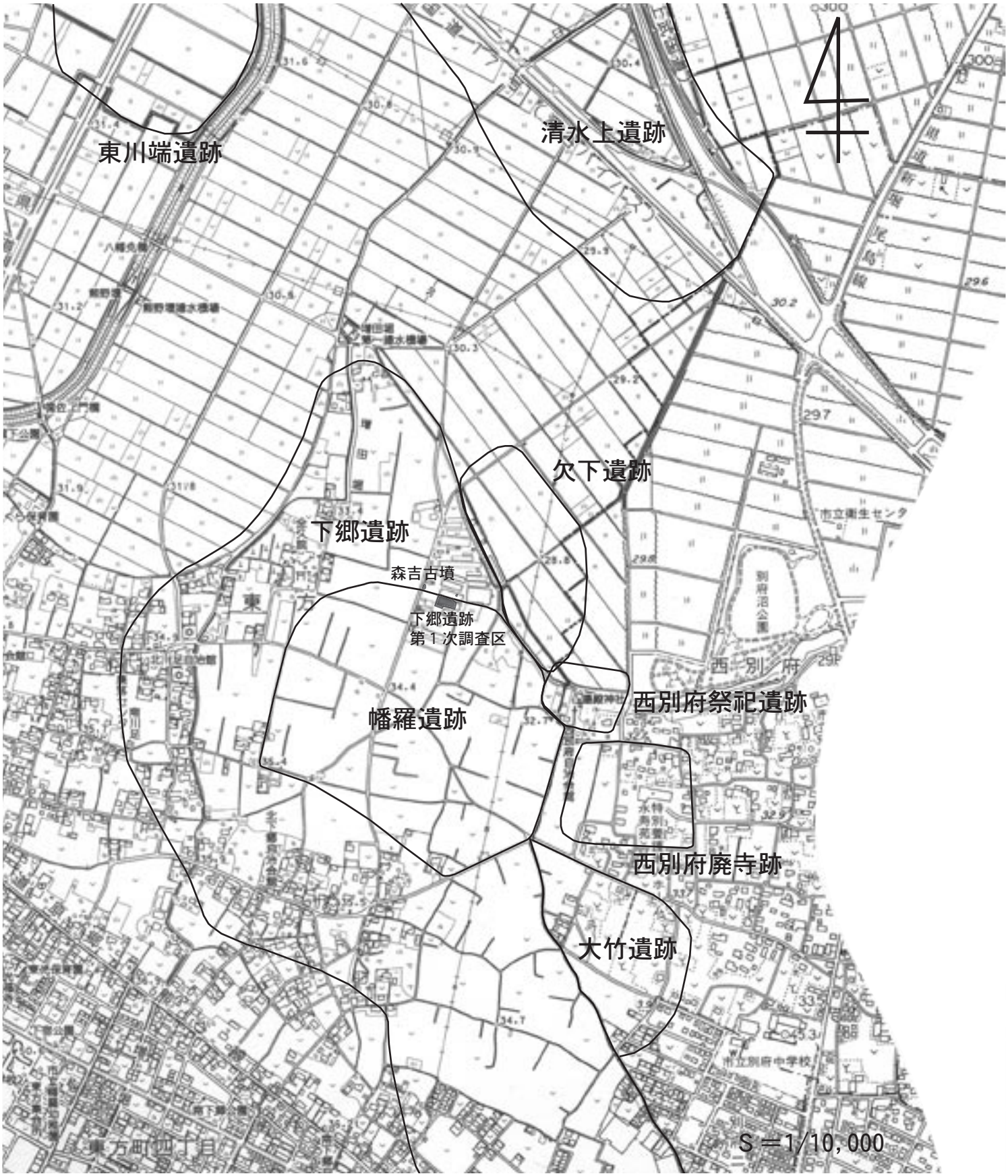
両遺跡は、熊谷市との境に位置する。下郷遺跡は約970,000㎡に及ぶ広大な遺跡であり、台地の先端に築かれる古墳群は、深谷市原郷から分布する木の本古墳群の東端である。

古墳群の南には、７世紀後半～末頃に評家が建設され、10世紀前半まで維持される。評・郡家跡の幡羅遺跡と下郷遺跡とは重なり合ったものであり、おおよその郡家域について幡羅遺跡として扱っている。

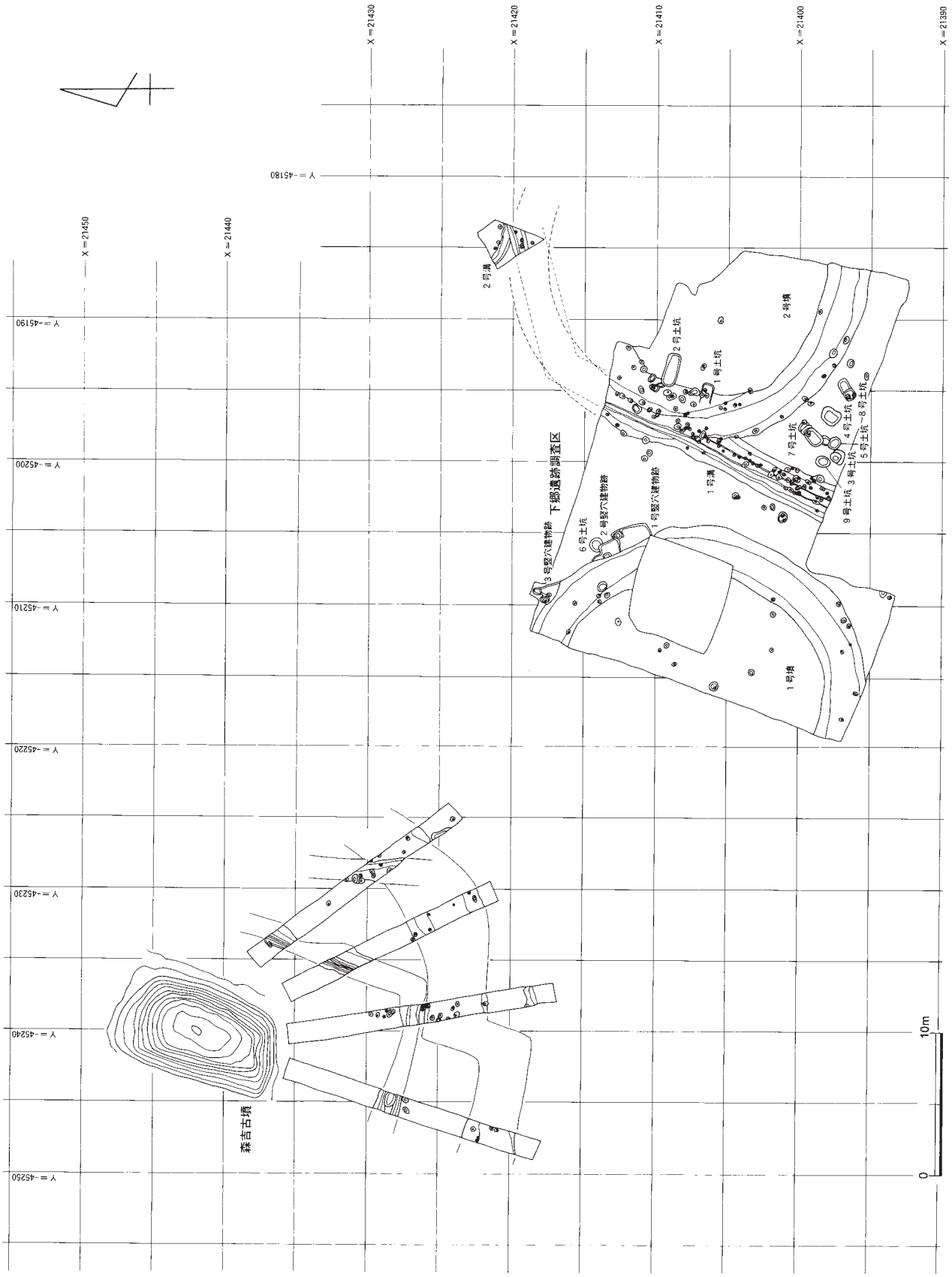
今回報告する森吉古墳及び下郷遺跡については、幡羅遺跡が発見される以前の調査であり、調査時には一部が郡家域に含まれていることなど予想だにしていなかったが、下郷遺跡で検出された第１号溝は正倉院の区画溝であった可能性も考えられる。そのため、報告に際しては、幡羅遺跡の調査との整合性を図るため、共通のグリッドを用いることとする。グリッドは、100×100ｍの大グリッドを設定し、内部を５×５ｍの小グリッドに分割した。小グリッドは、北西隅から平行式に１～400と呼称した。



第15図　幡羅遺跡周辺グリッド分割図



第 16 図　森吉古墳・下郷遺跡の位置と発掘調査区



第 17 図　森吉古墳・下郷遺跡全体測量図

２　森吉古墳

Ａ－Ⅲ－211～Ａ－Ⅲ－335グリッドに位置する。墳丘は西側を道路により切られる等するが、長軸約12.2ｍ、短軸約6.5ｍ、高さ約1.2ｍが残存している。墳頂部には現在、稲荷様が祀られ、地元では「トオカキ」と呼ばれている。調査では、残存する墳丘の南～南東に幅約1.6ｍのトレンチを４本設定した。確認された遺構は、溝３条、土坑２基である。

ａ　検出遺構

第１号溝（第18～19図）

第１号溝は幅約3.7～5.4ｍ、確認面からの深さは約0.4～0.8ｍを測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。東部で第２号溝に切られる。形態から、森吉古墳の周堀と思われる。森吉古墳は墳丘径約32ｍの造り出し付き円墳、或いは帆立貝形古墳と推定される。古墳に伴う可能性のある遺物は非常に少ないので、古墳の時期は不明である。

第２号溝（第18～19図）

第２号溝はＡトレンチで確認され、第１号溝を切る。幅約1.6ｍ、断面形は椀形で、確認面からの深さは80cmを測る。

図示できる遺物は出土しなかったが、馬と思われる獣骨が多く出土した。遺構の時期は中世と推定される。

第３号溝（第18～19図）

第３号溝は幅約1.8ｍ、確認面からの深さ約24cmで、中央付近が更に８cm程深くなる。墳丘部を囲むように方形に巡っている。図示できなかったが、出土遺物から近世の所産と思われる。墳頂部の稲荷祠を区画する溝として捉えられようか。

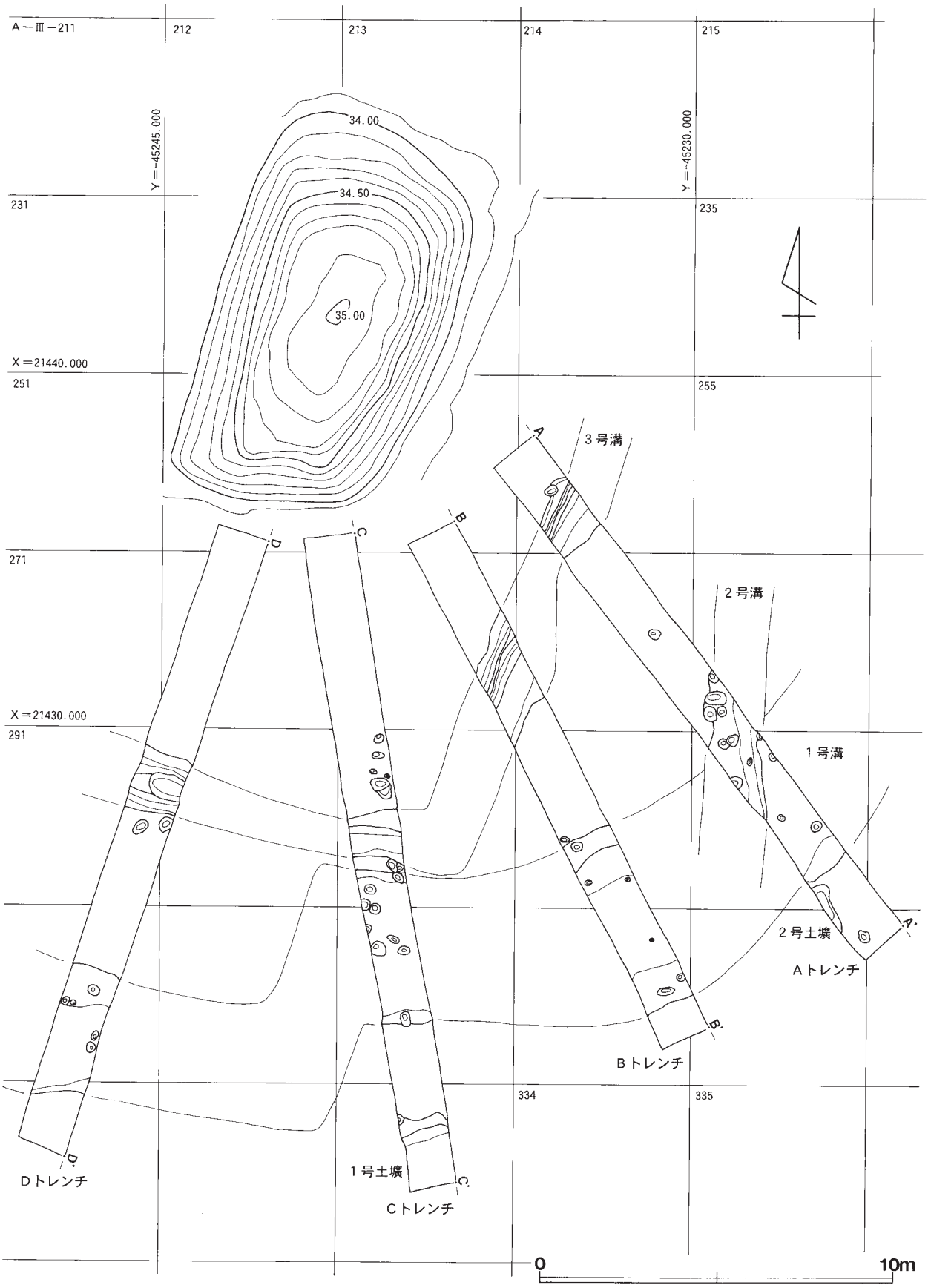
第１号土坑（第18～19図）

第１号土坑は、Ｃトレンチ南端部で確認された。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。第２号土坑はＡトレンチ南部で確認された。確認面からの深さは88cmを測る。

ｂ　出土遺物

図示できた遺物は、第20図１～12である。１～８は第１号溝出土である。１は剥片で、長さ11.6cm、幅5.0cm、厚さ2.8cmを測る。石材は砂岩である。２～３は円筒埴輪である。２は口縁部資料で、焼成は良好、色調は赤褐色を呈する。外面はナナメタテハケ、内面はナナメハケが施される。ハケメは７本／２cmである。胎土には白・赤色粒、石英、角閃石、砂礫を含む。３は焼成は良好、色調はにぶい褐色を呈する。外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。ハケメは６本／２cmである。突帯はＭ字形で、胎土には白・赤・黒色粒、砂礫を含む。４は須恵器蓋である。推定口径20.0cmを測り、焼成は不良、色調は灰色を呈する。胎土に白・赤・黒色粒、片岩、砂礫を含む。残存率は20％である。５は須恵器甕である。焼成は良好、色調は青灰色を呈する。胎土には白・黒色粒、片岩、砂礫を含む。６はロクロ土師器の小皿である。推定底径6.2cmを測り、焼成は普通、色調は浅黄色を呈する。胎土には白・黒色粒、角閃石を含む。残存率は15％である。７はロクロ土師器の高台椀である。底径5.0cmを測り、焼成は普通、色調は橙色を呈する。胎土には白・黒色粒、角閃石を含む。残存率は40％である。８は硬質陶器の鉢である。焼成は良好、色調はにぶい赤褐色を呈する。胎土に白・黒色粒、砂礫を含む。第１号溝は森吉古墳の周堀である可能性が高いが、明らかに後世の遺物が多く混入する状況である。

９は第１号土坑出土の土師器甕である。底径は9.5cmを測り、焼成は普通、色調は黒褐色を呈する。胎土には白・黒色粒、角閃石、砂礫を含む。残存率は30％である。

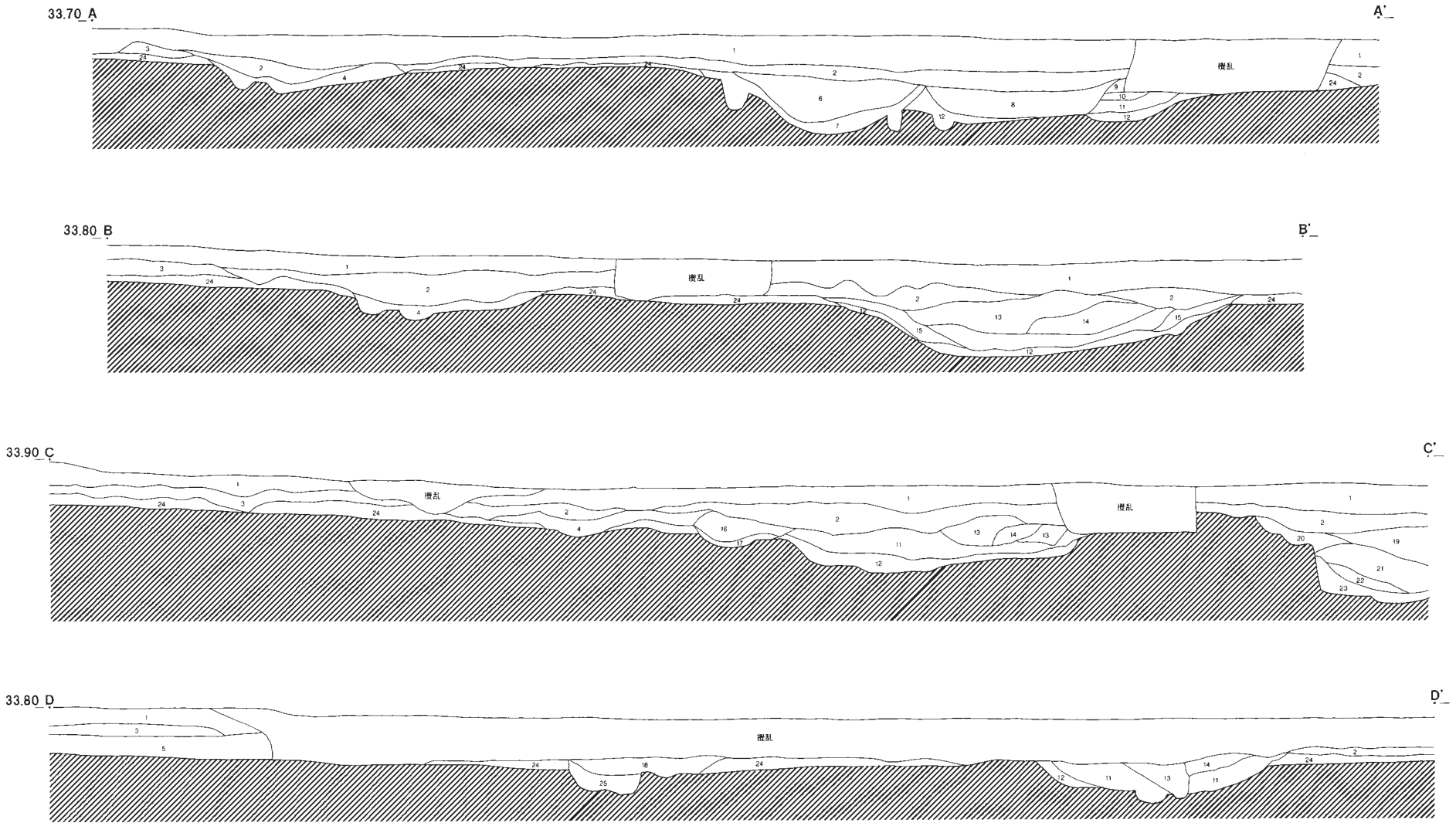


第18図　森吉古墳全体測量図

10 ～ 12 は表採資料である。10 は円筒埴輪の口縁部資料で、焼成は良好、色調は赤褐色を呈する。外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。ハケメは 21 本／２cm である。胎土には白・赤・黒色粒、片岩、砂礫を含む。11・12 はロクロ土師器の小皿である。11 は推定底径 6.0cm を測り、焼成は普通、色調は浅黄橙色を呈する。胎土には白・赤・黒色粒、角閃石を含む。残存率は 20％である。12 は推定底径 6.0cm を測り、焼成は普通、色調はにぶい黄橙色を呈する。胎土には白・赤・黒色粒、角閃石を含む。残存率は 15％である。

森吉古墳現況

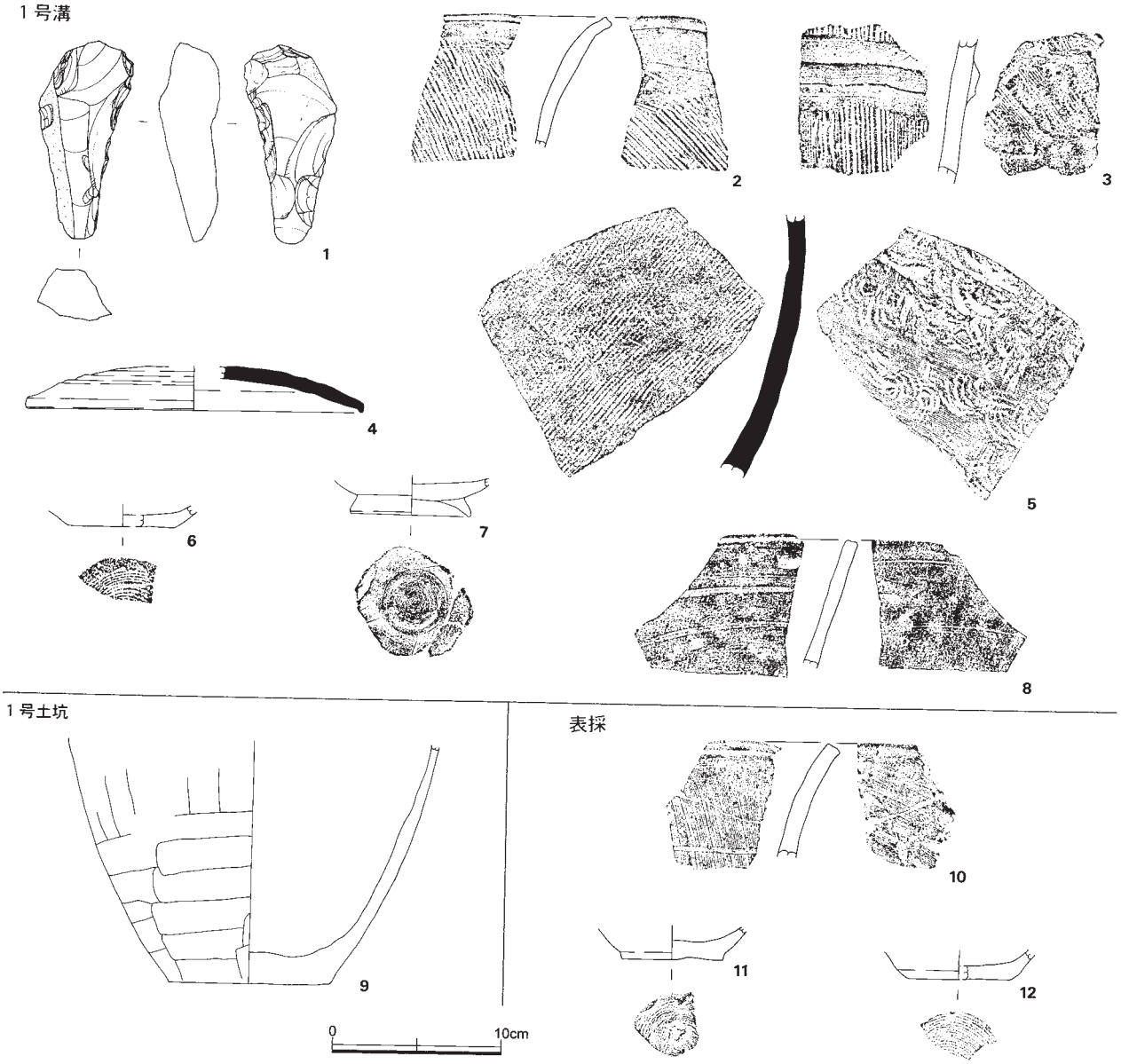
第１号溝獣骨出土状況



1 層　暗灰褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2 層　暗褐色土　ローム粒、焼土粒、炭化粒をわずかに含む。
3 層　黒色土　ローム粒をわずかに含む。粘性が強い。
4 層　暗黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを多量に含む。締まりが弱い。
5 層　灰褐色土　ロームブロックを少し含む。締まりが弱い。
6 層　暗茶褐色土　ローム粒を多く含む。締まりが弱い。
7 層　暗黄褐色土　ローム粒を多く含む。締まり弱い。
8 層　暗茶褐色土　ローム微粒をわずかに含む。粘性が強い。
9 層　暗黄白色土　ロームを多く含む。締まりが強い。
10 層　暗黄褐色土　ロームで構成される。硬く締まる。
11 層　黒褐色土　ローム粒、炭化粒をわずかに含む。締まり、粘性が強い。
12 層　茶褐色土　ロームを多く含む。
13 層　黄褐色土　ロームで構成される。炭化粒を含む。
14 層　黄褐色土　ロームで構成される。硬く締まる。
15 層　暗灰褐色土　ローム粒、暗灰色土ブロックを含む。
16 層　暗灰褐色土　ローム粒をわずかに含む。締まりが弱い。
17 層　暗黄褐色土　ロームを多量に含む。
18 層　暗黄白色土　ローム粒、炭化粒をやや多く含む。
19 層　黒褐色土　ローム粒、焼土粒を少し含む。
20 層　暗黄白色土　ロームを多く含む。締まりが弱い。
21 層　茶褐色土　ローム粒を多く含む。
22 層　暗茶褐色土　ローム粒をやや多く含む。
23 層　暗黄褐色土　ローム粒、ロームブロックを多く含む。
24 層　暗黄褐色土　ロームを主体とする。
25 層　暗黄褐色土　ローム粒、炭化粒を多く含む。

0　5m

第 19 図　森吉古墳土層断面図



第 20 図　森吉古墳出土遺物

第 1 号溝出土獣骨

３　下郷遺跡

Ａ－Ⅲ－338～Ｂ－Ⅳ－23グリッドに位置する。確認された主な遺構は、古墳跡２基、竪穴建物跡３棟、溝２条、土坑９基である。古墳跡はいずれも円墳で、周堀のみ確認された。竪穴建物跡は第１号墳の墳丘に沿うように、周堀上に構築されている。これらの竪穴建物跡が造られる段階には、墳丘は残っていた可能性が高い。第１号溝については、他で述べたように、幡羅郡家正倉の区画溝である可能性が考えられる。第２号墳の墳丘に沿うように周堀を切って走るため、第１号溝が造られる段階には墳丘が残っていた可能性が高い。土坑は、遺物がほとんど出土しなかったが、大部分は中世の所産と思われる。

ａ　古 墳 跡

第１号墳（第21～23図）

調査区西半に位置し、西半部は調査区外にある。墳丘は遺存しておらず、周堀のみ確認された。墳丘径南北約18ｍの円墳である。第１～３号竪穴建物跡は、周堀が埋没後に重複して造られる。墳丘を取り囲むように造られていることから、墳丘は竪穴建物が造られる段階には残っていたものと推測される。

周堀の幅は約３ｍ、断面形は逆台形で、壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは50～80cmを測る。

古墳の時期は、６世紀前半と推定される。

第１号墳出土遺物（第24～37図、第６～14表）

円筒埴輪は第24～31図に示した。ほとんどは２条突帯３段構成であるが、第24図１、第25図14、第26図17は３条突帯４段構成である。口径は21～30.8cmを測る。透孔は、半円形の第24図５を除き、径７～９cmの円形が占める。第24図４の外面には、「×」の線刻が施される。また、第24図５、第25図10、第28図41、第30図64、65には、斜めの線刻が施される。外面調整は、５～17本／２cmのハケメによるが、第27図35、第31図73は板ナデによる。朝顔形埴輪は第29図46～52である。46は透かし孔が半円形で、やはり半円形の小型透孔を持つ。

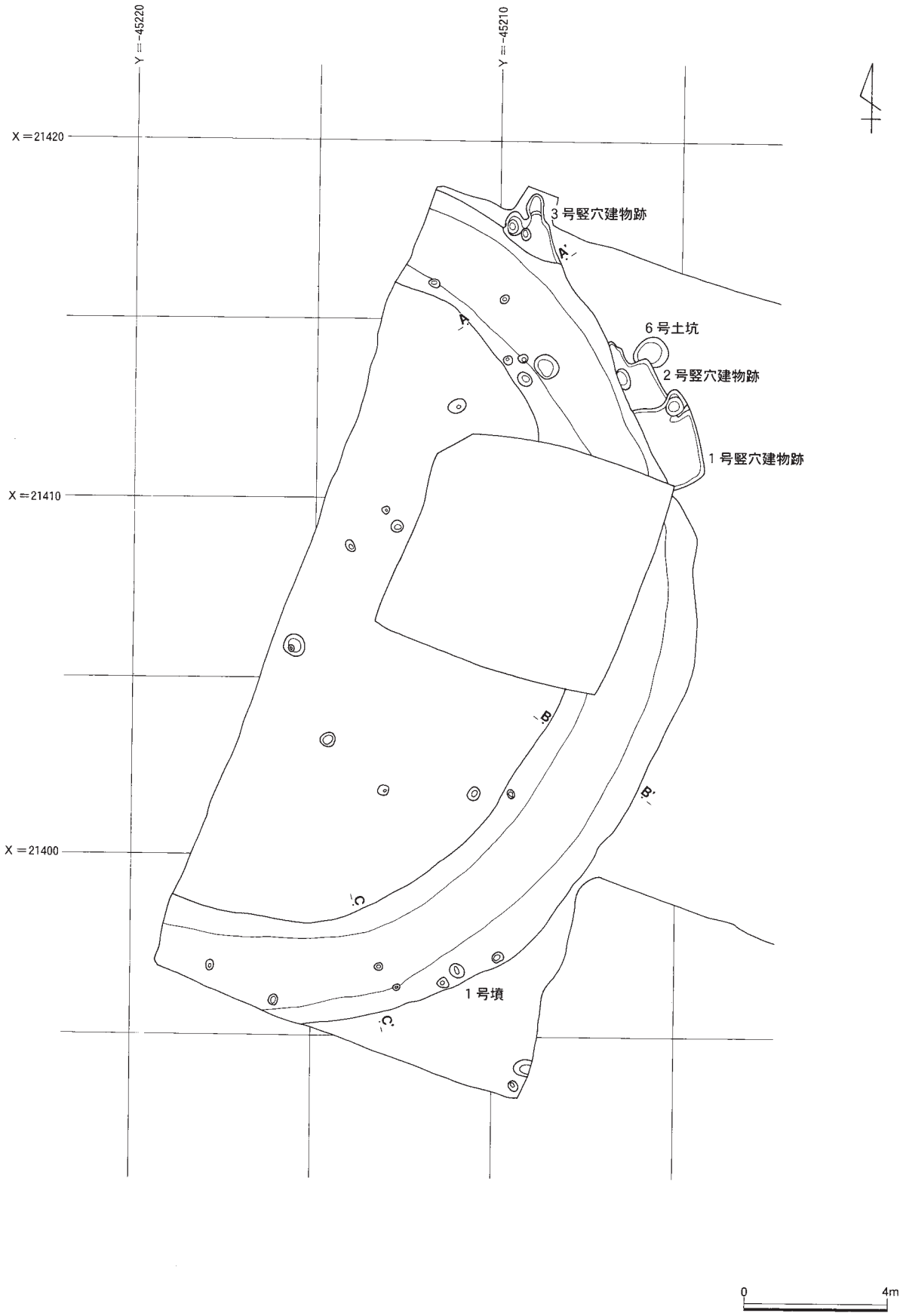
形象埴輪は人物、靫、馬、大刀が出土した。第32図75～第34図80は人物埴輪である。第32図75は被り物を被った男子である。目と口はほぼ水平に切り込まれ、眉はわずかな盛り上がりで表現される。鼻と美豆良、胴上半部は欠損する。第33図76は島田髷の女子頭部である。髷は両端が欠損する。目は両端がやや下がり気味に切り込まれ、眉はわずかに盛り上がる。鼻は眉から伸びて大きく隆起する。口は小さく切り込まれる。耳には円孔をあけ、耳飾と思われる表現がされる。顔面は赤彩される。77は被り物を被った男子頭部である。目は両端がやや下がり気味に切り込まれ、眉はわずかに盛り上がる。鼻は眉から伸びて台形に作られる。口は小さく切り込まれる。耳は円孔をあけ、美豆良は欠損する。第33図78・79、第34図80は人物埴輪の台部である。

第34図81は靫形埴輪である。背負い紐が表現される。第35図82～84は馬形埴輪である。82は胴部で、鞍、タテガミ、手綱、鐙、鈴や杏葉等が確認される。83は鈴、84は鞍の一部と思われる。第36図85は大刀であろうか。透孔は径約３cmと小さい。

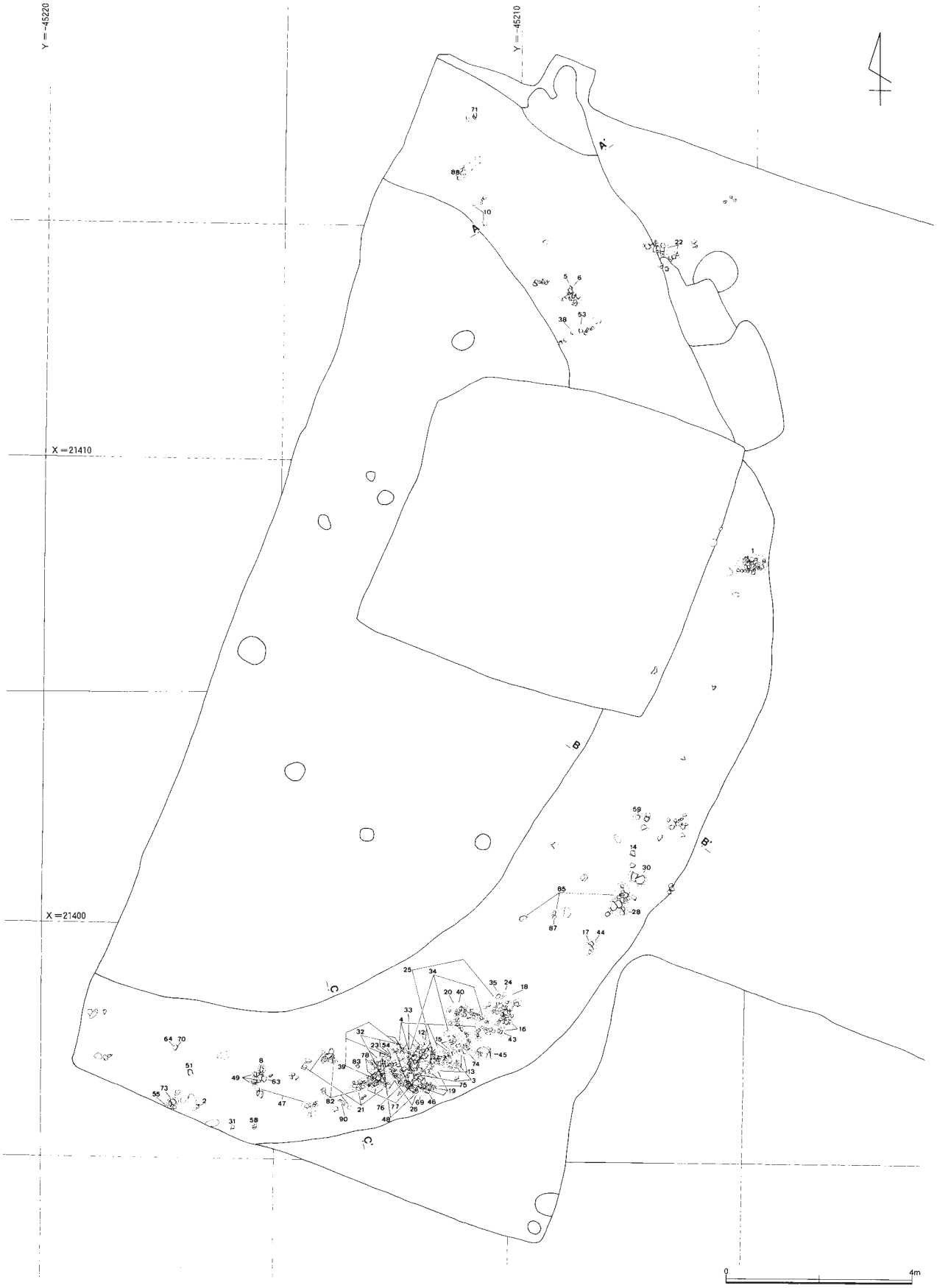
第37図86～93は埴輪以外の遺物である。86～88は須恵器で、86は瓶、87・88は甕である。89はロクロ土師器の高台椀、92は鎌である。91～92は縄文土器、93は打製石斧である。91は阿玉台式土器である。

第２号墳（第38～40図）

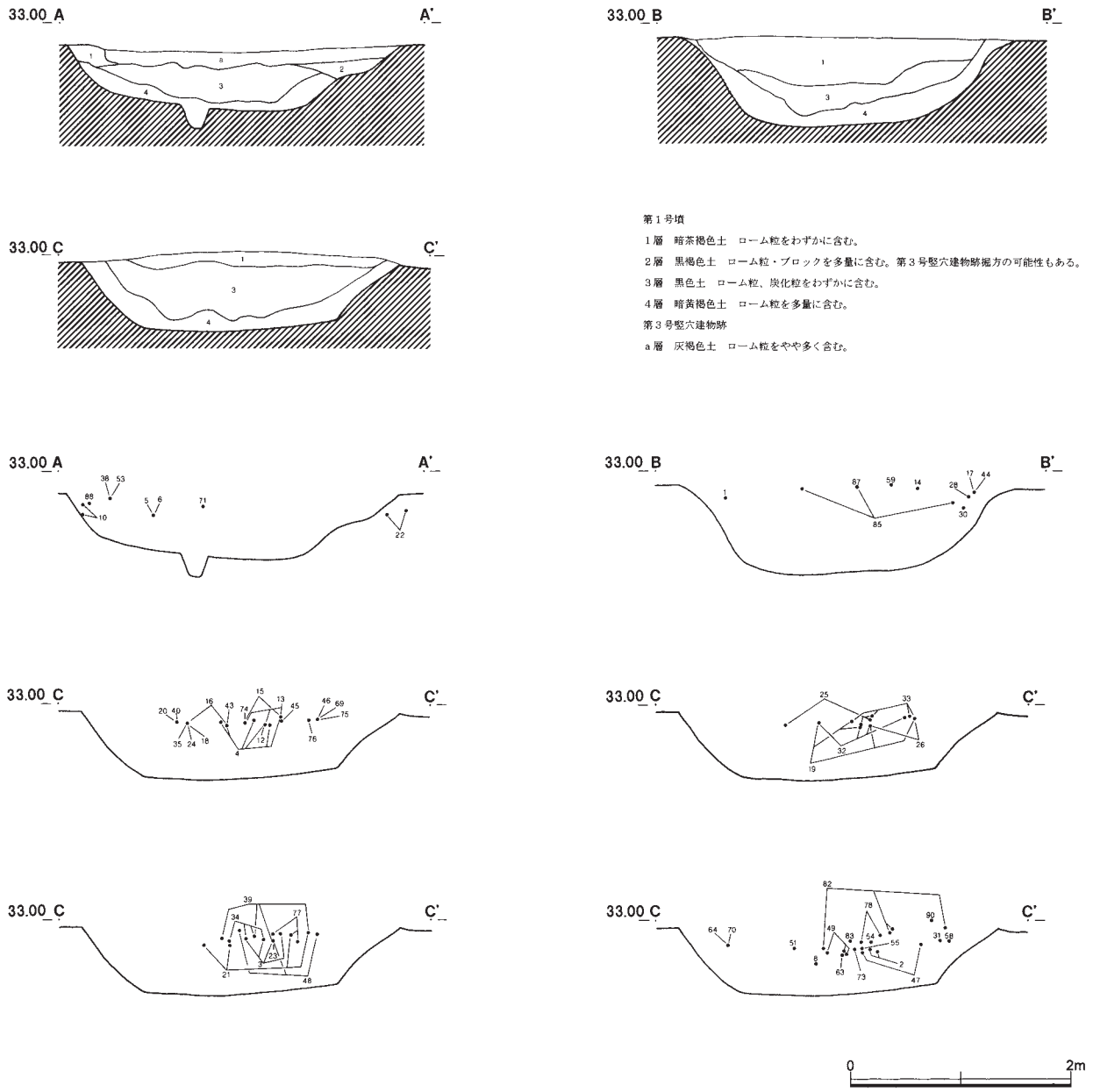
調査区東半に位置し、東半部及び北部は調査区外にある。調査区外は豚の糞尿による攪乱がやや激しい。墳丘は遺存しておらず、周堀のみ確認された。墳丘径南北約19.2ｍの円墳である。周堀は第１号溝に、墳丘の裾部は第１・２号土坑に切られる。北西部は、第１


Y＝-45220
Y＝-45210
X＝21420
X＝21410
X＝21400
3 号竪穴建物跡
6 号土坑
2 号竪穴建物跡
1 号竪穴建物跡
1 号墳
A
A'
B
B'
C
C'
0
4m

第 21 図　第 1 号墳



第 22 図　第 1 号墳遺物出土状況



第23図　第１号墳断面図

号溝が周堀とほぼ同位置に造られている状況である。

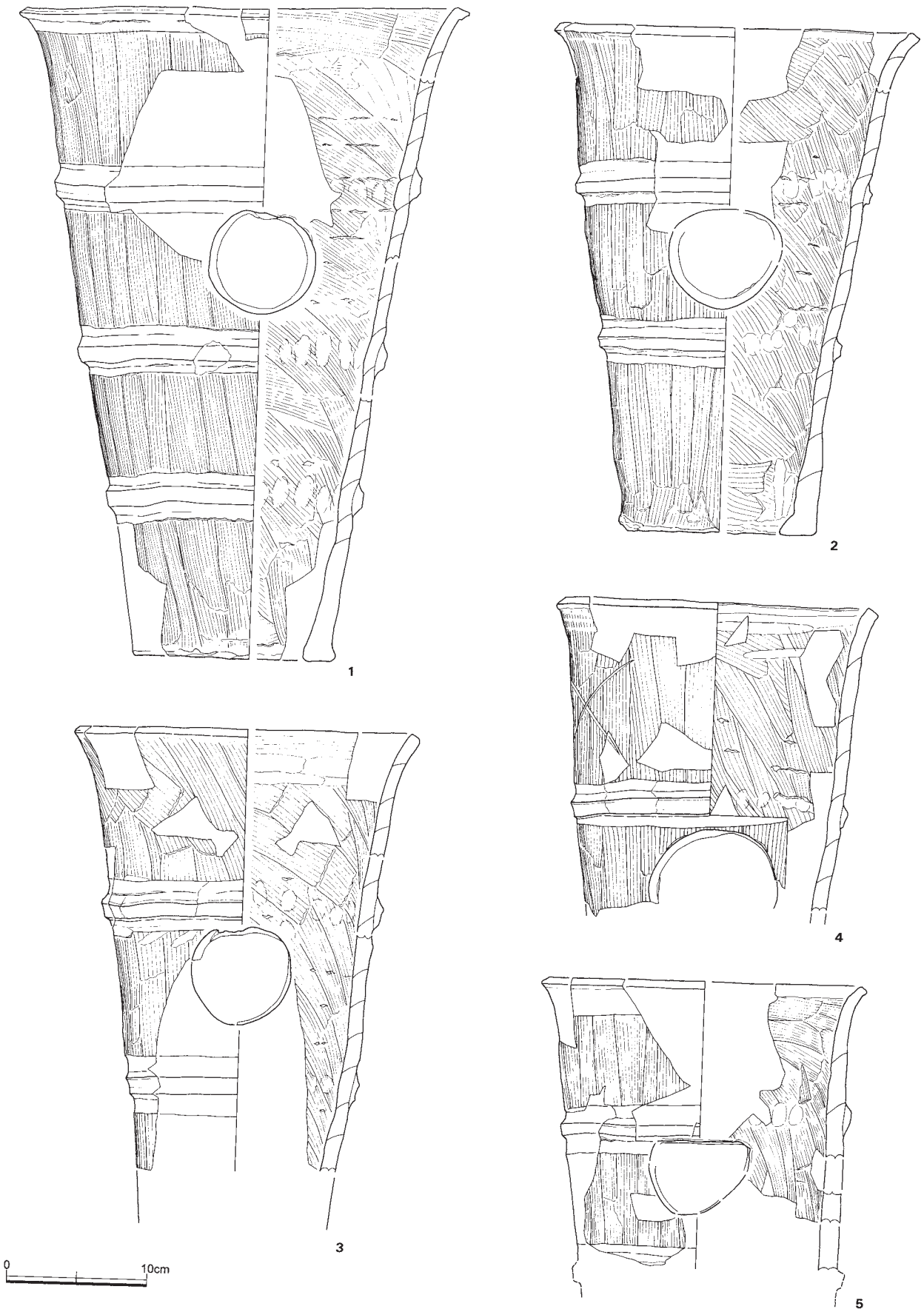
周堀の幅は約３m、断面形は逆台形で、壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは65～85cmを測る。

古墳の時期は、６世紀前半と推定される。

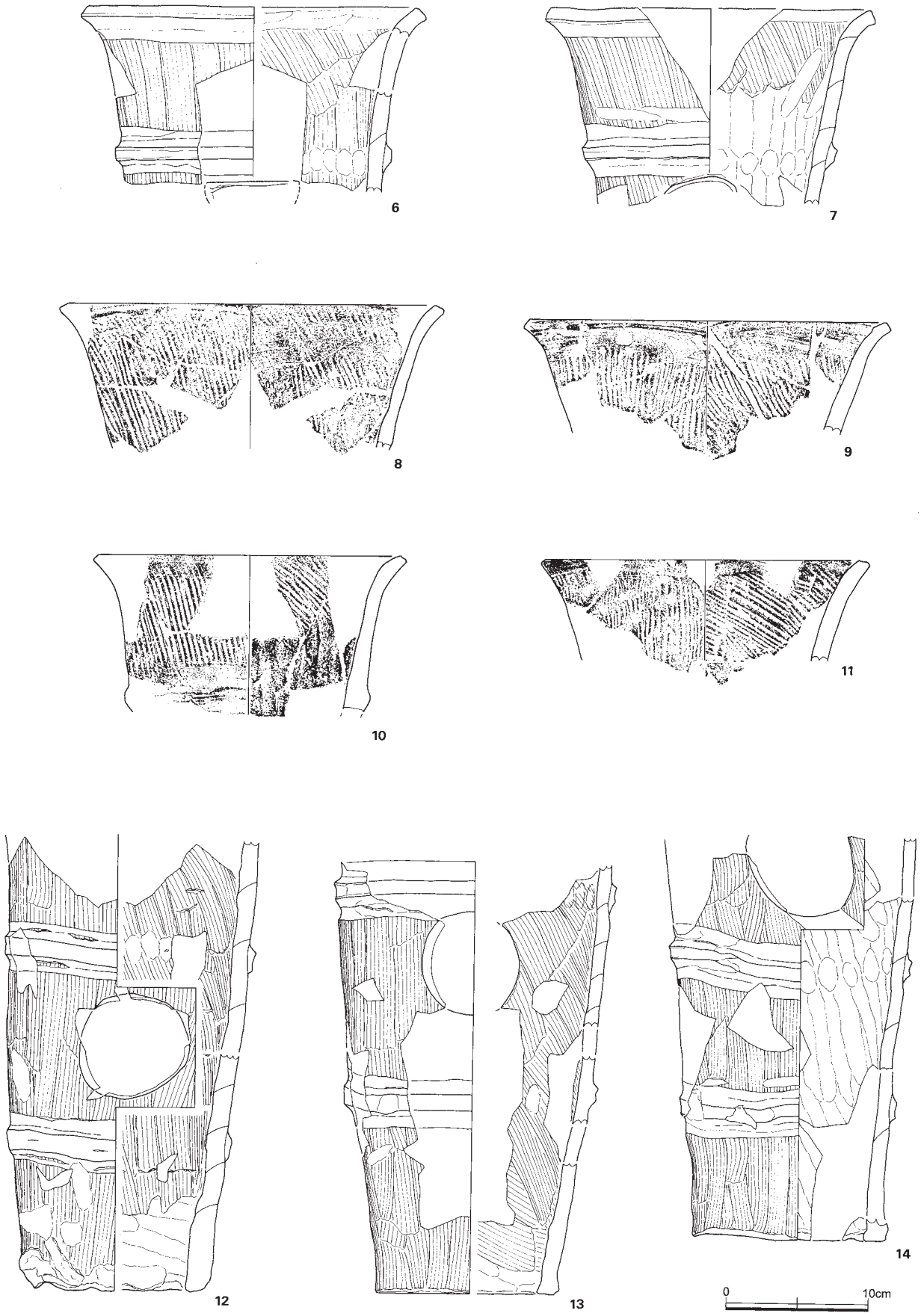
第２号墳出土遺物（第41～48図、第15～20表）

円筒埴輪は第41～44図に示した。ほとんどは２条突帯３段構成であるが、第41図１は３条突帯４段構成である。口径は21～31.6cmを測る。透孔は、半円形の第41図３を除き、径６～８cmの円形が占める。第41図５は口縁部内面に縦の線刻が２本、第42図７は内面に縦の線刻が４本施される。外面調整は６～18本／２cmのハケメによる。朝顔形埴輪は第43図16～22である。16・17は透孔があり、いずれも半円形である。

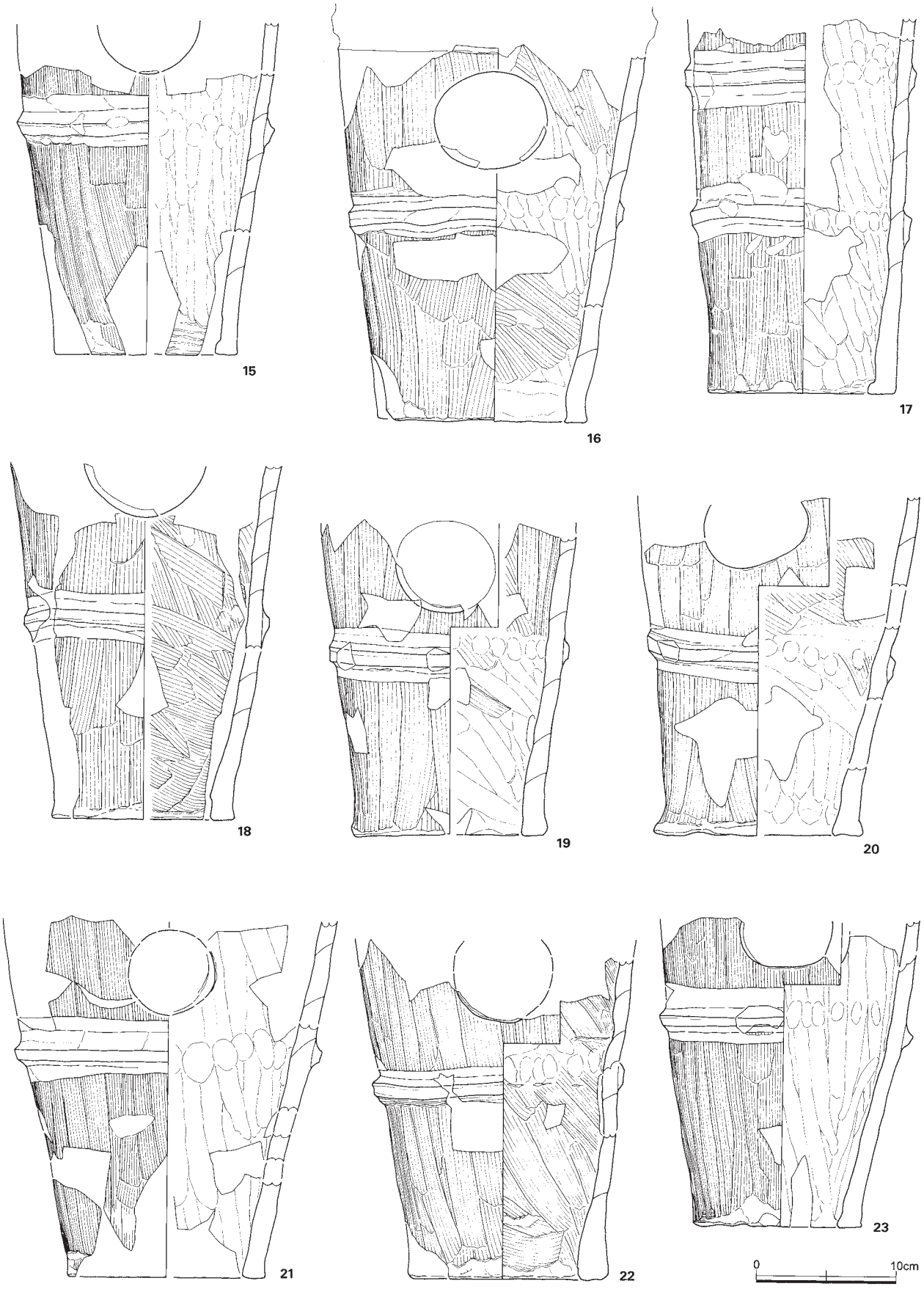
形象埴輪は靫、家、人物、大刀、馬等が出土した。第



第 24 図　第 1 号墳出土円筒埴輪（1）



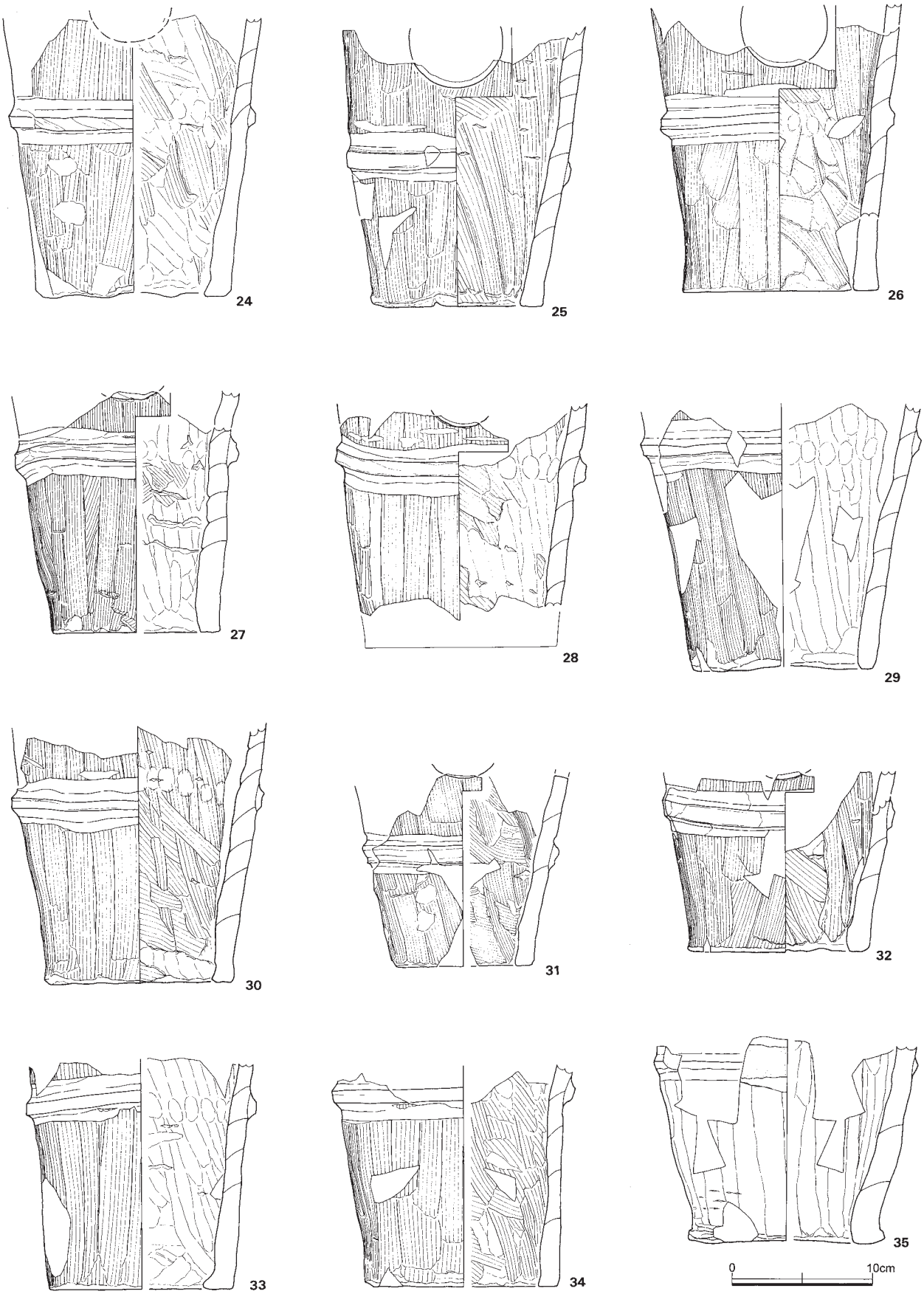
第 25 図　第 1 号墳出土円筒埴輪（2）



第 26 図　第 1 号墳出土円筒埴輪（3）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
1	円筒	口（30.8） 底 14.0 高 46.0	① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	70%	
2	円筒	口（24.8） 底 13.8 高 36.0	① ＡＢＣＨＩ ② 橙 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	70%	
3	円筒	口（23.6）	① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・普通	M字形	7	外面はナナメタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
4	円筒	口 21.5	① ＡＢＣＨ ② 赤褐 ③ 普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	40%	外面に「×」の線刻が施される。
5	円筒	口（22.0）	① ＡＢＣＨＩ ② 赤褐 ③ 良好・普通	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメタテヨコハケが施される。	60%	内面に縦・斜め方向の線刻が施される。
6	円筒	口（23.2）	① ＡＢＣＥ ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	15%	
7	円筒	口（22.0）	① ＡＢＣＥ ② にぶい橙 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	15%	
8	円筒	口（28.0）	① ＡＢＣＤ ② にぶい橙 ③ 普通・普通		6	内外面共タテハケが施される。	10%	
9	円筒	口（25.0）	① ＡＢＤＨ ② 橙 ③ 普通・軟質		7	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	5%	
10	円筒	口（21.0）	① ＡＢＣＥ ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	20%	外面に斜めの線刻が２本施される。
11	円筒	口（21.6）	① ＡＢＣＥＨ ② にぶい赤褐 ③ 普通・軟質		8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	5%	
12	円筒	底 12.0	① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通	低台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケ、ヨコナデが施される。	60%	
13	円筒	底 12.7	① ＡＢＣＤＨ ② 橙 ③ 良好・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	60%	
14	円筒	底 13.5	① ＡＣＨ ② 赤灰 ③ 良好・硬質	M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメタテナデが施される。	60%	
15	円筒	底（13.0）	① ＡＢＣＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通	三角形	13	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	40%	
16	円筒	底 14.8	① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケ、ナナメナデが施される。	40%	
17	円筒	底 13.2	① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテナデが施される。	50%	
18	円筒	底（13.0）	① ＡＢＣＤＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	60%	
19	円筒	底（13.4）	① ＡＢＣＨ ② 赤褐 ③ 普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケ、ナナメナデが施される。	25%	

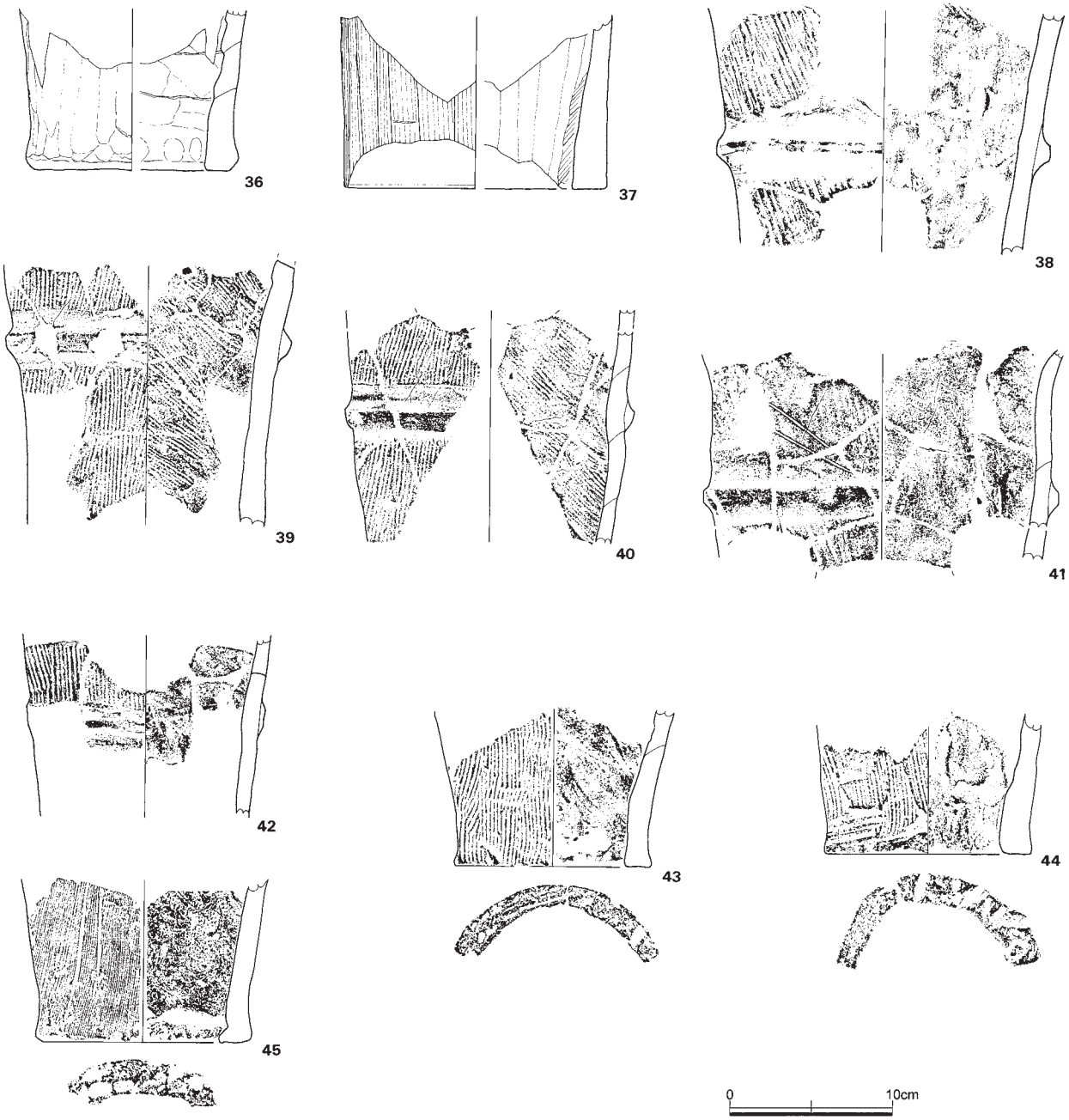
第６表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（１）



第 27 図　第 1 号墳出土円筒埴輪（4）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
20	円筒	底 14.8	① ＡＢＣＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	50%	
21	円筒	底（14.0）	① ＡＢＣＤＥＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通	台形	16	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	50%	
22	円筒	底 13.8	① ＡＢＣＤＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
23	円筒	底 12.0	① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・普通	三角形	16	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	50%	
24	円筒	底（13.0）	① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	40%	
25	円筒	底 12.0	① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通	台形	9	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	50%	
26	円筒	底 13.8	① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
27	円筒	底 12.0	① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通	台形	17	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナデが施される。	30%	
28	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	25%	
29	円筒	底 12.6	① ＡＢＣＤＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	14	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	25%	
30	円筒	底（13.4）	① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	30%	
31	円筒	底 9.6	① ＡＣＤＨ ② 赤褐 ③ 良好・硬質	M字形	14	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	20%	
32	円筒	底 12.8	① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	低台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	20%	
33	円筒	底 13.0	① ＡＢＣＤＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメナデが施される。	25%	
34	円筒	底（13.7）	① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	25%	
35	円筒	底（14.0）	① ＡＢＣＦＨＩ ② 明赤褐 ③ 普通・軟質	台形		内外面共タテナデが施される。	20%	
36	円筒	底 12.0	① ＡＢＣＤＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通			外面はタテナデ、内面はヨコナデが施される。	20%	
37	円筒	底（16.0）	① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通		7	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	10%	
38	円筒		① ＡＢＣＤ ② にぶい赤褐 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	10%	

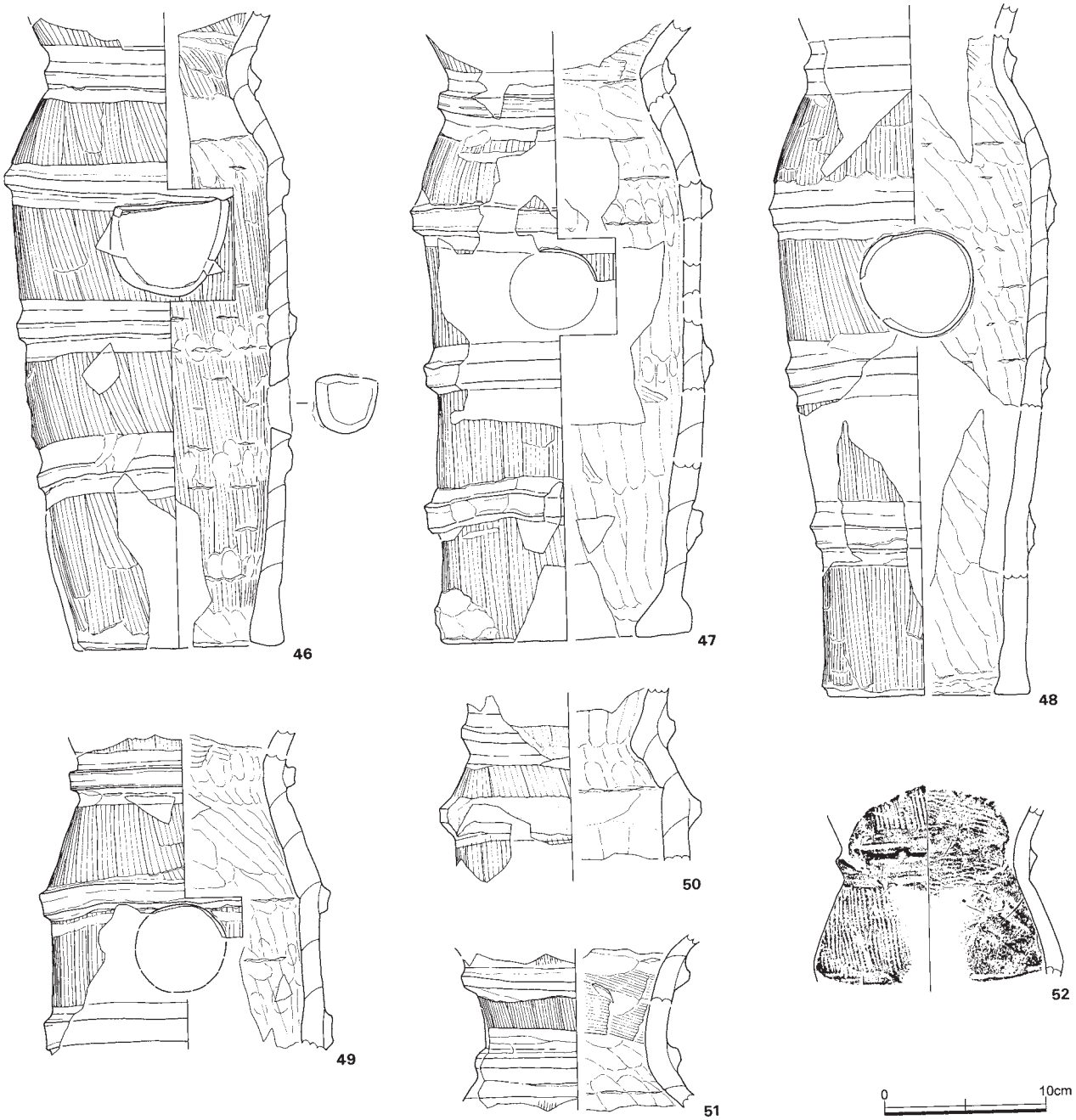
第７表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（２）



第 28 図　第１号墳出土円筒埴輪（５）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
39	円筒		① ＡＢＣＤＥＨ ② 赤褐 ③ 普通・普通	台形	9	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	10%	
40	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	25%	
41	円筒		① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 不良・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	15%	磨耗が激しい。外面に斜めの線刻が２本施される。

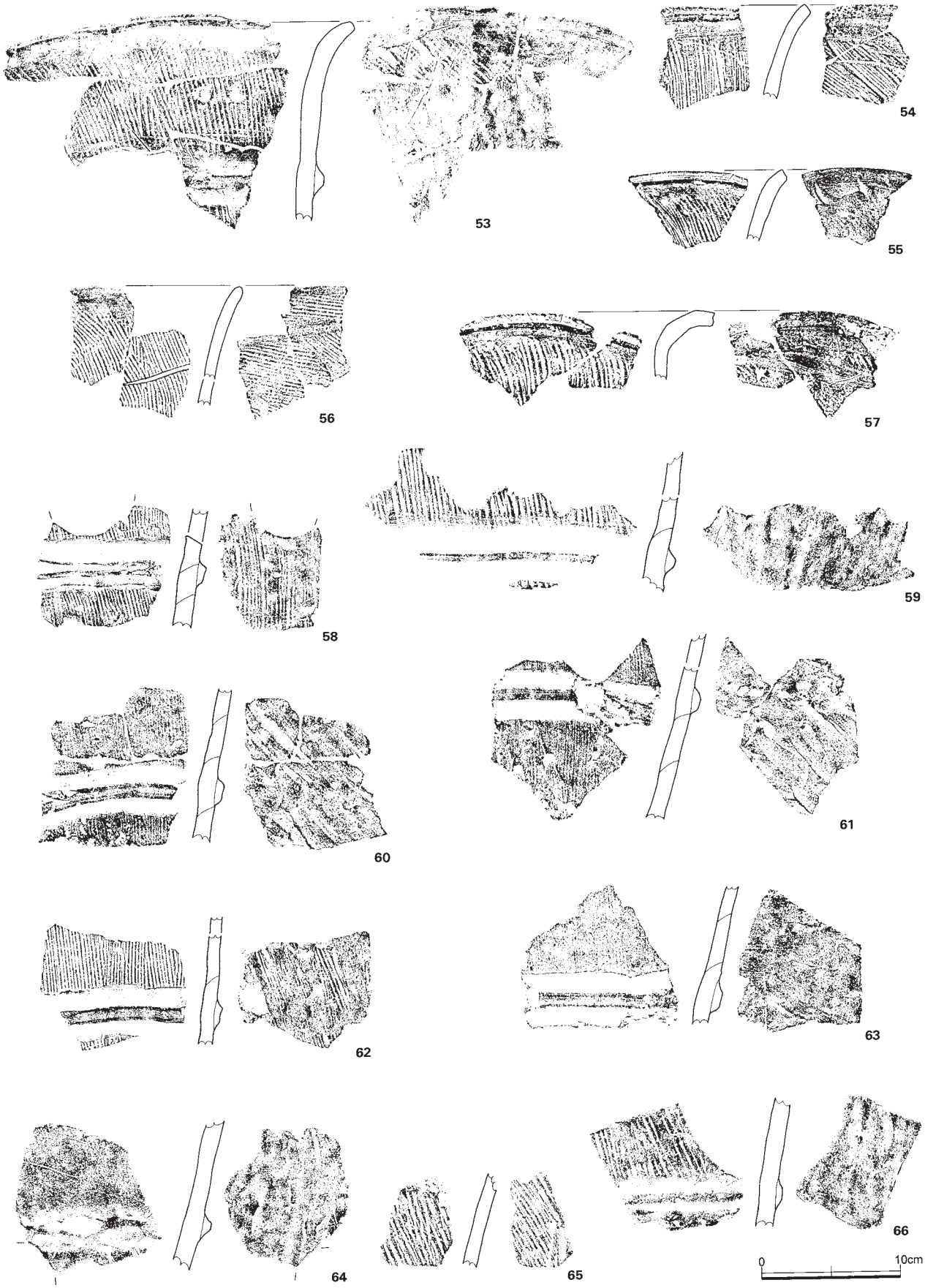
第８表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（３）



第29図　第１号墳出土円筒埴輪（６）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
42	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 普通・軟質	低Ｍ字形	8	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	10%	
43	円筒	底（12.0）	① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質		9	外面はタテハケ、内面はナナメナデが施される。	5%	
44	円筒	底（12.6）	① ＡＢＣＤＨ ② 橙 ③ 普通・普通			外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	5%	

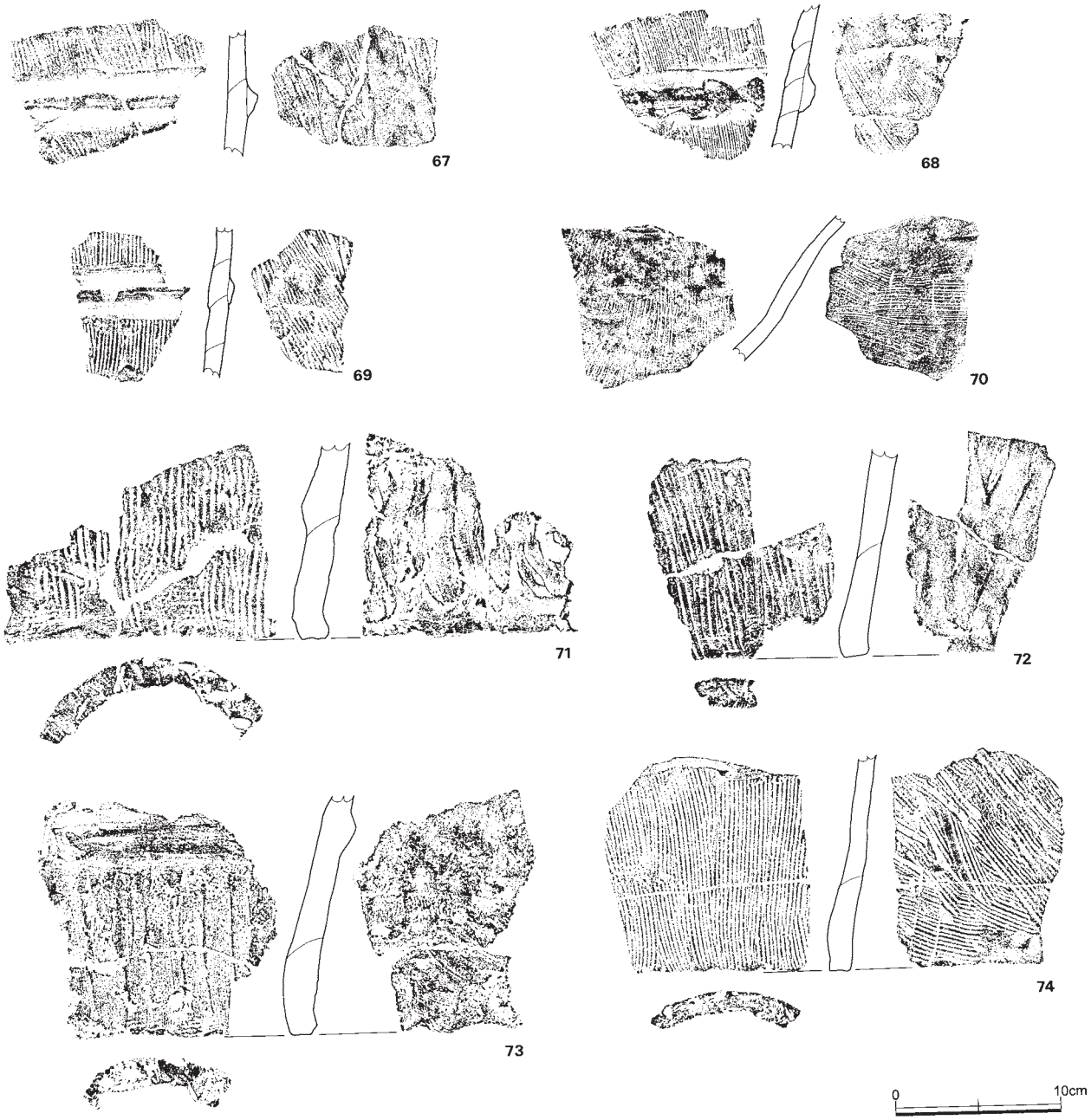
第９表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（４）



第30図　第1号墳出土円筒埴輪（7）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
45	円筒	底（13.0）	① ＡＢＣＥＨ ② にぶい赤褐 ③ 良好・普通		17	外面はタテハケ、内面はナナメタテナデが施される。	5%	
46	朝顔	底 12.8	① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	6	内外面共タテハケが施される。	70%	２段目に半円形の小型透孔を持つ。
47	朝顔	底 15.3	① ＡＢＣＤＥＨ ② 赤褐 ③ 普通・普通	台形	7	外面はタテハケ、内面はヨコハケ、ナナメタテナデが施される。	60%	
48	朝顔	底 12.8	① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 普通・普通	M字形 三角形	7	外面はタテハケ、内面はナナメタテナデが施される。	60%	３段目に横位の線刻が６本施される。
49	朝顔		① ＡＢＣＤＥＨ ② 赤褐 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はヨコハケ、ナナメタテナデが施される。	25%	
50	朝顔		① ＡＢＣＤ ② 橙 ③ 不良・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	25%	
51	朝顔		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	14	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナデが施される。	15%	
52	朝顔		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 普通・普通	三角形	8	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	10%	
53	円筒		① ＡＢＣＥ ② にぶい赤褐 ③ 普通・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	10%	
54	円筒		① ＡＢＣＤＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通		10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
55	円筒		① ＡＢＣＤ ② にぶい黄橙 ③ 良好・普通		9	外面はナナメタテハケ、内面はナナメナデが施される。		
56	円筒		① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質		8	外面はナナメタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
57	円筒		① ＡＢＣＥ ② 明赤褐 ③ 普通・軟質		5	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		
58	円筒		① ＡＢＣ ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	9	内外面共タテハケが施される。		
59	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		
60	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
61	円筒		① ＡＣＤＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。		
62	円筒		① ＡＣＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質	台形	8	内外面共タテハケが施される。		
63	円筒		① ＡＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		

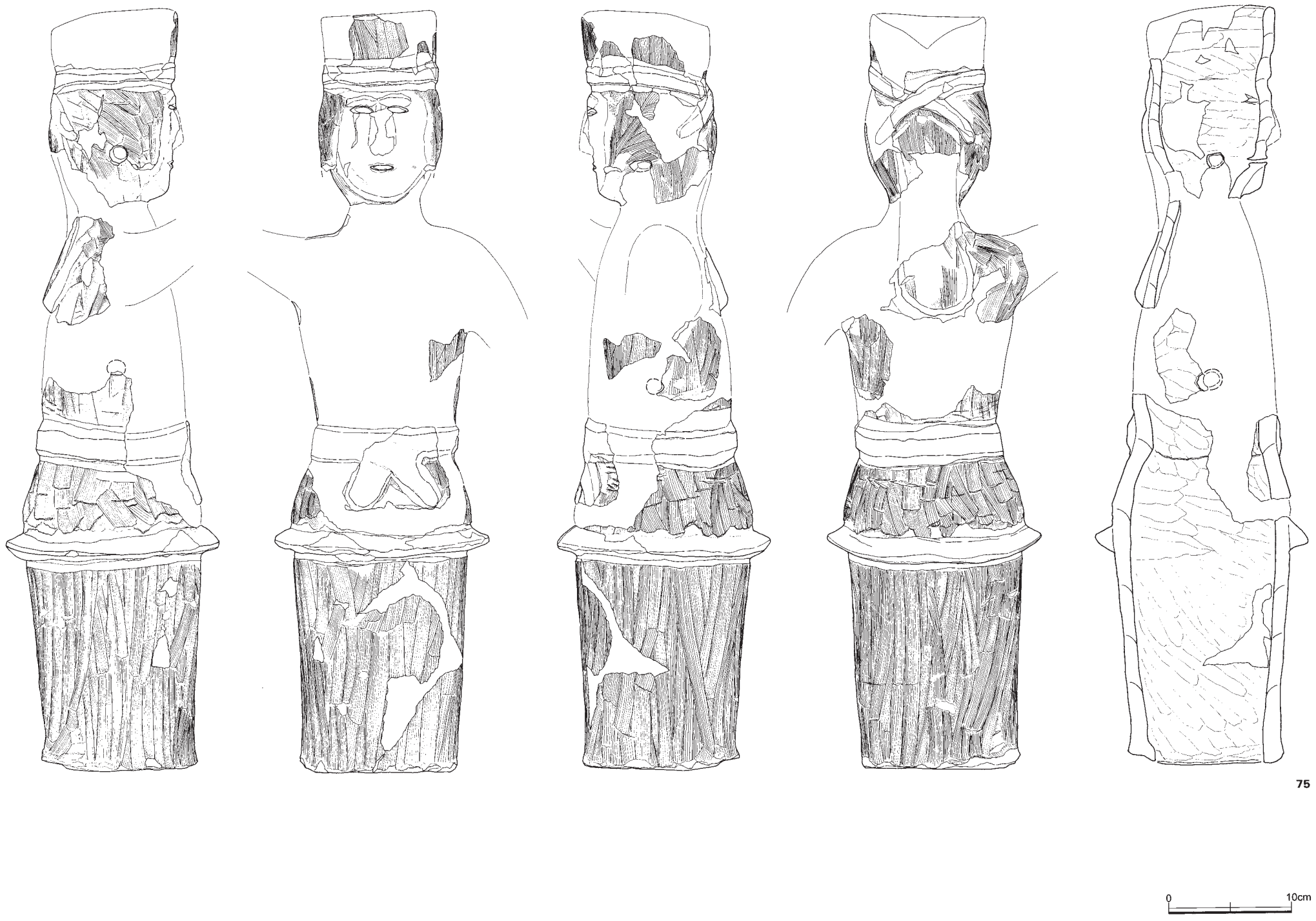
第 10 表　第 1 号墳出土円筒埴輪観察表（5）



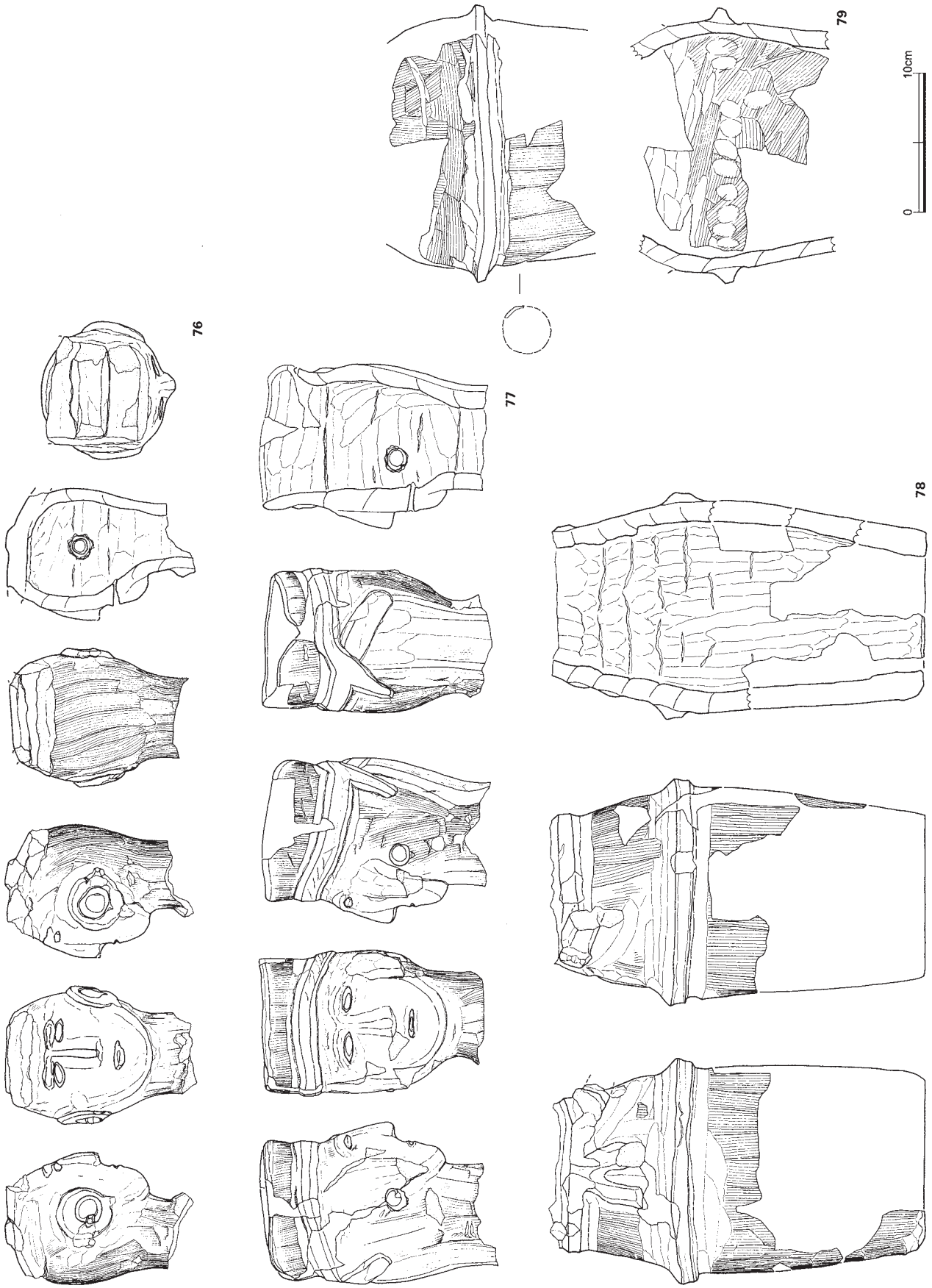
第 31 図　第１号墳出土円筒埴輪（８）

番号	器種	法量（ｃｍ）	①　胎土 ②　色調 ③　焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
64	円筒		①　ＡＢＣＥＨ ②　橙 ③　不良・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		磨耗が激しい。外面に斜めの線刻が２本施される。
65	円筒		①　ＡＢＣＤ ②　明赤褐 ③　普通・軟質		5	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		外面に斜めの線刻が３本施される。
66	円筒		①　ＡＢＣＥＨ ②　橙 ③　不良・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		

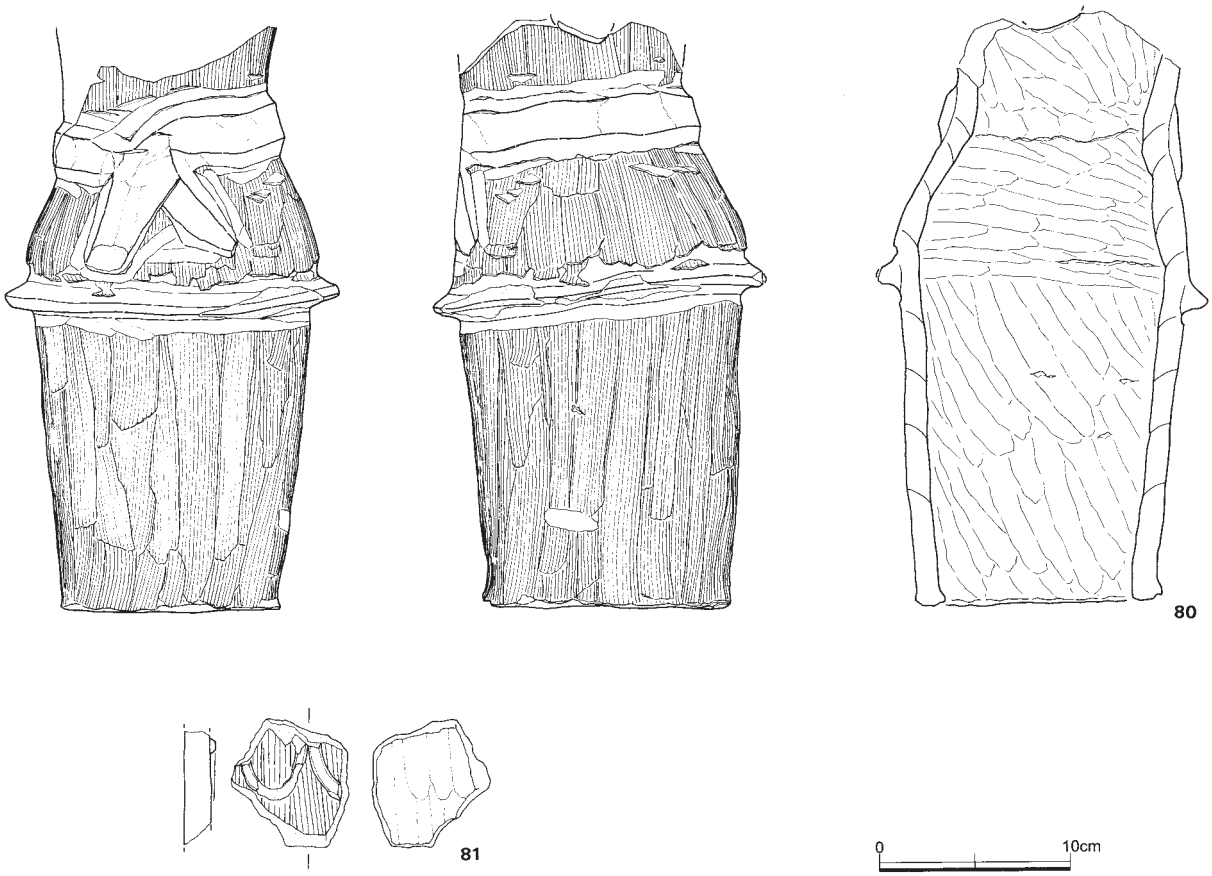
第 11 表　第１号墳出土円筒埴輪観察表（６）



第 32 図　第 1 号墳出土形象埴輪（1）



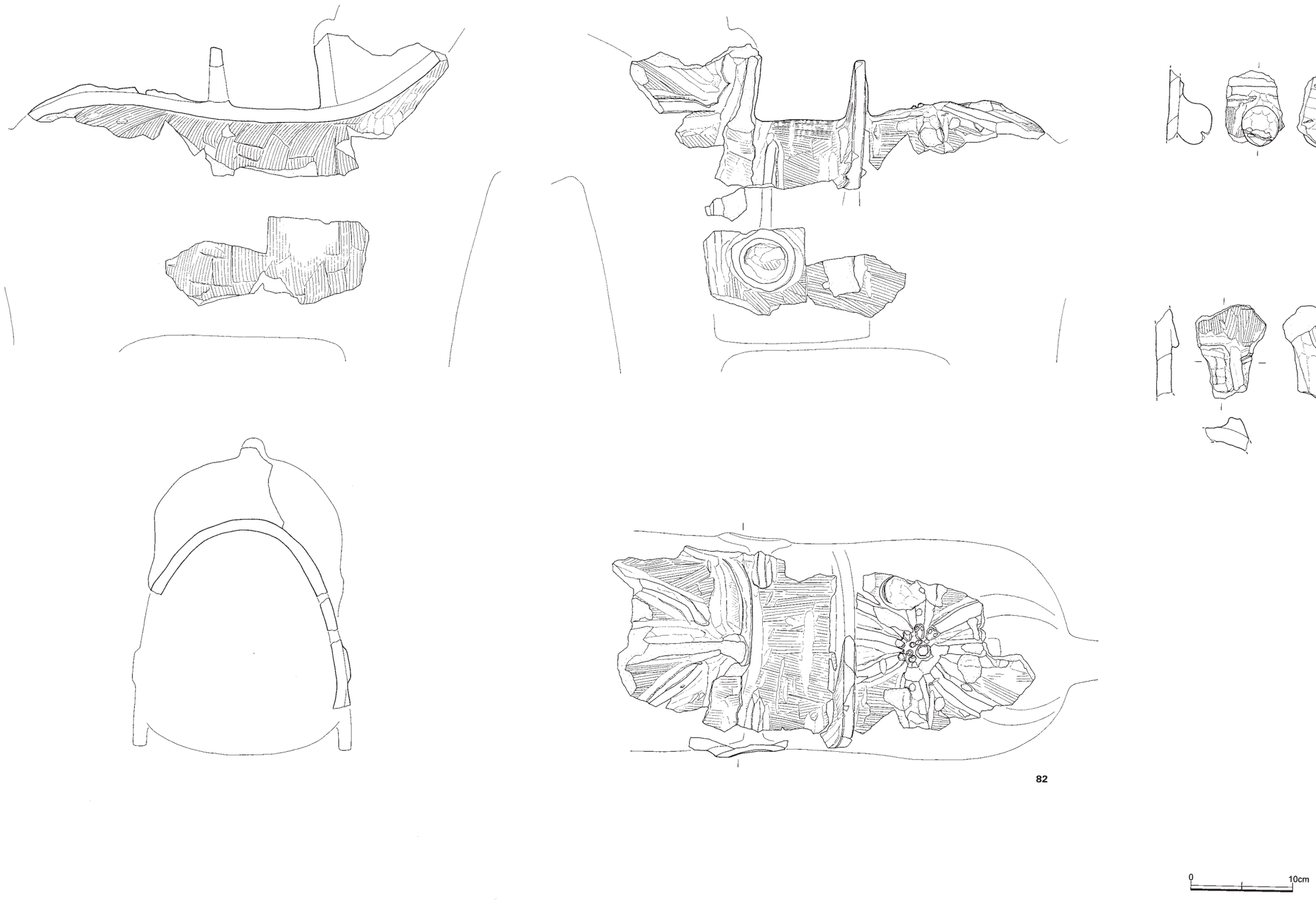
第 33 図　第 1 号墳出土形象埴輪（2）



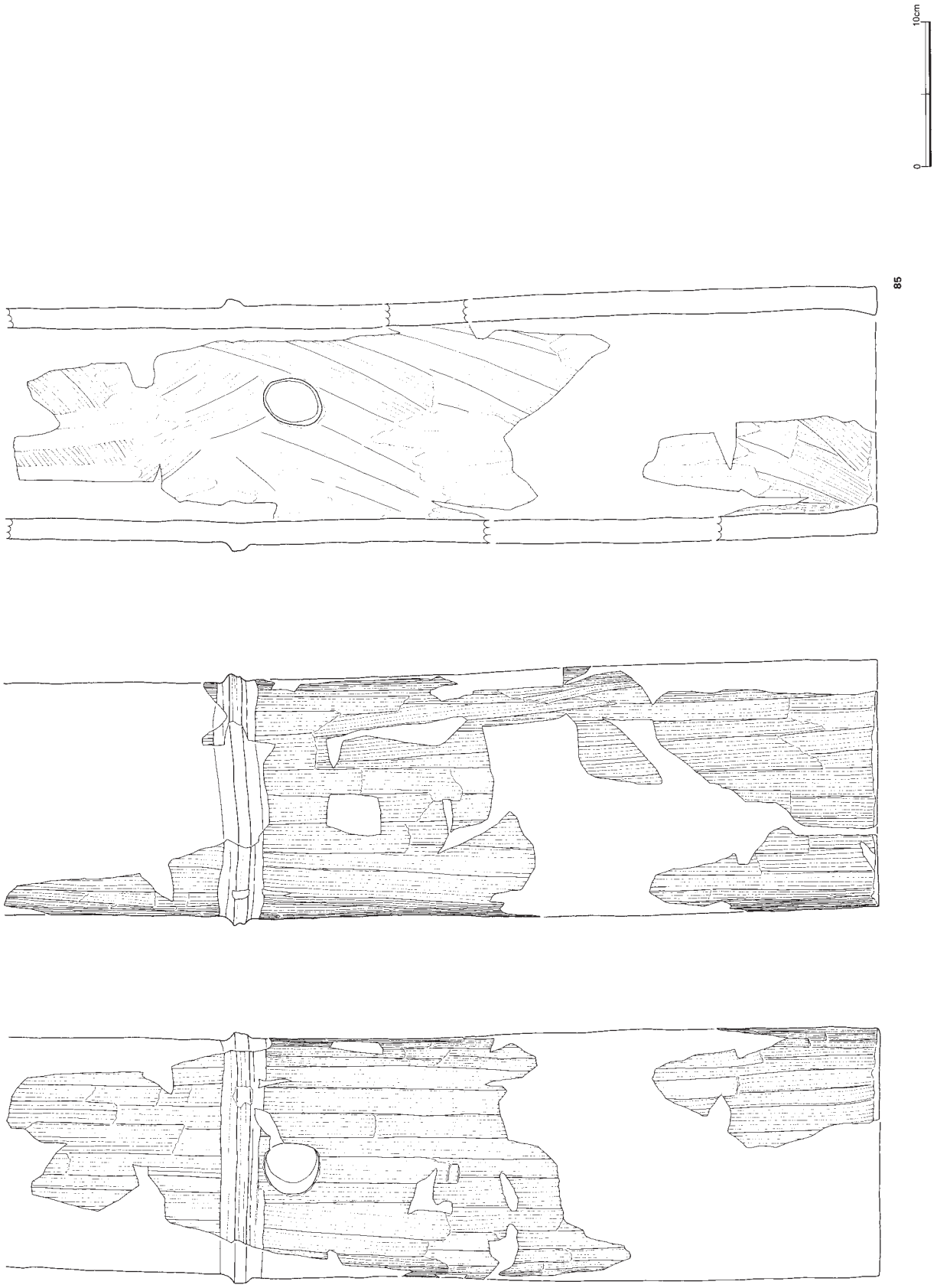
第 34 図　第 1 号墳出土形象埴輪（3）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
67	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 不良・軟質	台形	7	内外面共タテハケが施される。		
68	円筒		① ＡＣＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	14	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
69	円筒		① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 普通・普通	低台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
70	朝顔		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質		14	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
71	円筒		① ＡＢＣ ② にぶい赤褐 ③ 普通・普通		5	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	5%	
72	円筒		① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 普通・普通		5	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	5%	
73	円筒		① ＡＢＣＤＨ ② 赤褐 ③ 良好・硬質	低台形		外面はタテナデ、内面はナナメタテナデが施される。	10%	
74	円筒		① ＡＢＣＤＨ ② 橙 ③ 良好・硬質		9	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	5%	

第 12 表　第 1 号墳出土円筒埴輪観察表（7）



第 35 図　第 1 号墳出土形象埴輪（4）



第 36 図　第 1 号墳出土形象埴輪（5）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
75	人物	底 12.6 高（61.2）	① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通	三角形	17	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナデが施される。	75%	
76	人物		① ＡＢＣＤＥＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通		17	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナデが施される。	15%	
77	人物		① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通		13	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナデが施される。	20%	
78	人物	底（12.4）	① ＡＢＣＤＨ ② 赤 ③ 普通・普通	M字形	10	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	40%	
79			① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	13	外面はタテヨコハケ、内面はナナメハケ、ナナメナデが施される。		
80	人物	底 11.5	① ＡＢＣＤＥＨ ② 橙 ③ 普通・普通	三角形 低台形	14	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナデが施される。	50%	
81	靫		① ＡＢＣＥＨ ② にぶい赤褐 ③ 普通・普通		8	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		
82	馬		① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 普通・普通		7	外面はナナメヨコハケ、内面はタテハケが施される。	25%	
83	馬		① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 良好・硬質		17			
84	馬		① ＡＢＣＥ ② 明赤褐 ③ 良好・普通		8			
85	大刀	底（16.8）	① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 普通・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテハケが施される。	50%	

第 13 表　第 1 号墳出土形象埴輪観察表

45 図 38、第 47 図 42・43 は靫形埴輪である。38 は奴凧形で、翼状の張り出し部が欠損する。矢筒部には、背負い紐が認められる。42･43 は翼状の張り出し部である。42 は放射状に線刻が施される。第 46 図 39 は家形埴輪である。欠損部が多いが、底部が推定長約 52cm、推定幅約 35cm、推定高約 80cm の大型品である。線刻等は施されない。第 47 図 40 は人物埴輪である。背中の形付近のみ残存する。41 は鳥形埴輪であろうか。尾の部分と思われ、長軸に沿って線刻が施される。44 は大刀と思われる。握り部の勾金であろう。45 は馬形埴輪の鈴である。

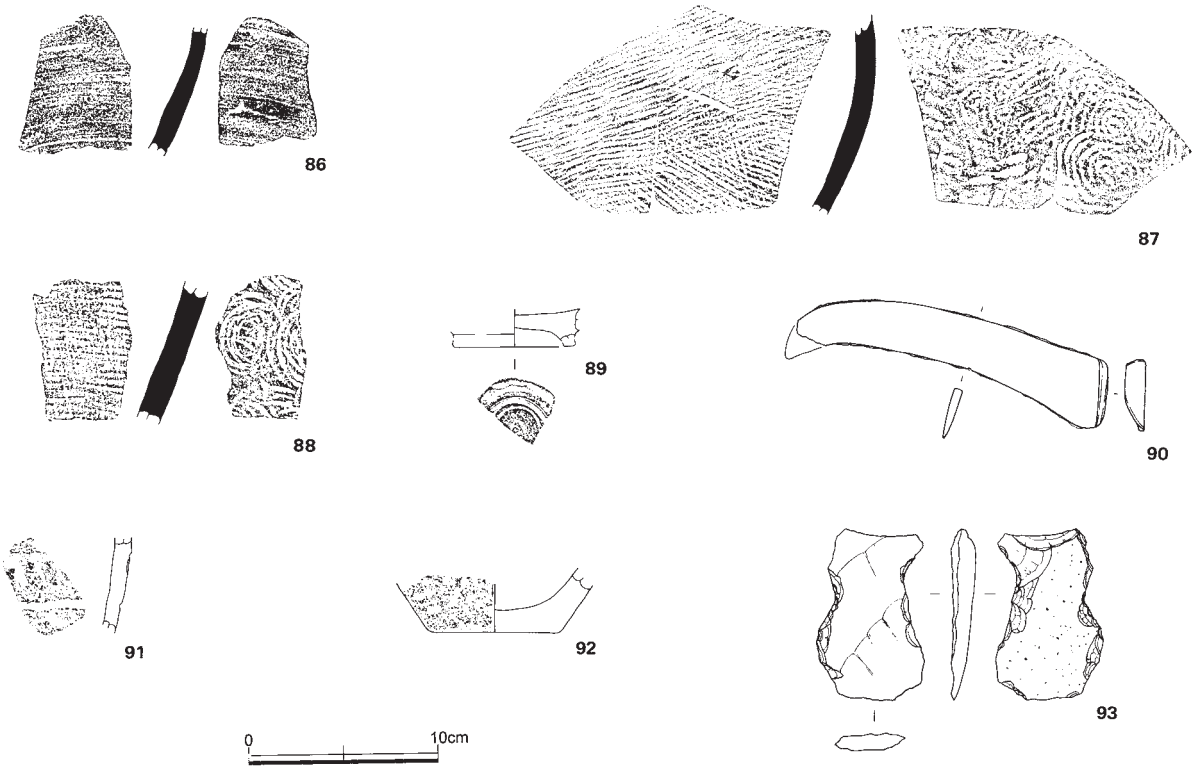
第 48 図 46 ～ 48 は埴輪以外の遺物である。46 は須恵器甕、47 は凹石、48 は棒状鉄製品である。

b　溝

第 1 号溝（第 38 ～ 40 図）

調査区ほぼ中央を南北に走る。第２号墳と第２号溝を切り、幅は約 2.5 m を測る。壁は斜めに立ち上がり、中央部が特に深い部分が認められる。確認面からの深さは約 80cm である。壁面及び底面には、小ピットが多数確認された。主軸方位はＮ－ 25°－Ｅであるが、北東部では第２号墳の周堀にほぼ沿って、Ｎ－ 75°－Ｅへと角度が変わっていると見られる。

後の調査による幡羅遺跡の遺構分布との関係から、第 1 号溝は正倉院（北）の西辺及び北辺区画溝、或いはそれが掘り直されたものである可能性が考えられる。出土遺物には、埴輪や常滑焼等、前後の遺物が混入す



第 37 図　第 1 号墳出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
86	須恵瓶	-	-	-	ＡＢＧ	良	灰	-	
87	須恵甕	-	-	-	ＡＣＦＨ	良	青灰	-	
88	須恵甕	-	-	-	ＡＣＦＨ	良	青灰	-	
89	ロクロ高台椀	-	-	(6.4)	ＡＢＣＩ	普	橙	5%	
90	鎌	長 16.6	幅 3.6	厚 0.4					重さ　61.87 g
91	縄文土器	-	-	-	ＡＣＤＨＩ	普	橙	-	阿玉台式
92	縄文土器	-	-	(6.6)	ＡＢＣＨ	普	橙	-	
93	打製石斧	長 8.6	幅 5.4	厚 0.8	石材　ホルンフェルス				

第 14 表　第 1 号墳出土遺物観察表

るものの、遺構の最終段階は概ね 10 世紀後半～ 11 世紀頃と思われる。

第１号溝出土遺物（第 49・50 図、第 21・22 表）

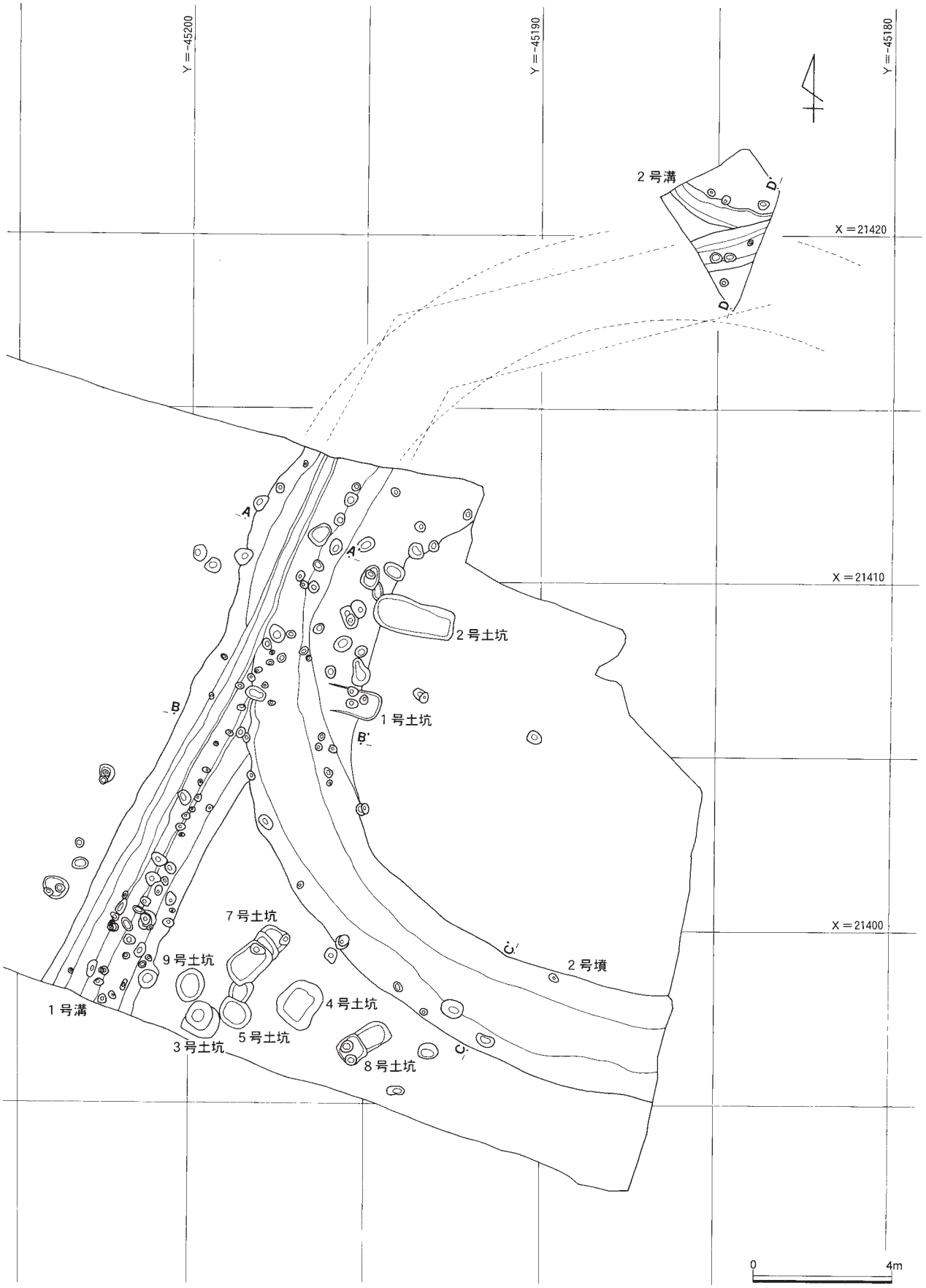
図示できた遺物は、第 49 図 1 ～第 50 図 38 である。１は土師器坏、２～８はロクロ土師器小皿、９～ 17 はロクロ土師器高台椀、18 は須恵器坏、19・20 は羽釜の口縁部である。21 ～ 23 は常滑焼の甕と思われる。24 ～ 28 は土錘である。

第 49 図 29 ～ 33、第 50 図 34 ～ 38 は埴輪である。多くは第２号墳周堀からの流れ込みによるものであろう。29 ～ 36 は円筒埴輪、37 は朝顔形埴輪である。38 は形象埴輪である。家形埴輪の頂部付近であろうか。

第２号溝（第 38・40 図）

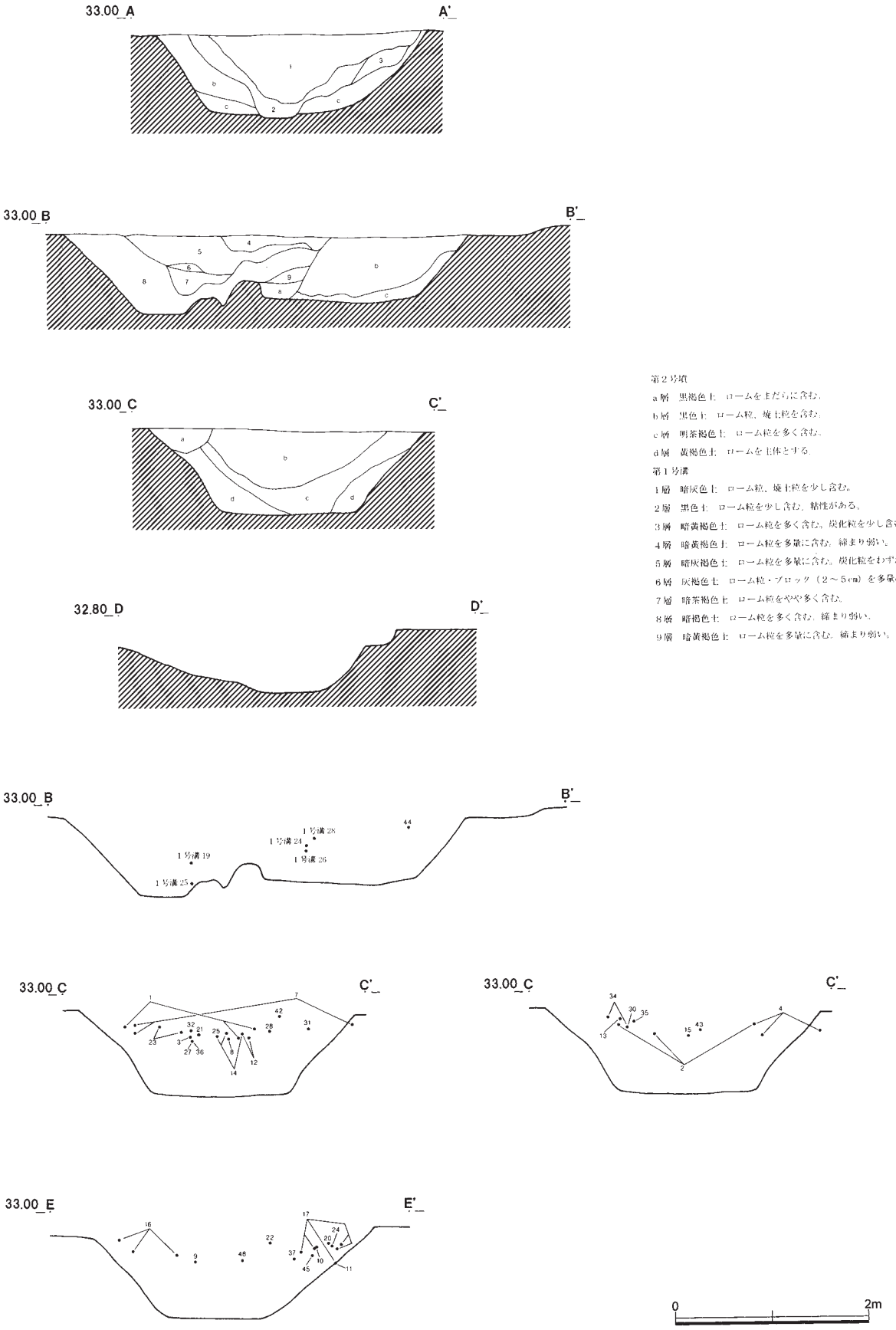
調査区北東部に位置する。幅 64cm、確認面からの深さ 20cm を測る。若干弧を描くように看取できる。第２号墳の周堀に近接するが、小型の古墳の周堀である可能性が考えられる。

遺物は、図示できるものが出土しなかった。



第38図　第2号墳、第1・2号溝

第39図　第2号墳、第1号溝遺物出土状況



第2号墳

a層　黒褐色土　ロームを まだらに含む。

b層　黒色土　ローム粒、焼土粒を含む。

c層　明茶褐色土　ローム粒を多く含む。

d層　黄褐色土　ロームを 主体とする。

第1号溝

1層　暗灰色土　ローム粒、焼土粒を少し含む。

2層　黒色土　ローム粒を少し含む。粘性がある。

3層　暗黄褐色土　ローム粒を多く含む。炭化粒を少し含む。

4層　暗黄褐色土　ローム粒を多量に含む。締まり弱い。

5層　暗灰褐色土　ローム粒を多量に含む。炭化粒をわずかに含む。

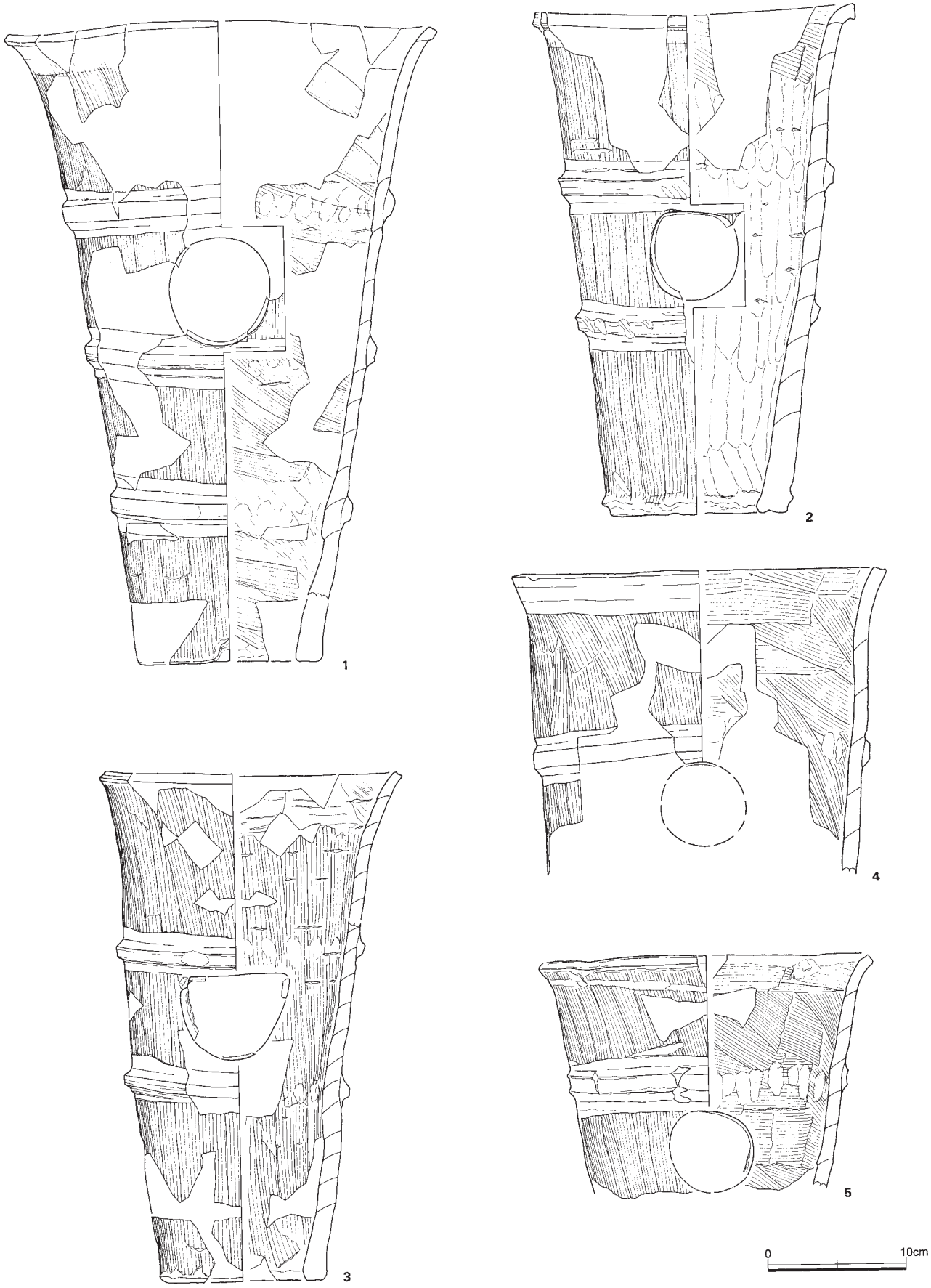
6層　灰褐色土　ローム粒・ブロック（2～5cm）を多量に含む。

7層　暗茶褐色土　ローム粒をやや多く含む。

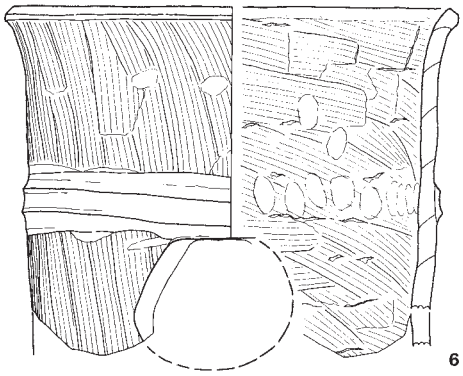
8層　暗褐色土　ローム粒を多く含む。締まり弱い。

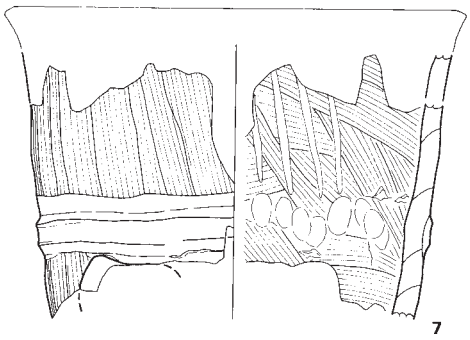
9層　暗黄褐色土　ローム粒を多量に含む。締まり弱い。

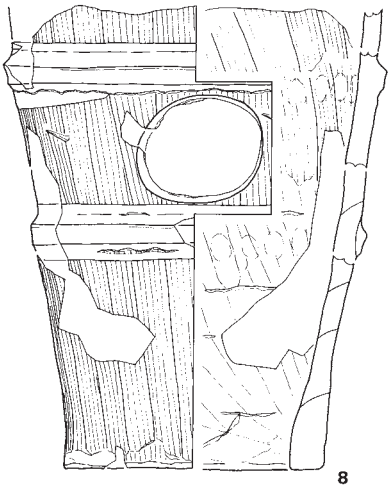
第40図　第2号墳、第1号溝断面図

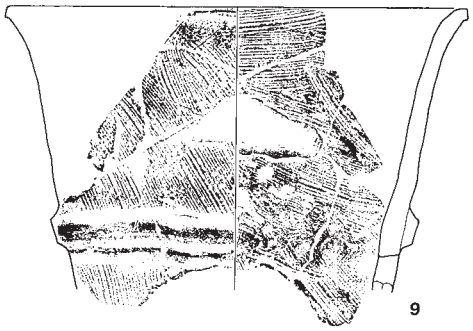


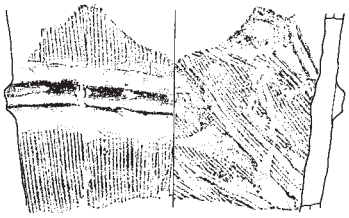
第41図　第２号墳出土円筒埴輪（１）

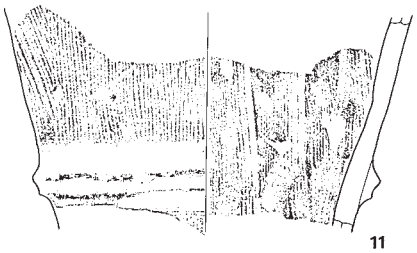


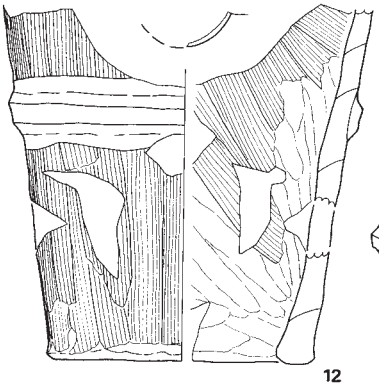


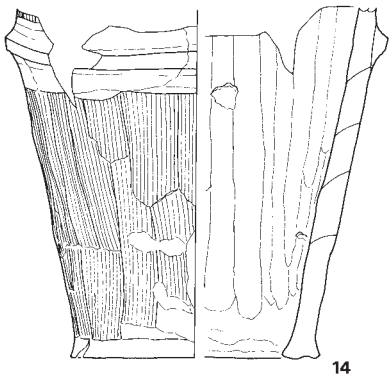


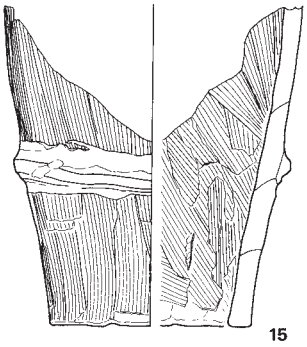


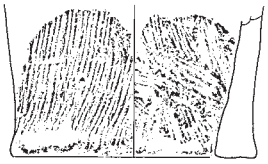




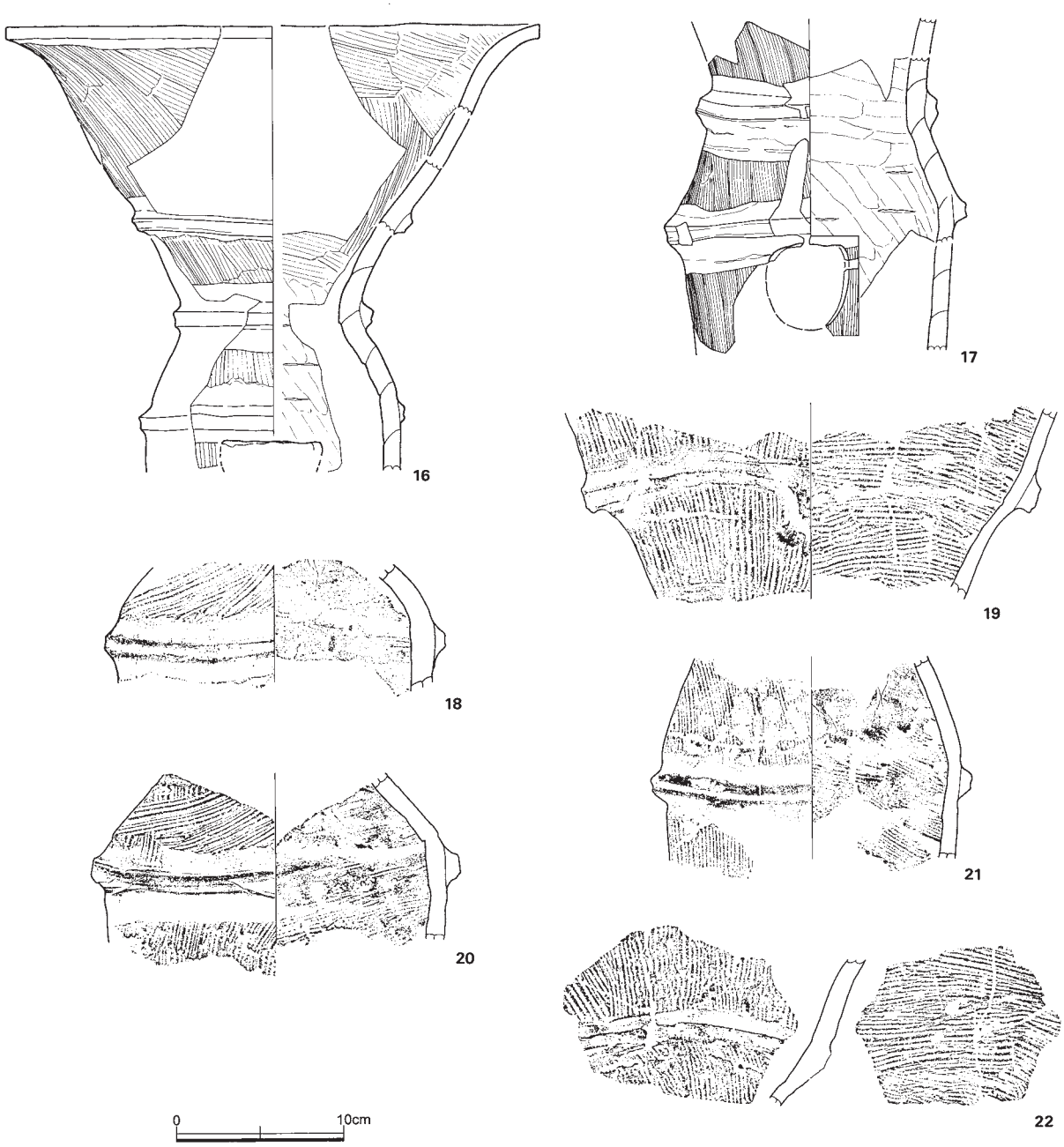








第 42 図　第２号墳出土円筒埴輪（２）



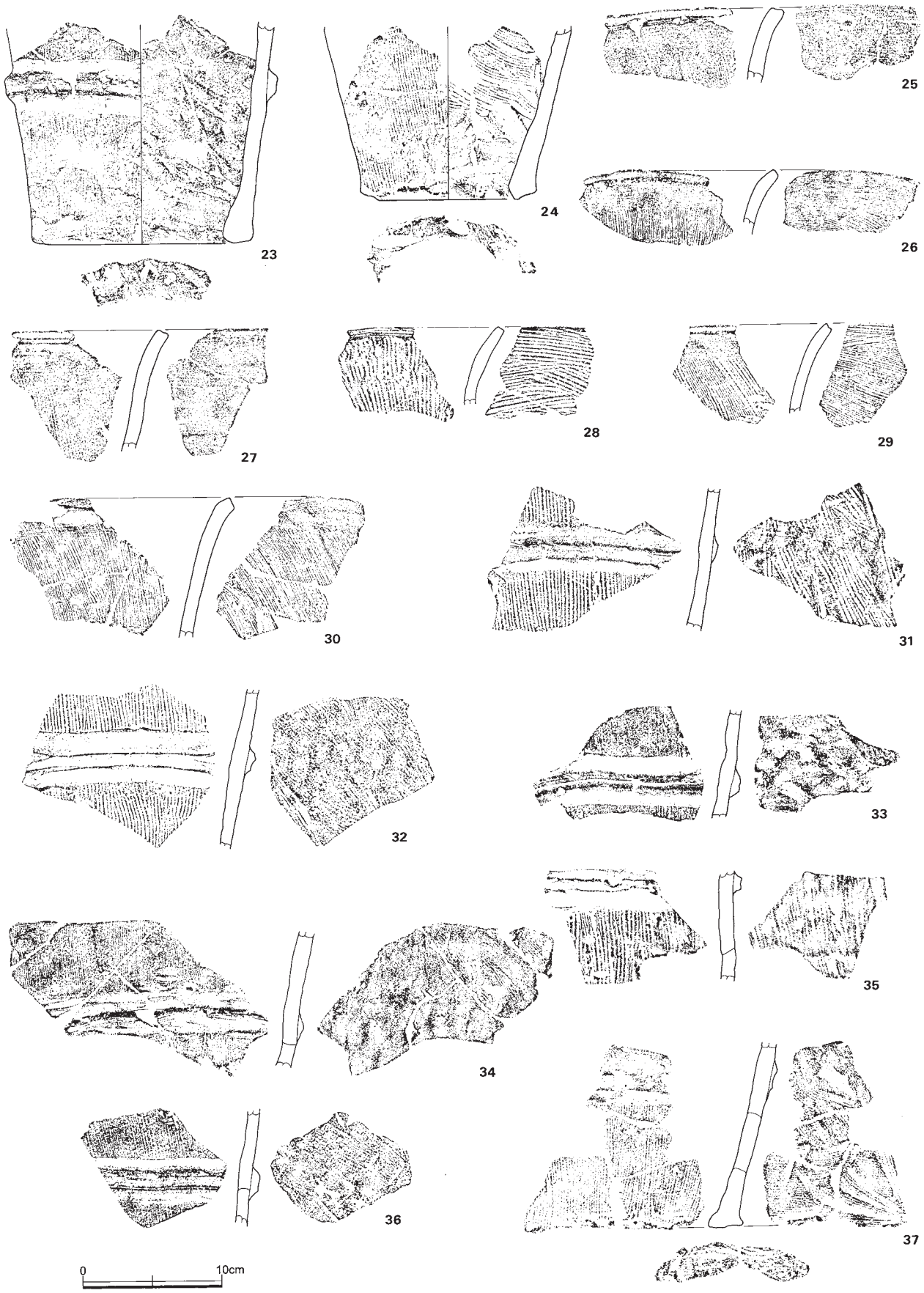
第 43 図　第２号墳出土円筒埴輪（３）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
1	円筒	口（31.6） 底 13.2 高 46.3	① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
2	円筒	口（22.8） 底（12.6） 高 36.3	① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 普通･普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	75%	
3	円筒	口（21.0） 底 11.4 高 37.0	① ＡＢＣ ② 橙 ③ 普通･軟質	台形	8	内外面共タテハケが施される。	70%	

第 15 表　第 2 号墳出土円筒埴輪観察表（1）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
4	円筒	口（25.4）	① ＡＣＤＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	25%	
5	円筒	口（23.4）	① ＡＣＦＨ ② 褐灰 ③ 良好・硬質	M字形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	30%	口縁部内面に縦の線刻が２本施される。
6	円筒	口（23.0）	① ＡＢＣＤＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	低M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	15%	
7	円筒		① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	15%	内面に縦の線刻が４本施される。
8	円筒	底 13.5	① ＡＢＣＨ ② 赤褐 ③ 普通･普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナデが施される。	50%	
9	円筒	口（24.0）	① ＡＣＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	M字形	12	外面はナナメハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	20%	
10	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通	M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	10%	
11	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 普通･普通	M字形	10	内外面共タテハケが施される。		
12	円筒	底 14.0	① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通･普通	台形	16	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナデが施される。	25%	
13	円筒	底（13.0）	① ＡＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質		8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。		
14	円筒	底 13.0	① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 普通･普通	台形	17	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	30%	
15	円筒	底 10.4	① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質	台形	15	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	25%	
16	朝顔	口（32.0）	① ＡＢＣＨ ② 橙 ③ 普通･軟質	M字形	7	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナデが施される。	50%	
17	朝顔		① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通･普通	M字形	24	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナデが施される。	30%	
18	朝顔		① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通･普通	M字形	8	外面はナナメタテハケ、内面はナナメヨコナデが施される。		
19	朝顔		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。	5%	22 と同一個体の可能性がある。
20	朝顔		① ＡＢＣＤＥＨ ② 橙 ③ 普通･普通	台形	8	外面はナナメタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
21	朝顔		① ＡＢＣＤＥＨ ② 赤褐 ③ 普通･普通	M字形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	10%	
22	朝顔		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質		8	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		19 と同一個体の可能性がある。

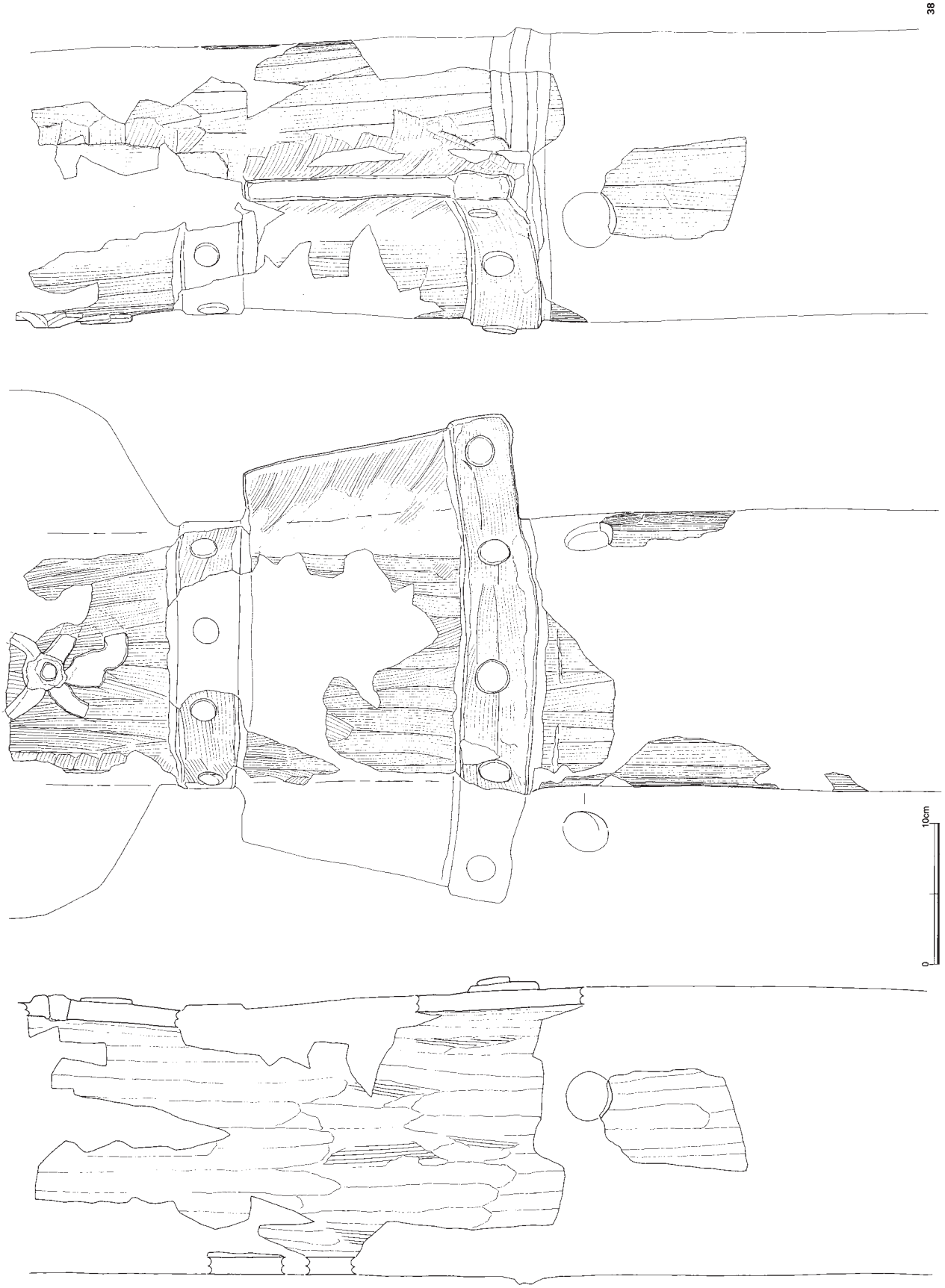
第 16 表　第 2 号墳出土円筒埴輪観察表（2）



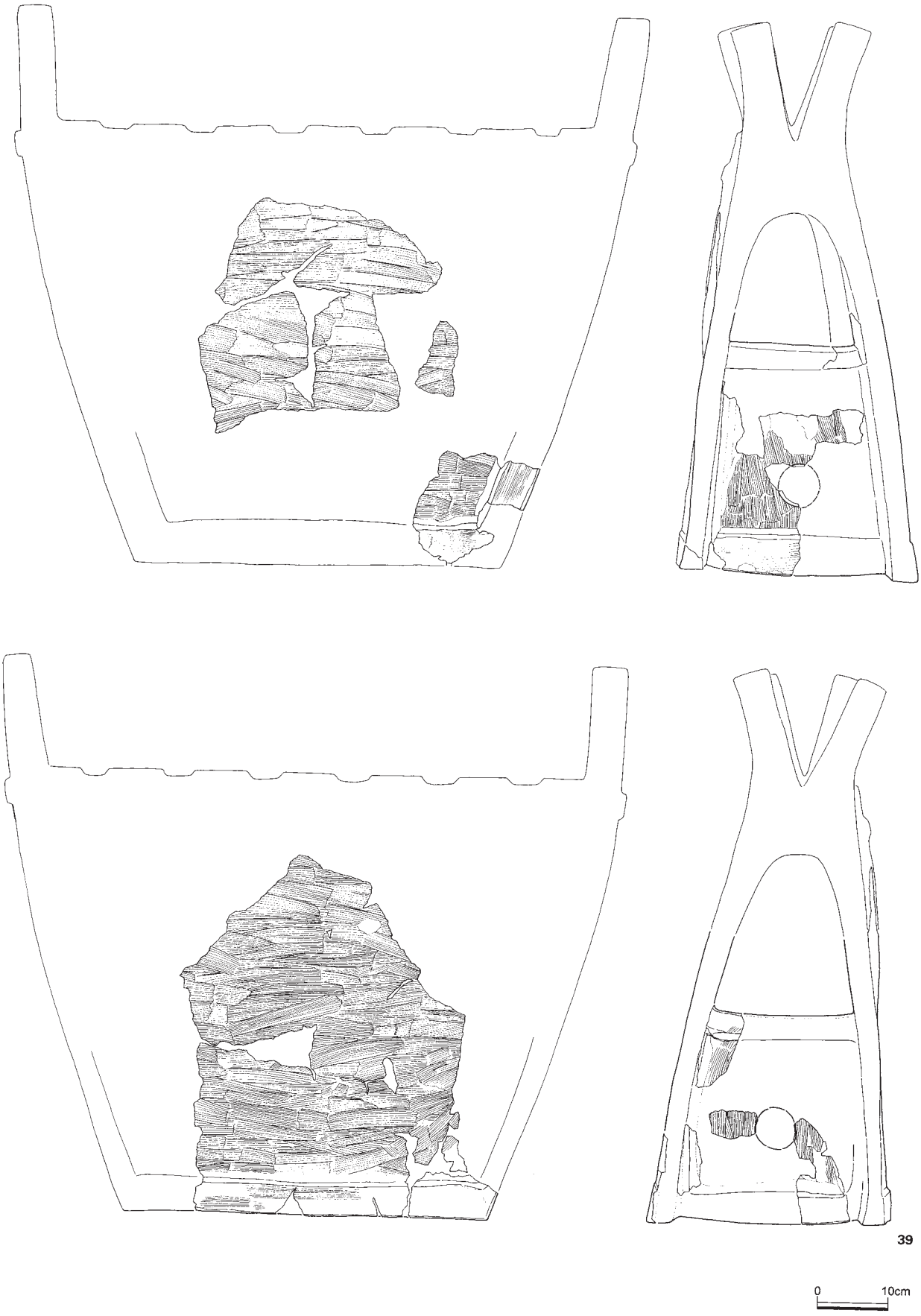
第 44 図　第２号墳出土円筒埴輪（４）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
23	円筒	底（15.8）	① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナデが施される。	10%	
24	円筒	底（12.5）	① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 普通･普通		11	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケ、ナナメヨコナデが施される。	10%	
25	円筒		① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質		13	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
26	円筒		① ＡＢＣＤＥＨ ② 橙 ③ 良好・普通		18	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
27	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質		10	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
28	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・硬質		6	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
29	円筒		① ＡＣＤＨ ② にぶい黄橙 ③ 良好・硬質		15	外面はナナメハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		
30	円筒		① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 良好・普通		19	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
31	円筒		① ＡＢＣＤＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
32	円筒		① ＡＣＨ ② 赤褐 ③ 良好・硬質	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
33	円筒		① ＡＢＣＤＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメナデが施される。		
34	円筒		① ＡＣＥＨＩ ② 橙 ③ 不良・軟質	三角形	15	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	5%	
35	円筒		① ＡＢＣ ② にぶい黄橙 ③ 普通・軟質	M字形	7	内外面共タテハケが施される。		
36	円筒		① ＡＣＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		
37	円筒		① ＡＢＣＤＥＨ ② 橙 ③ 良好・硬質	低M字形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	5%	

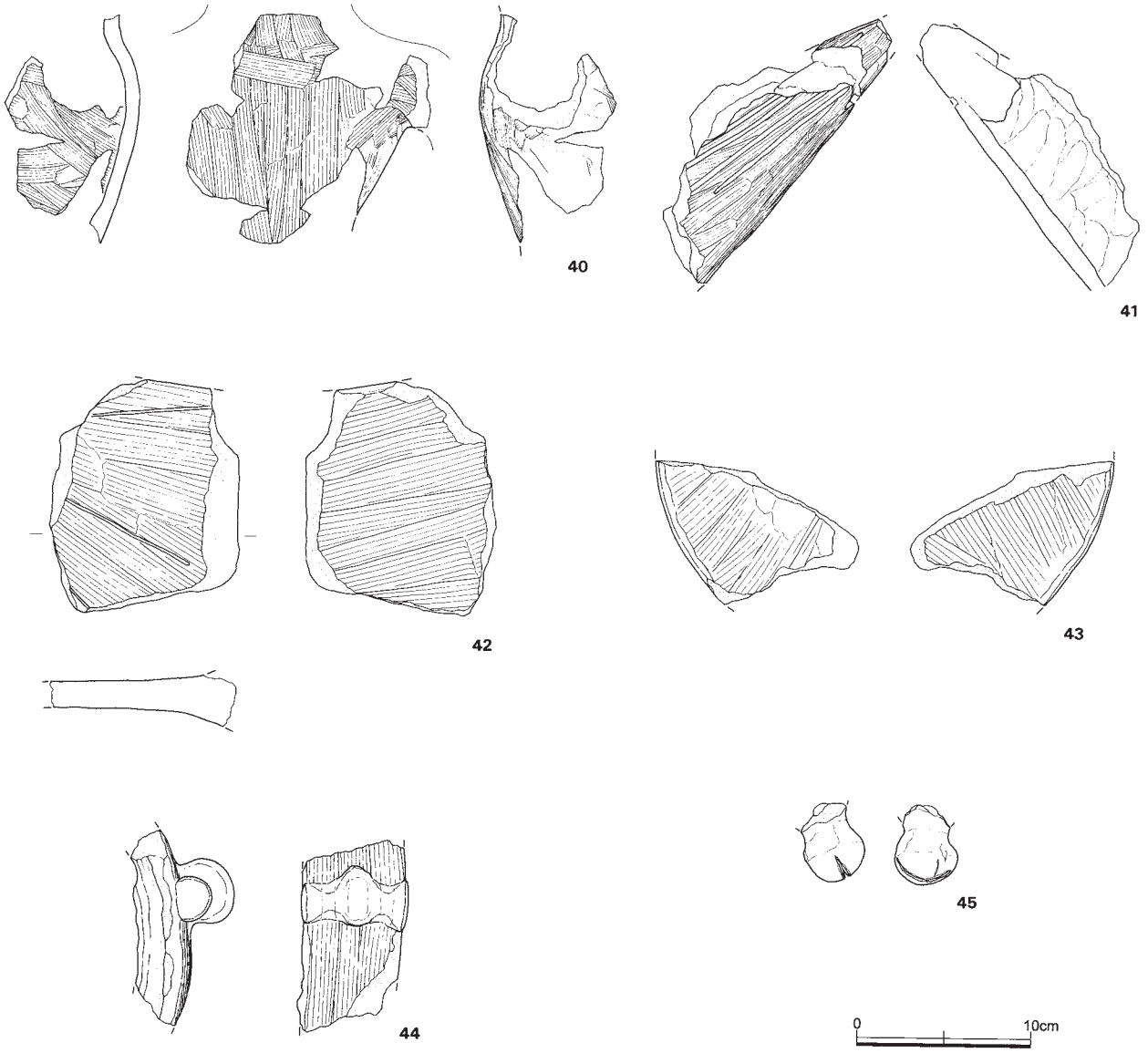
第 17 表　第 2 号墳出土円筒埴輪観察表（3）



第 45 図　第２号墳出土形象埴輪（1）



第46図　第２号墳出土形象埴輪（２）



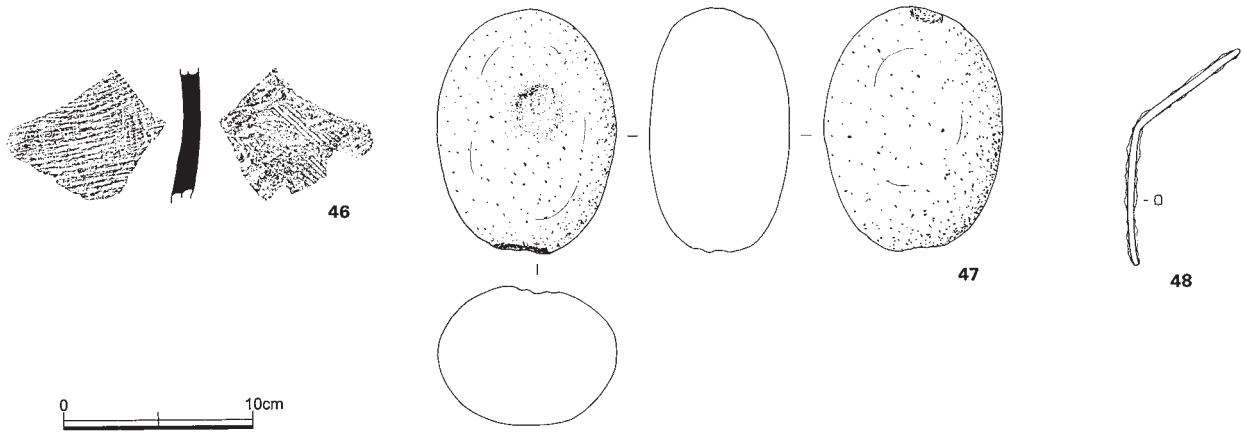
第 47 図　第２号墳出土形象埴輪（３）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
38	靫		① ＡＣＥＨ ② 赤褐 ③ 普通・軟質		7	外面はタテハケ、内面はタテハケ、タテナデが施される。	50%	
39	家		① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 普通･普通		8	内外面共タテヨコハケが施される。	30%	
40	人物		① ＡＢＣＨ ② 明赤褐 ③ 普通･普通		10	内外面共ハケが施される。	10%	
41	鳥		① ＡＢＣＤＥＨ ② 赤褐 ③ 普通･普通		13	外面はハケ、内面はナデが施される。		
42	靫		① ＡＢＣＥＨ ② にぶい赤褐 ③ 普通･普通		8	両面共ハケが施される。		

第 18 表　第 2 号墳出土形象埴輪観察表（1）

番号	器種	法量（cm）	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
43	靫		① ＡＢＣＥＨ ② 赤褐 ③ 普通･普通		7	両面共ハケが施される。		
44	大刀		① ＡＢＣＥＨ ② 橙 ③ 普通･普通		8	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		
45	馬		① ＡＢＣＥＨ ② 明赤褐 ③ 良好・普通					

第 19 表　第 2 号墳出土形象埴輪観察表（2）

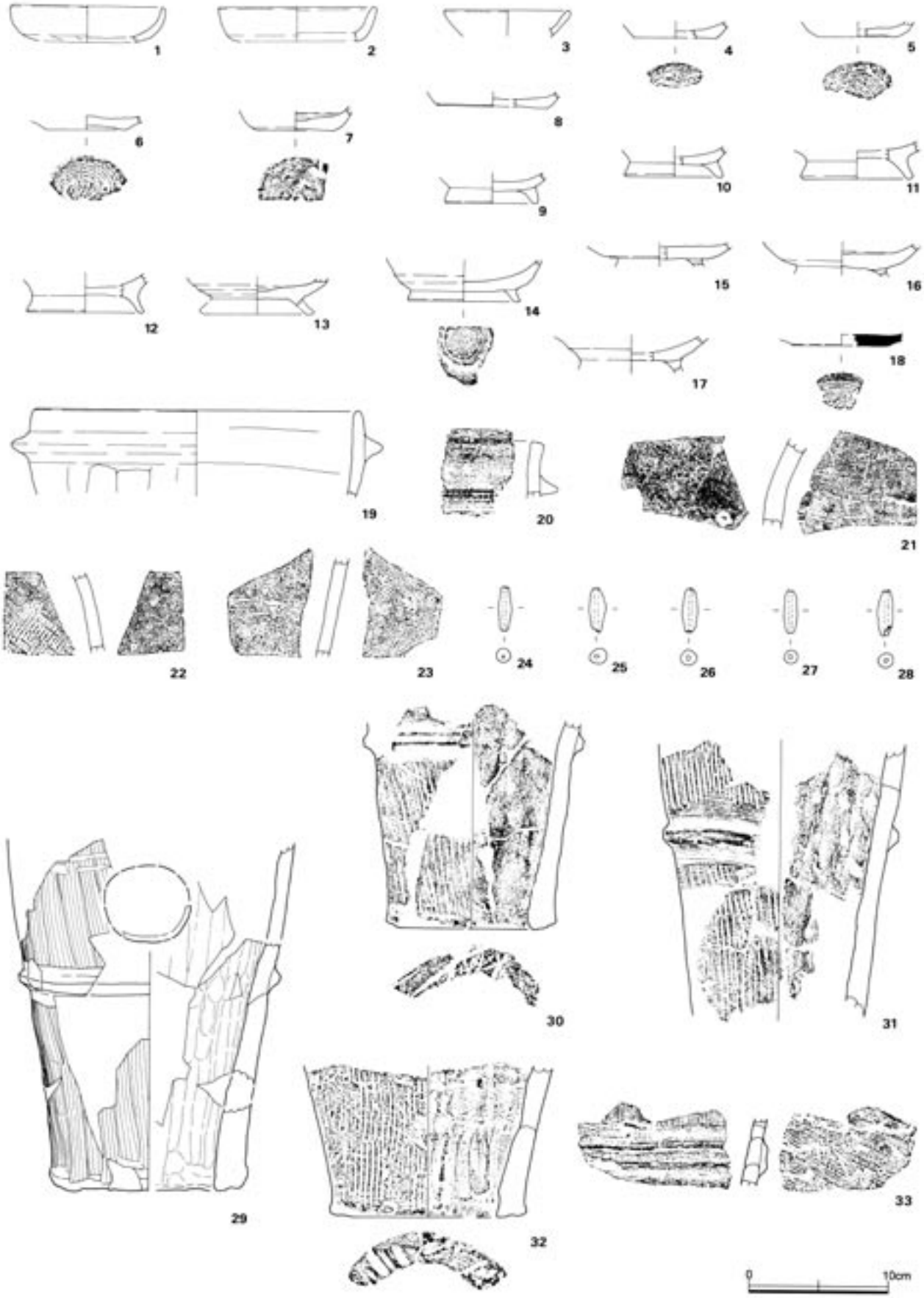


第 48 図　第２号墳出土遺物

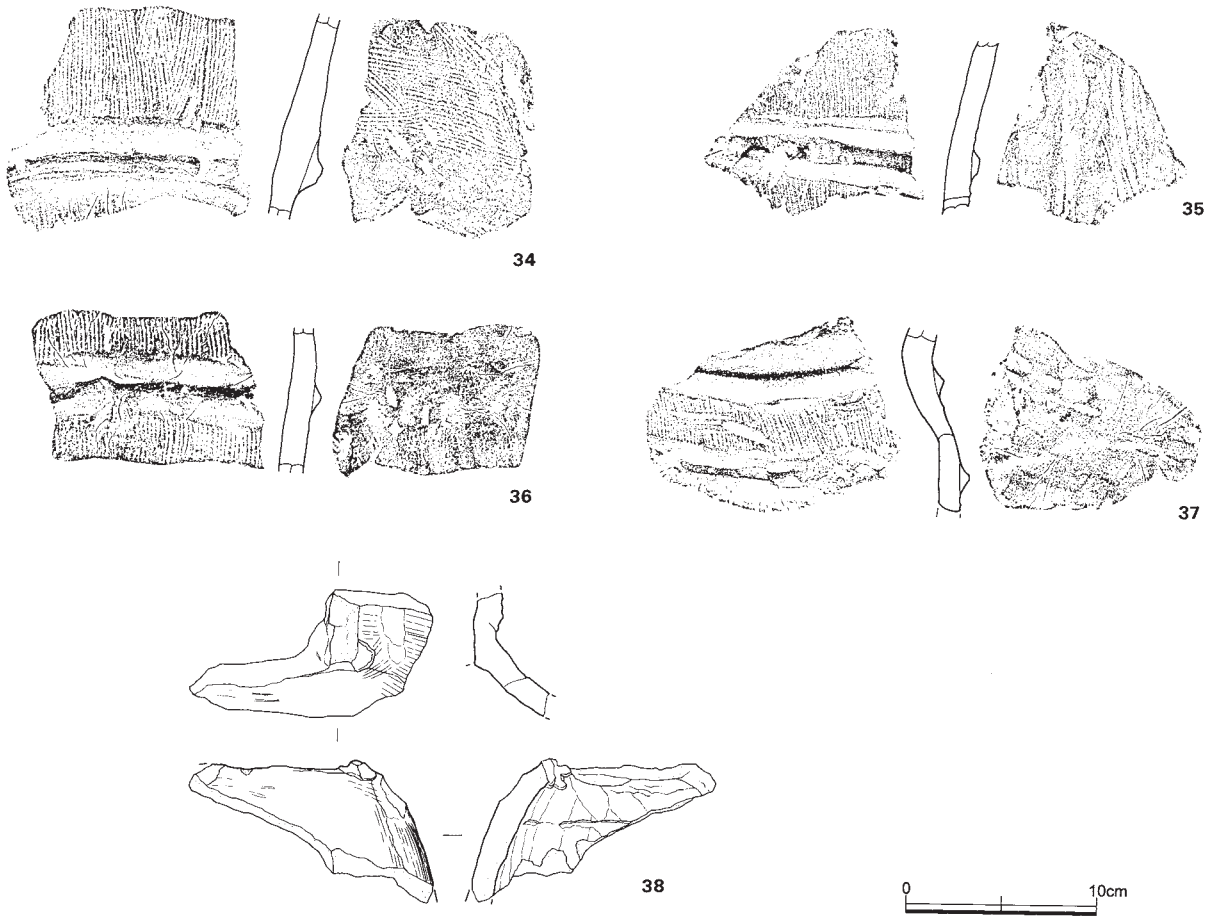
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
46	須恵甕	-	-	-	Ａ　Ｃ　Ｆ　Ｈ	良	灰	-	
47	凹石	長 12.6	幅 9.3	厚　7.3	石材　安山岩				
48	棒状鉄製品	長 11.3	幅 0.4	厚　0.5					重さ　9.93 g

第 20 表　第 2 号墳出土遺物観察表

第 1 号溝調査風景



第 49 図　第 1 号溝出土遺物（1）



第 50 図　第 1 号溝出土遺物（2）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	土師坏	(10.8)	(2.6)	-	ＡＣＥ	普	赤褐	15%	
2	ロクロ小皿	(11.0)	(2.3)	-	ＡＣＥ	普	橙	15%	
3	ロクロ小皿	(8.8)	-	-	ＡＣＤＥ	普	橙	15%	
4	ロクロ小皿	-	-	(5.8)	ＡＢＣＥ	普	橙	15%	
5	ロクロ小皿	-	-	(5.4)	ＡＢＣＤＥ	普	橙	15%	
6	ロクロ小皿	-	-	(5.8)	ＡＣＥＩ	普	橙	10%	
7	ロクロ小皿	-	-	(5.6)	ＡＢＣＤＨ	普	橙	20%	
8	ロクロ小皿	-	-	(7.8)	ＡＢＣＤ	普	明赤褐	15%	
9	ロクロ高台椀	-	-	6.4	ＡＢＣＩ	普	明赤褐	20%	
10	ロクロ高台椀	-	-	(6.8)	ＡＢＣＤ	普	橙	10%	
11	ロクロ高台椀	-	-	(7.6)	ＡＣＥ	普	橙	10%	
12	ロクロ高台椀	-	-	(8.4)	ＡＣＦＩ	普	にぶい赤褐	5%	
13	ロクロ高台椀	-	-	(7.6)	ＡＢＣＤ	普	黄橙	10%	
14	ロクロ高台椀	-	-	(8.0)	ＡＣＥＨ	普	橙	10%	
15	ロクロ高台椀	-	-	-	ＡＣＤ	普	橙	15%	内面黒色処理、ミガキ。
16	ロクロ高台椀	-	-	-	ＡＢＣＤ	普	橙	15%	
17	ロクロ高台椀	-	-	-	ＡＢＣＤ	普	橙	10%	
18	須恵坏	-	-	(7.0)	ＡＢＧＨ	普	灰	5%	
19	羽釜	(23.2)	-	-	ＡＣＥＨ	普	赤褐	-	
20	羽釜	-	-	-	ＡＢＣＥ	良	赤褐	-	

第 21 表　第 1 号墳出土遺物観察表（1）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
21	常滑甕	-	-	-	AC	良	にぶい赤褐	-	外面に緑色の釉がかかる。
22	常滑甕	-	-	-	AC	良	暗赤褐	-	
23	常滑甕	-	-	-	AC	良	暗赤褐	-	
24	土錘	長 3.2	幅 0.9	厚 0.9	A	良	黒褐	100%	
25	土錘	長 3.2	幅 1.2	厚 1.0	ABE	普	にぶい橙	100%	
26	土錘	長 3.1	幅 1.0	厚 1.0	ABE	普	にぶい橙	100%	
27	土錘	長 3.1	幅 0.9	厚 1.0	ACE	良	褐灰	100%	
28	土錘	長 3.3	幅 1.0	厚 1.0	ABE	普	にぶい橙	95%	
29	円筒埴輪	-	-	14.0	ABCH	普	明赤褐	25%	ハケメ６本 / ２㎝
30	円筒埴輪	-	-	(12.0)	ABCH	普	明赤褐	10%	ハケメ５本 / ２㎝
31	円筒埴輪	-	-	-	ABCDEH	普	赤褐	15%	ハケメ５本 / ２㎝
32	円筒埴輪	-	-	(14.0)	ABCDEH	普	橙	5%	ハケメ５本 / ２㎝
33	円筒埴輪	-	-	-	ACH	良	褐灰	-	ハケメ 11 本 / ２㎝
34	円筒埴輪	-	-	-	ACFHI	不良	明赤褐	-	ハケメ９本 / ２㎝
35	円筒埴輪	-	-	-	ABCDEH	普	明赤褐	-	ハケメ９本 / ２㎝
36	円筒埴輪	-	-	-	ACHI	不良	橙	-	ハケメ９本 / ２㎝
37	朝顔型埴輪	-	-	-	ACFHI	不良	橙	-	ハケメ 10 本 / ２㎝
38	象形埴輪	-	-	-	ABCEH	不良	橙	-	ハケメ６本 / ２㎝

第 22 表　第１号墳出土遺物観察表（２）

c　竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡（第 51・52 図）

調査区北西部に位置し、第１号墳周堀上に構築される。第１号墳周堀、第２号竪穴建物跡を切る。平面形は東西に長い長方形で、長軸 4.15 m、短軸 2.4 mを測る。主軸方位はN－10°－Wである。

床面は確認面から 33cm の深さである。壁溝は確認されなかった。カマドは北西隅に造られる。袖は地山削り出しで、先端に石が置かれる。右側の袖のみ存在する。燃焼部は床面より７cm 深くなる。燃焼部両側面には、片岩が貼り付けられている。カマド前からは、径 30cm、床面からの深さ 20cm のピットが１基確認された。覆土には灰が含まれる。

遺構の時期は、11 世紀頃と推定される。

第１号竪穴建物跡出土遺物（第 53・54 図、第 23 表）

図示できた遺物は、第 53 図１～第 54 図 25 である。第 53 図１～ 11 はロクロ土師器で、１・７・８は小皿、２～６は坏、９～ 11 は高台椀である。12 は須恵器甕である。10 ～ 18 は土師器甕、第 54 図 19 は羽釜、20 は鋤先である。

21 ～ 25 は埴輪である。ほとんどは第１号墳周堀からの流れ込みであろう。21 ～ 24 は円筒埴輪、25 は朝顔形埴輪である。

第２号竪穴建物跡（第 51・52 図）

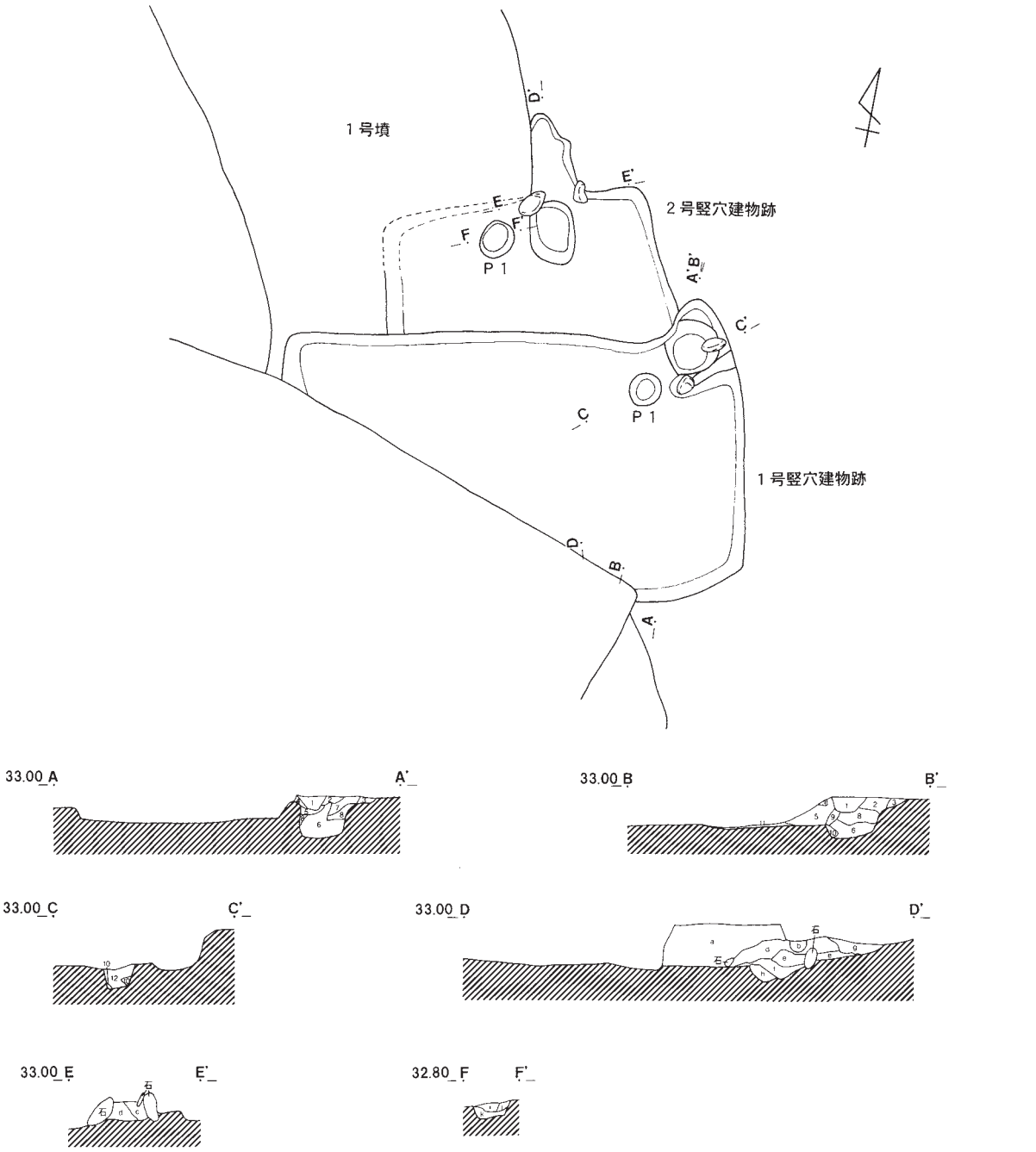
調査区北西部に位置し、第１号墳周堀上に構築される。第１号墳周堀を切り、第１号竪穴建物跡に切られる。平面形は方形で、一辺 2.55 mを測る。主軸方位はN－15°－Wである。

床面は確認面から 30cm の深さである。壁溝は確認されなかった。カマドは北壁に造られる。袖は河原石による。支脚と思われる石が出土した。カマド左脇には、径 33cm、床面からの深さ 15cm のピットが１基確認された。覆土には焼土が多く含まれる。

遺構の時期は、11 世紀頃と推定される。

第２号竪穴建物跡出土遺物（第 55 図、第 24 表）

図示できた遺物は、第 55 図１～８である。１～４は



第1号竪穴建物跡

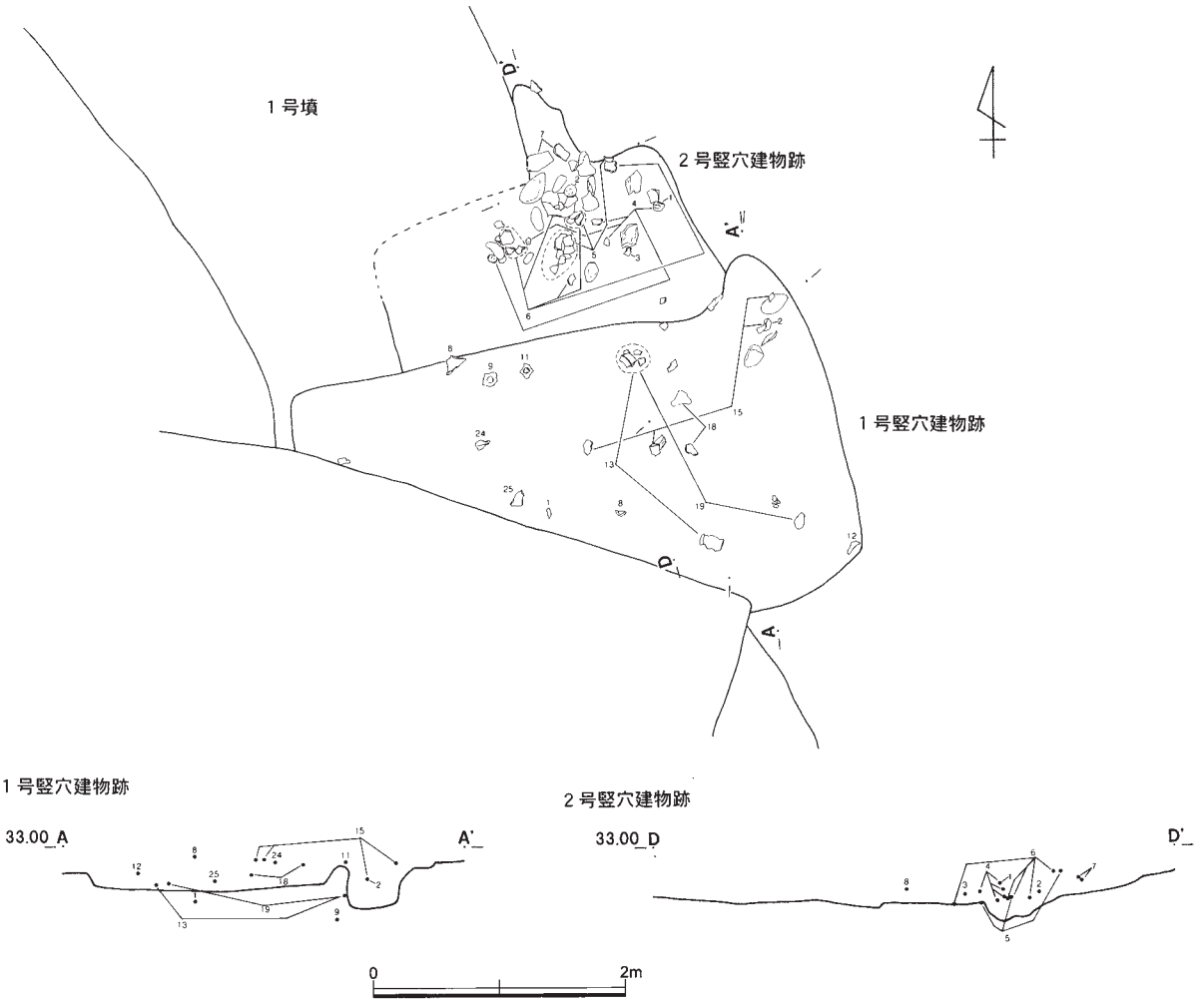
1層　黒褐色土　ローム粒、焼土粒を含む。
2層　黄褐色土　焼土粒、炭化粒をわずかに含む。
3層　黄褐色土　焼土粒を極めてわずかに含む。
4層　灰白色土　焼土粒を多量に含む。灰を含む。
5層　暗黄褐色土　焼土粒をやや多く含む。灰を含む
6層　灰色土　灰層。焼土粒をやや多く含む。
7層　暗黄褐色土　焼土粒を少し含む。
8層　暗橙褐色土　焼土粒、焼土ブロック（2～3cm）を多く含む。
9層　黄褐色土　ロームで構成される。焼土粒を少し含む。
10層　黄褐色土　ロームで構成される。
11層　黒色土　炭化物層。
12層　灰色土　灰層。炭化粒を含む。ローム粒をわずかに含む。

第2号竪穴建物跡

a層　暗褐色土　ローム粒を少し含む
b層　暗黄褐色土　ロームを多量に含む。焼土粒、炭化粒をわずかに含む
c層　暗灰褐色土　ローム粒をやや多く含む。焼土粒、炭化粒を少し含む
d層　暗灰褐色土　ローム粒を多く含む。焼土粒をわずかに含む
e層　暗黄褐色土　ロームを多量に含む。焼土粒を含む
f層　灰褐色土　炭化粒をやや多く含む。焼土粒を含む。
g層　茶褐色土　焼土を多量に含む。
h層　暗褐色土　ローム粒、焼土粒をわずかに含む
i層　暗橙褐色土　焼土粒を多く含む。
j層　暗灰褐色土　ローム粒、焼土粒を含む
k層　黒色土　焼土微粒を少し含む。

0　2m

第51図　第1・2号竪穴建物跡



第52図　第１・２号竪穴建物跡遺物出土状況

ロクロ土師器で、１～３は小皿、４は高台椀である。５・６は羽釜、７は土師器甕である。８は円筒埴輪である。

第３号竪穴建物跡（第56・57図）

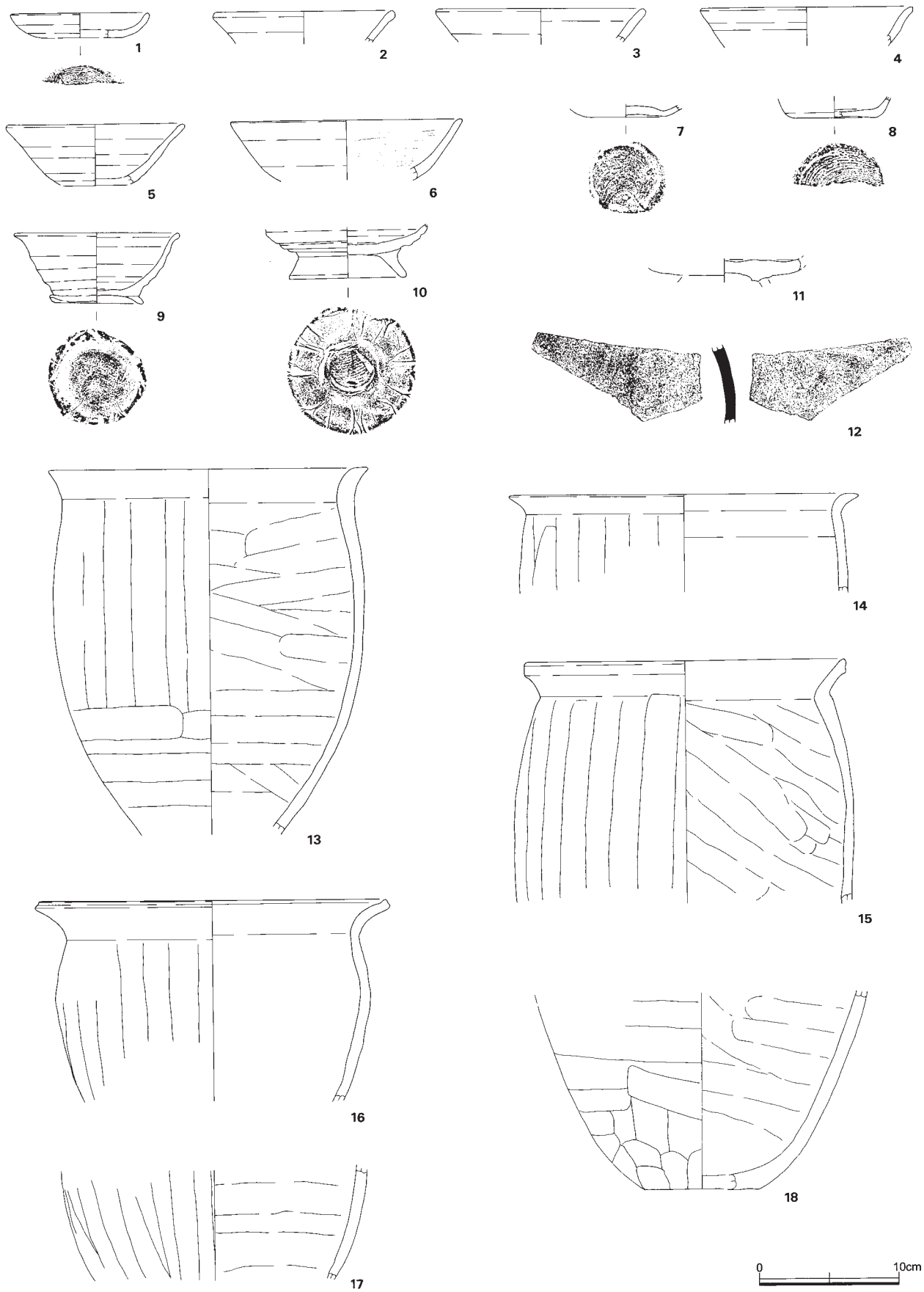
調査区北西部に位置する。第１号墳周堀上に構築され、第１号墳周堀を切る。平面形は方形で、一辺2.5ｍを測る。主軸方位はＮ－10°－Ｗである。

床面は確認面から22cmの深さである。壁溝は確認されなかった。カマドは北東隅に造られる。袖は左袖のみ存在し、石を用いている。カマド前面には、径25cm、床面からの深さ10cmのピットが１基確認された。

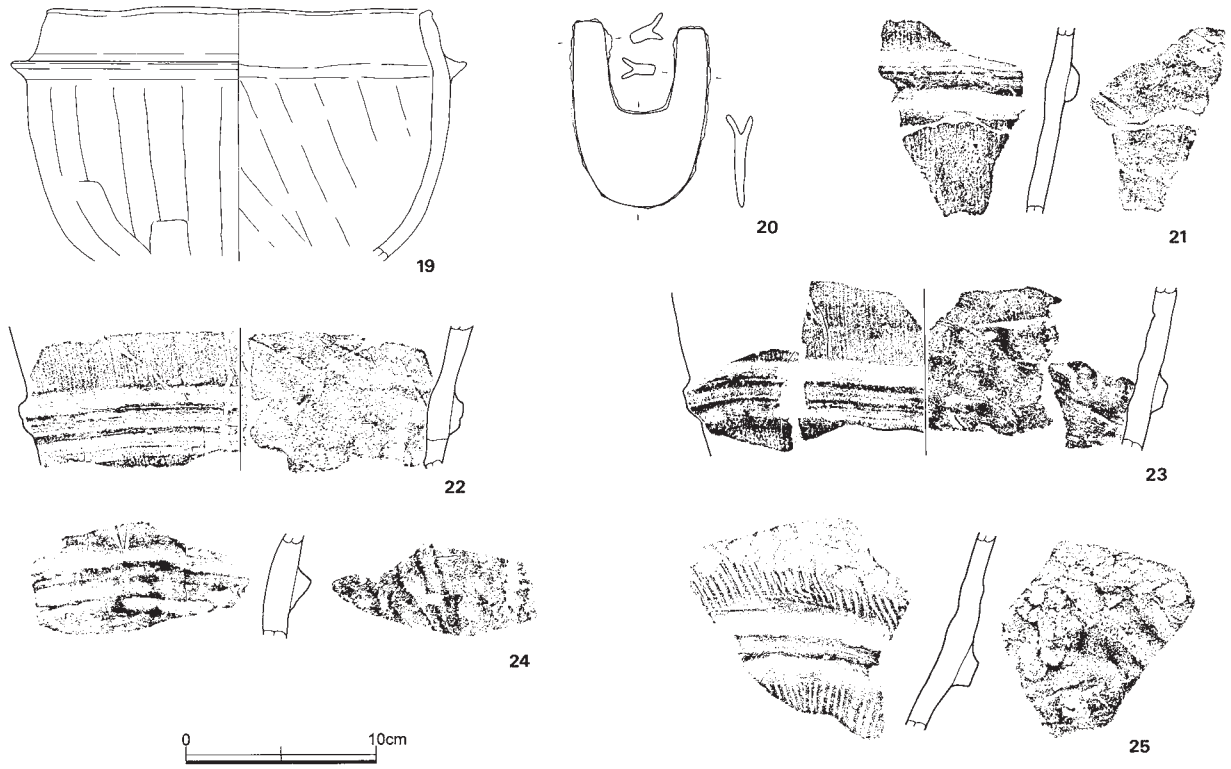
遺構の時期は、11世紀頃と推定される。

第３号竪穴建物跡出土遺物（第58図、第25表）

図示できた遺物は、第58図１～６である。１・２はロクロ土師器小皿である。３・４は土師器甕、５は土錘、６は円筒埴輪である。



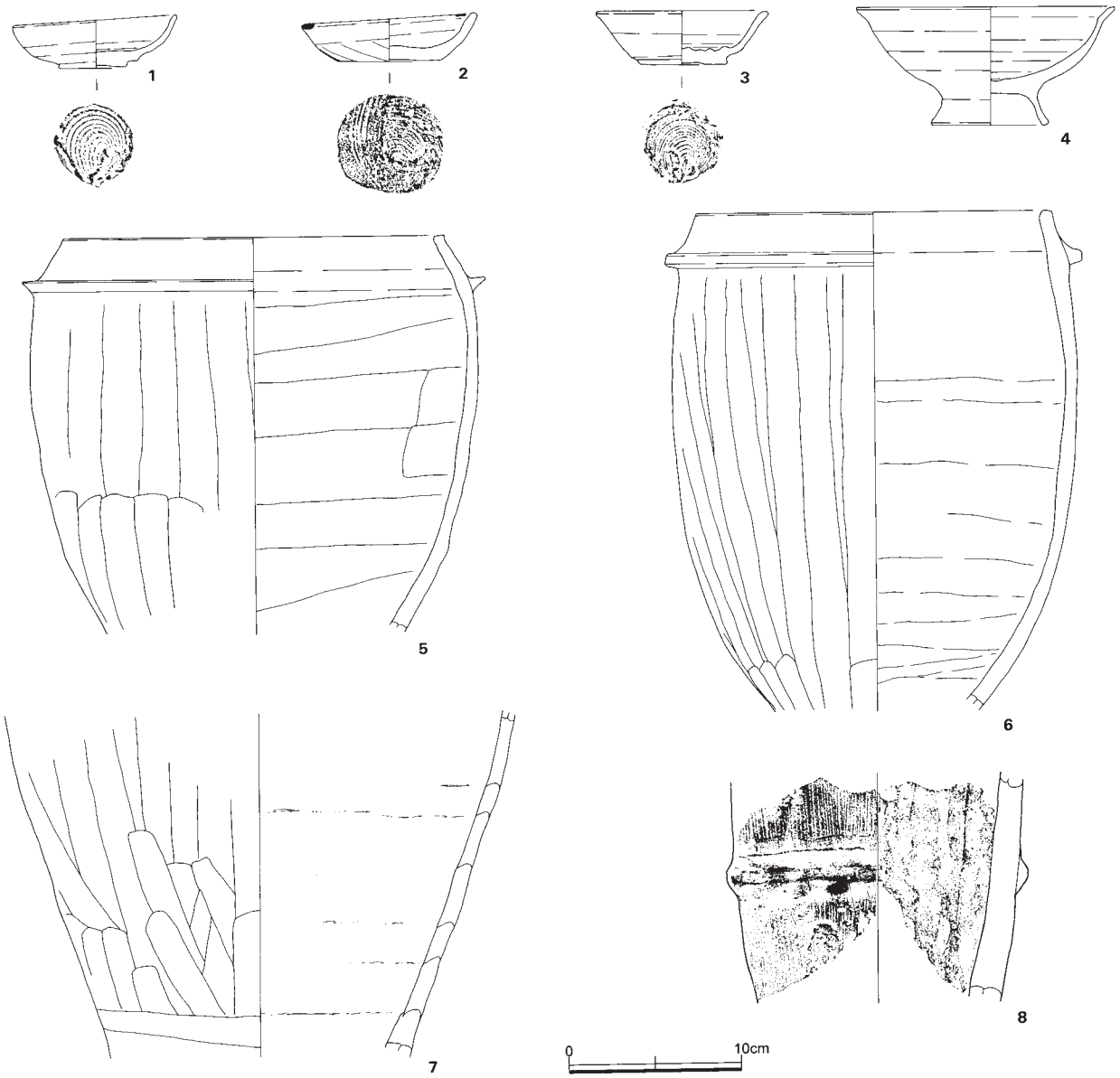
第 53 図　第 1 号竪穴建物跡出土遺物（1）



第 54 図　第 1 号竪穴建物跡出土遺物（2）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	ロクロ小皿	(10.0)	1.8	(5.0)	ABCDE	普	橙	40%	
2	ロクロ坏	(12.8)	-	-	ABCDE	普	橙	10%	
3	ロクロ坏	(14.8)	-	-	ABDE	普	黄橙	10%	
4	ロクロ坏	(15.0)	-	-	ABCDEH	良	橙	10%	
5	ロクロ坏	(12.6)	(4.4)	(4.8)	ABDE	普	橙	25%	
6	ロクロ坏	(16.6)	-	-	ABCE	普	橙	-	内面ミガキ。
7	ロクロ小皿	-	-	5.6	ABCE	普	橙	30%	
8	ロクロ小皿	-	-	(6.0)	ACDE	良	暗褐	20%	
9	ロクロ高台椀	11.6	5.0	6.6	ABCDE	普	橙	90%	
10	ロクロ高台椀	-	-	(8.2)	ABCDE	普	橙	40%	
11	ロクロ高台椀	-	-	-	ABCDE	普	橙	25%	
12	須恵甕	-	-	-	ACF	良	青灰	-	
13	土師甕	(22.8)	-	-	ABCDEH	良	明赤褐	20%	
14	土師甕	(24.8)	-	-	ABCEH	良	明赤褐	5%	
15	土師甕	(22.8)	-	-	ACDE	良	赤褐	20%	
16	土師甕	(24.8)	-	-	ABCDEH	良	明赤褐	15%	
17	土師甕	-	-	-	ACDEH	普	にぶい橙	5%	内面に煤か付着。
18	土師甕	-	-	(8.4)	ABCDEH	普	にぶい橙	10%	
19	羽釜	(20.2)	-	-	ABCDEH	普	橙	25%	張出部下に煤が付着。
20	鋤先	長 9.5	幅 6.9	厚 0.6					重さ　97.42 g
21	円筒埴輪	-	-	-	ABCEH	良	橙	-	ハケメ 10 本 / 2 cm
22	円筒埴輪	-	-	-	ABCEH	良	明赤褐	-	ハケメ 10 本 / 2 cm
23	円筒埴輪	-	-	-	ABCHI	良	橙	-	ハケメ9本 / 2 cm
24	円筒埴輪	-	-	-	ABCDE	不良	明赤褐	-	
25	朝顔型埴輪	-	-	-	ABCH	不良	明赤褐	-	ハケメ6本 / 2 cm

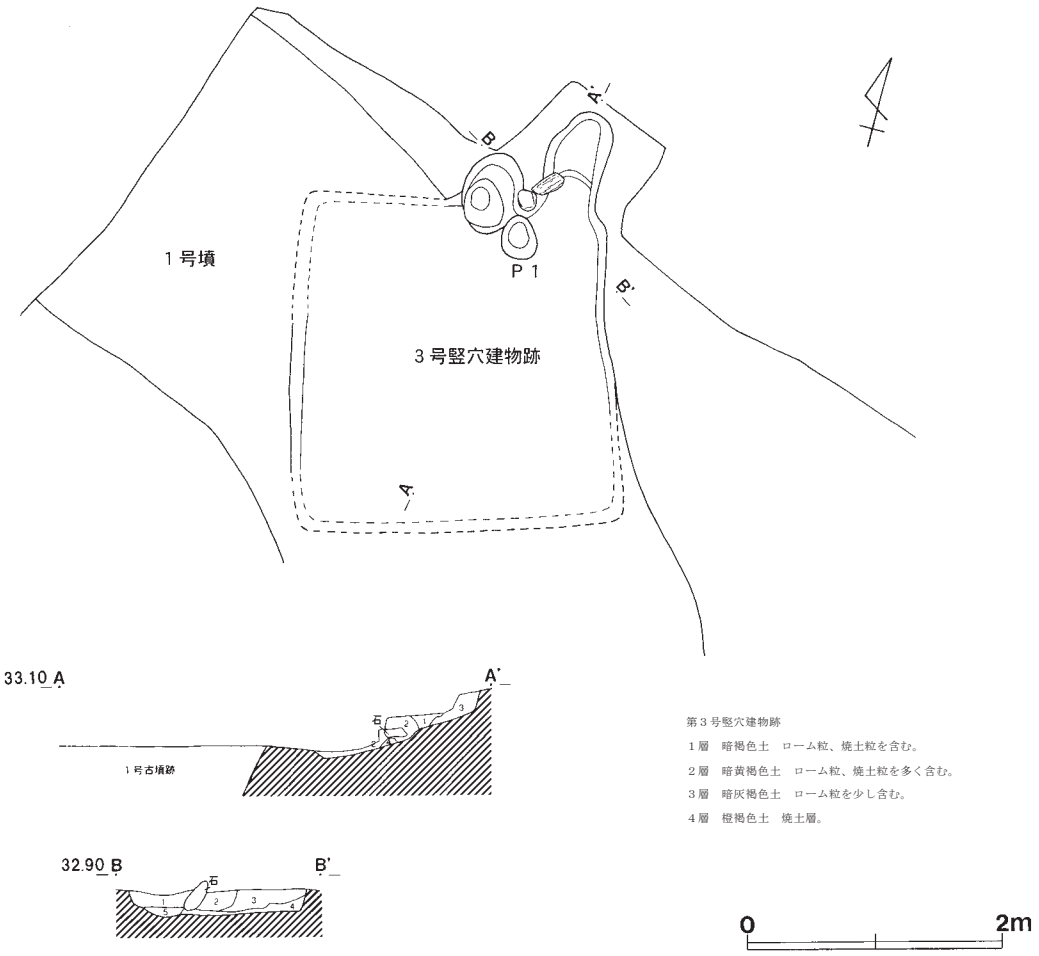
第 23 表　第 1 号竪穴建物跡出土遺物観察表



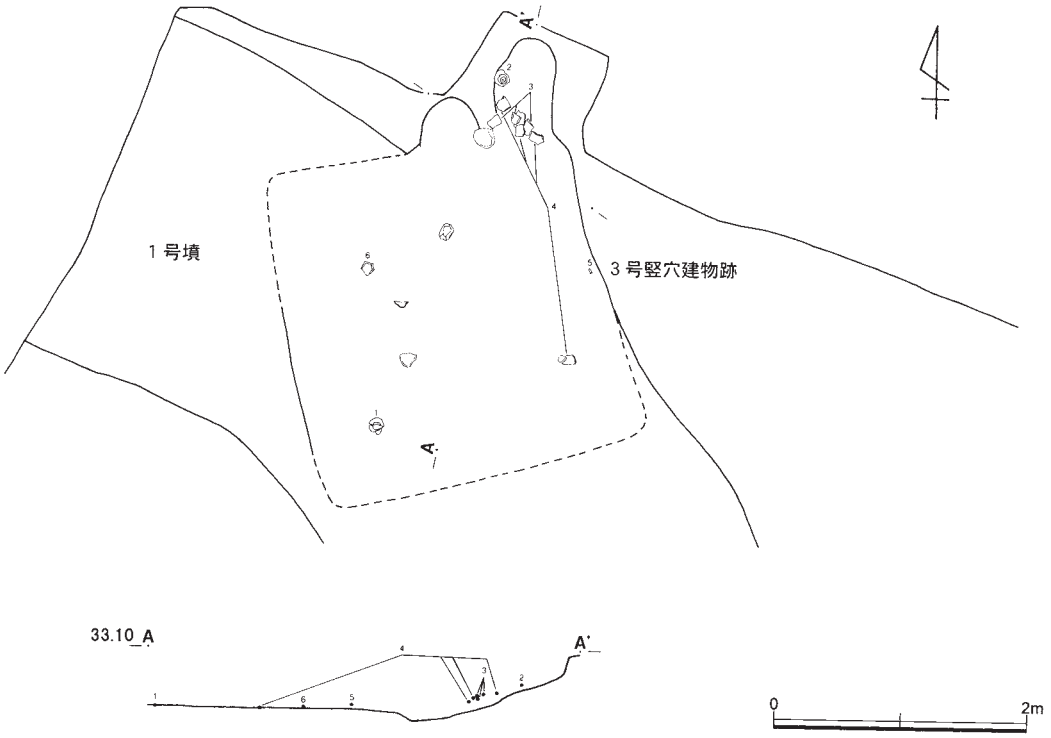
第 55 図　第２号竪穴建物跡出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	ロクロ小皿	9.5	2.8	3.8	ABCDE	良	橙	90%	
2	ロクロ小皿	10.0	2.4	5.9	ABCDE	普	橙	100%	口縁部に煤が付着。
3	ロクロ小皿	9.8	3.1	5.0	ABCDE	良	橙	60%	
4	ロクロ高台椀	14.8	6.9	6.5	ABCDE	普	赤褐	90%	
5	羽釜	(22.0)	-	-	ABCDEH	普	赤褐	30%	
6	羽釜	(20.6)	-	-	ABCDEH	普	赤褐	30%	
7	土師甕	-	-	-	ACDEH	普	橙	20%	
8	円筒埴輪	-	-	-	ABCHI	普	赤褐	10%	ハケメ 10 本 / ２ｃｍ

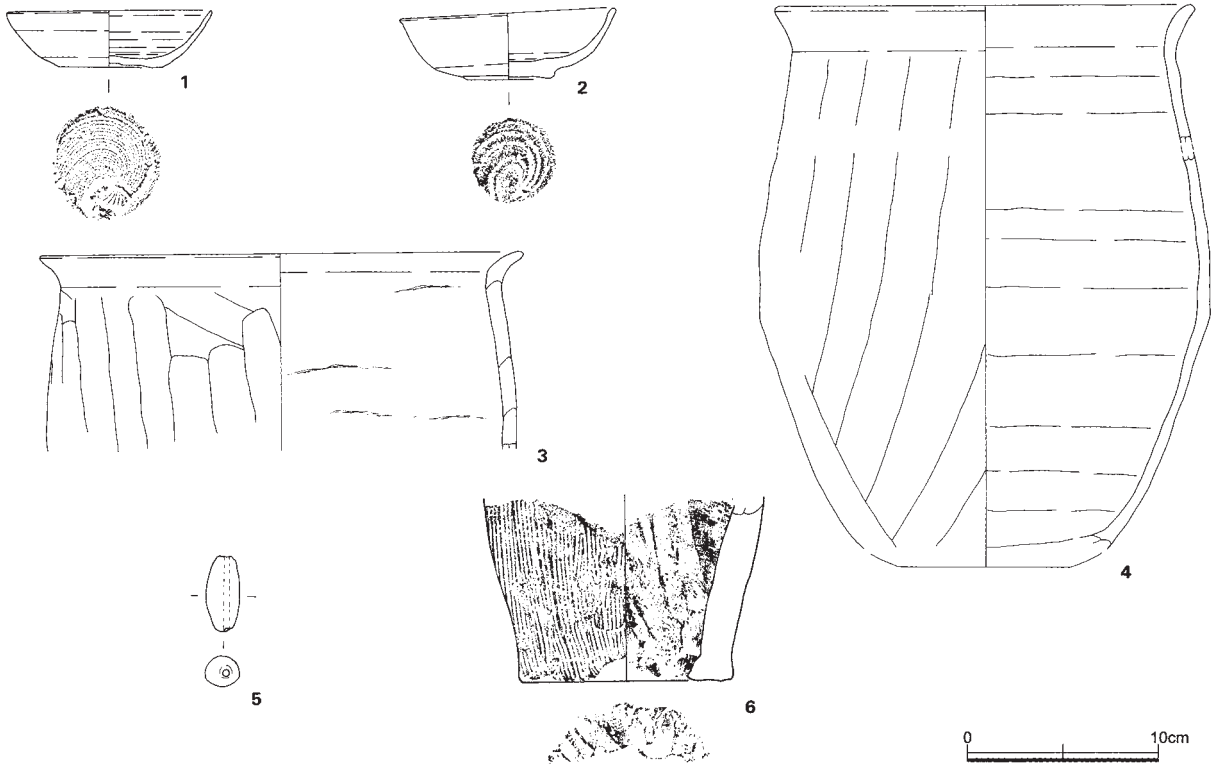
第 24 表　第２号竪穴建物跡出土遺物観察表



第56図　第3号竪穴建物跡



第57図　第3号竪穴建物跡遺物出土状況



第 58 図　第３号竪穴建物跡出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	ロクロ小皿	9.7	2.9	5.3	ABCE	普	黄橙	95%	
2	ロクロ小皿	11.3	3.4	4.5	ACE	良	赤褐	90%	
3	土師甕	(25.4)	-	-	ABCEH	普	暗褐	10%	
4	土師甕	(21.6)	(29.4)	-	ABCEHI	良	橙	25%	
5	土錘	長 4.0	幅 1.7	厚 1.6	ACE	普	暗褐	100%	
6	円筒埴輪	-	-	(11.0)	ABCH	良	赤褐	5%	ハケメ９本 / ２ｃｍ

第 25 表　第３号竪穴建物跡出土遺物観察表

d　土　　坑

第１号土坑（第 59 図）

調査区中央部に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸は不明瞭だが、短軸は 77cm を測る。壁は急角度で立ち上がるが、西側は緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは 40cm で、主軸方位はN－ 75°－Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第２号土坑（第 59 図）

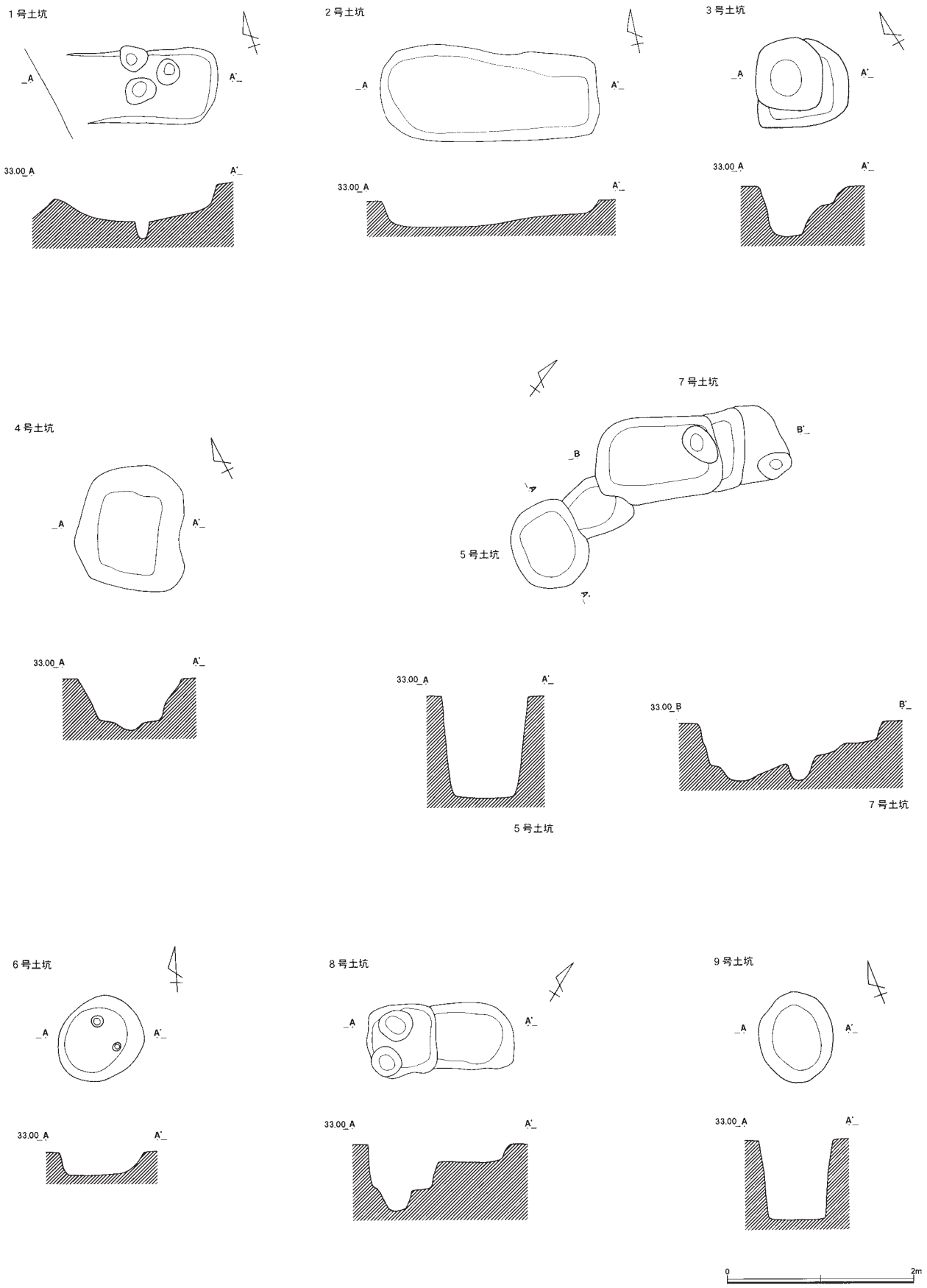
調査区北部に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸 232cm、短軸 102cm を測る。底面は西に向かってやや深くなり、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは 28cm で、主軸方位はN－ 75°－Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第３号土坑（第 59 図）

調査区南部に位置する。平面形は方形を呈し、一辺約１ｍを測る。２基の土坑が重複している可能性がある。確認面からの深さは、最深部で 55cm を測る。主軸方位はN－ 30°－Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。


1 号土坑
_A
A'_
33.00_A
A'_
2 号土坑
_A
A'_
33.00_A
A'_
3 号土坑
_A
A'_
33.00_A
A'_
4 号土坑
_A
A'_
33.00_A
A'_
7 号土坑
B'_
_B
5 号土坑
33.00_A
A'_
5 号土坑
33.00_B
B'_
7 号土坑
6 号土坑
_A
A'_
33.00_A
A'_
8 号土坑
_A
A'_
33.00_A
A'_
9 号土坑
_A
A'_
33.00_A
A'_
0
2m

第 59 図　土坑実測図

第４号土坑（第 59 図）

調査区南部に位置する。平面形は長方形で、長軸 133cm、短軸 108cm を測る。壁は斜めに立ち上がり、底面は中央部がわずかに深くなる。確認面からの深さは 54cm で、主軸方位はＮ－ 30°－Ｅである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第５号土坑（第 59 図）

調査区南部に位置する。平面形は楕円形で、長径 95cm、短径 76cm を測る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの深さは 108cm である。

図示できる遺物は出土しなかった。

第６号土坑（第 59 図）

調査区北西部に位置する。平面形は円形で、一辺約 90cm を測る。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは 25cm である。

図示できる遺物は出土しなかった。

第７号土坑（第 59 図）

調査区南部に位置する。平面形は長方形で、長軸 205cm、短軸 88cm を測る。底面は西に向かって階段状に深くなる。確認面からの深さは、最深部で 63cm を測る。主軸方位はＮ－ 40°－Ｅである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第８号土坑（第 59 図）

調査区南部に位置する。平面形は長方形であるが、２基の土坑が重複しているものと思われる。長軸 158cm、短軸 70cm を測る。西側は一段深く確認面からの深さは 70cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。東側は確認面からの深さ 20cm を測る。主軸方位はＮ－ 60°－Ｅである。

図示できる遺物は出土しなかった。

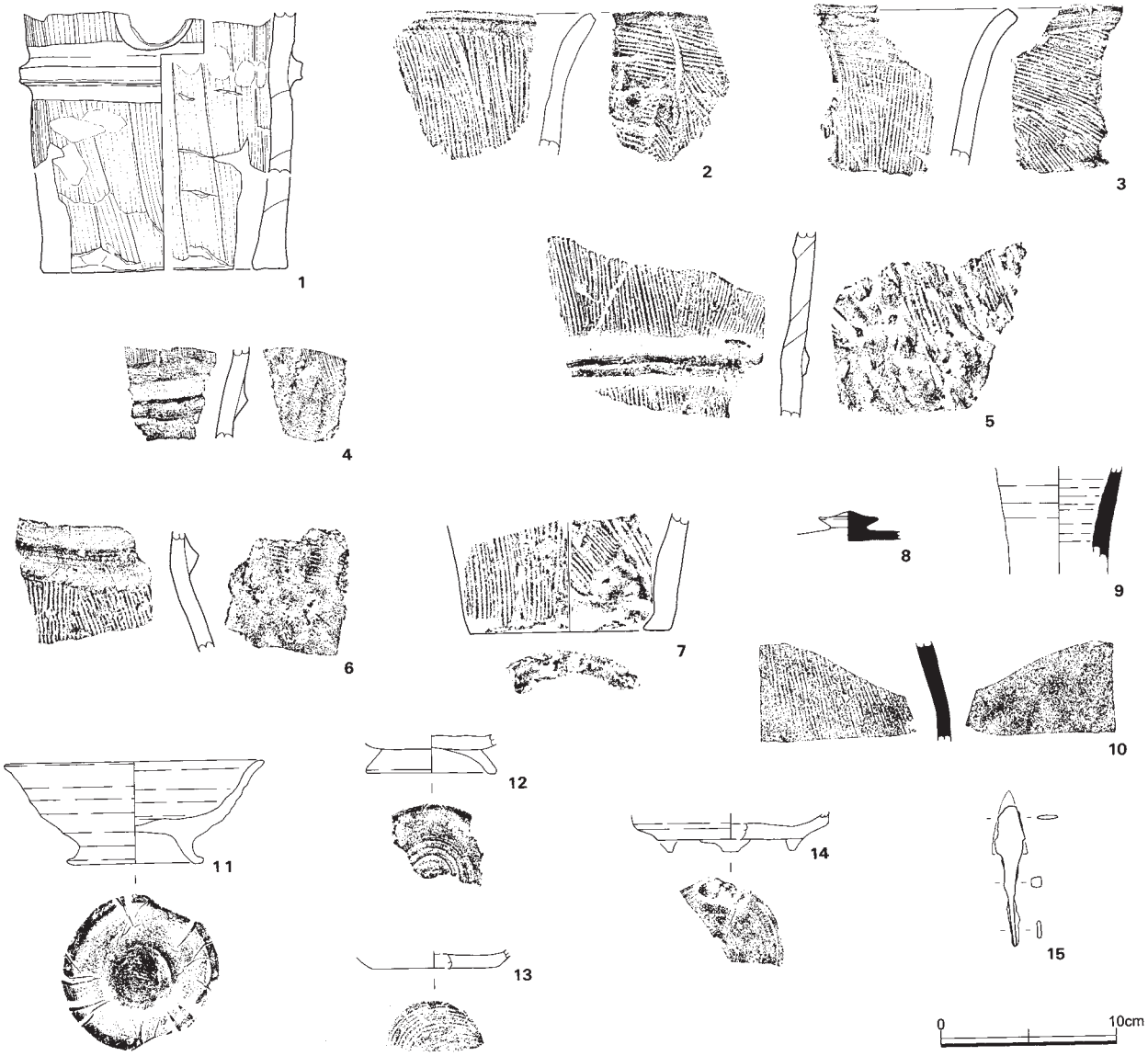
第９号土坑（第 59 図）

調査区南部に位置する。平面形は楕円形で、長径 98cm、短径 80cm を測る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの深さは 86cm を測る。主軸方位はＮ－ 10°－Ｅである。

図示できる遺物は出土しなかった。

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	円筒埴輪	-	-	(14.0)	ABCH	普	にぶい橙	15%	ハケメ７本 / ２ｃｍ
2	円筒埴輪	-	-	-	AH	良	灰赤	-	ハケメ８本 / ２ｃｍ
3	円筒埴輪	-	-	-	ABCH	普	赤褐	-	ハケメ８本 / ２ｃｍ
4	円筒埴輪	-	-	-	ABCH	良	赤褐	-	ハケメ 17 本 / ２ｃｍ
5	円筒埴輪	-	-	-	ABCH	普	明赤褐	-	ハケメ９本 / ２ｃｍ
6	朝顔型埴輪	-	-	-	ABCH	良	明赤褐	-	ハケメ８本 / ２ｃｍ
7	円筒埴輪	-	-	(11.4)	ABCH	普	橙	-	ハケメ８本 / ２ｃｍ
8	須恵蓋	-	-	-	ACFH	良	灰	5%	
9	須恵長頸瓶	-	-	-	AC	良	灰	-	
10	須恵甕	-	-	-	ACFH	良	灰	-	
11	ロクロ高台椀	15.0	5.9	7.6	ACEI	普	にぶい橙	80%	
12	ロクロ高台椀	-	-	(7.4)	ABCE	普	橙	10%	
13	ロクロ小皿	-	-	7.0	ACE	普	にぶい橙	10%	
14	陶器鉢	-	-	(8.2)	A	良	黄橙	10%	
15	鉄鏃	長 (9.0)	幅 1.8	厚 0.6					重さ　7.35 g

第 26 表　調査区出土遺物観察表



第 60 図　調査区出土遺物

調査前の風景

Ⅴ　調査のまとめ

１　居立遺跡

今回の調査では、旧城北川の跡とその間近に造られた竪穴建物跡１棟、土坑４基が確認された。遺構は、古墳時代の洪水に起因すると思われる土壌から掘り込まれており、平面プランの確認は非常に困難であった。しかし、遺物は非常に多く、遺構の遺存状態は非常に良好であった。特にカマドの残りは良く、ほぼ使用時の状態であった。袖の構築方法は特殊で、外面からの被熱により硬化していた。本竪穴建物跡は床面上の敷物が炭化していたものの、焼失建物とは異なる。カマド構築時に、意図的に熱を加えて構造を強化したと考えられる。これは、周辺の土壌に砂を多く含むことが関係している。埼玉県埋蔵文化財調査事業団による上武バイパス建設に伴う調査で、居立遺跡の北に隣接する城北遺跡が調査されているが、地山削り出しによる袖に比較すれば強度の低い造り付け袖を補強するための構築方法が幾つか確認されている（山川 1995）。袖の中軸に芯材として径１cm 程の竹を立てる方法、甕や甑を用いて袖を形成する方法、袖の先端に甕を倒立させる方法がある。その他に天井構造に関して、第 141 号住居跡のものは天井粘土上面を加熱硬化させている。また、第 71 号住居跡の崩落した燃焼部天井は、袖と同質の粘土を挟んで上下両面が硬く焼土化している。今回報告した居立遺跡の例は、これと同様の手法が袖構築の際に用いられたものと考えられる。

２　森吉古墳

今回の調査では、溝３条と土坑２基が確認された。森吉古墳の残存する墳丘からは墳形は不明だが、第１号墳は古墳周堀と思われ、そこから推定すると径約 32 mの造り出し付き円墳、或いは帆立貝形古墳と考えられる。出土遺物は極めて少なく、他時期のものの混入が大部分を占めることから、時期の決定は困難である。

第２号溝からは、馬とみられる獣骨が多く出土した。遺構の時期は中世と推定される。第３号溝は近世のもので、残存する墳丘上にある稲荷祀を区画する溝と思われる。

今回の調査は確認調査であり、調査区設定をトレンチのみにしたため、遺構の状況を明確にすることはできなかった。今後、本古墳の調査を行なう機会があれば、確認調査であった場合でも面的な調査が求められる。

３　下郷遺跡

確認された２基の円墳は、いずれも径約 20 m弱、時期は６世紀前半のものである。埴輪は多量に出土した。それより後の遺構は、第１号溝、第１～３号竪穴建物跡等があるが、中世のものと思われる土坑を除く古代の遺構は、いずれも墳丘部には構築されない。竪穴建物跡３棟は、全て第１号墳の墳丘裾の埋没した周堀上に造られる。また、第１号溝は、第２号墳周堀と合流すると、それに沿って、つまり墳丘裾に沿って折れ曲がっていくと考えられる。つまり、これら古代の遺構が造られる時点では、墳丘は残っていたということが言える。

第１号溝は位置関係から、幡羅遺跡正倉院（北）の西辺区画溝の可能性が考えられる。他に確認されている正倉院区画溝とは掘方が異なり、埋没時期も下るという違いはあるものの、規模や方向は類似しており、正倉院区画溝とすることは可能である。掘り直しが行なわれていることも考えられる。

幡羅遺跡正倉院（北）周辺では古墳跡が多く確認され、正倉造営に際して破壊されたと思われるものもある。第２次調査では、正倉院（北）の北東隅が調査され、北東隅には古墳が墳丘を残したまま存在していた可能性が考えられる。下郷遺跡の第２号墳が正倉院（北）

第 61 図　幡羅郡家正倉跡

の北西隅に当たるとすれば、こちらも古墳が墳丘を残したまま存在していたことになる。一部では破壊される古墳がありながら、一部は正倉院内に取り込まれる形で古墳が存続する。こうした点は、幡羅郡家正倉跡の景観を復元する上で重要と考えられる。

下郷遺跡調査風景

写 真 図 版

居立遺跡（第２次）

第１号竪穴建物跡（１）

第１号竪穴建物跡（２）

第１号竪穴建物跡遺物出土状況

第１号竪穴建物跡カマド（１）

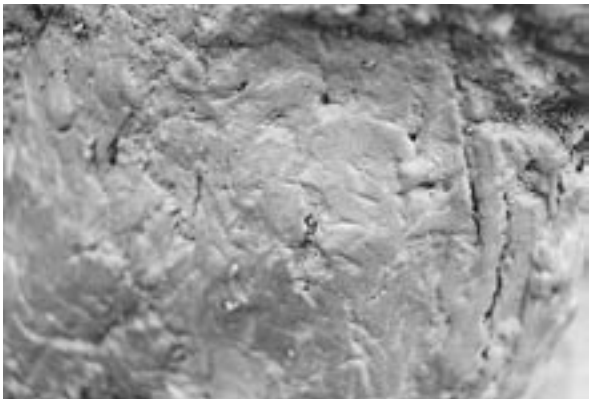
第１号竪穴建物跡カマド（２）

第１号竪穴建物跡カマド（３）

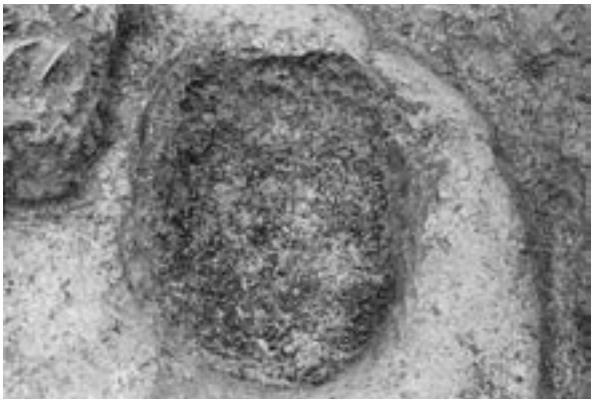
第１号竪穴建物跡カマド（４）

第１号竪穴建物跡カマド袖（１）

居立遺跡（第２次）



第１号竪穴建物跡カマド袖（２）



第１号竪穴建物跡貯蔵穴

第１号竪穴建物跡管玉出土状況

第１号竪穴建物跡紡錘車出土状況

第１号土坑

１号竪カマド袖材

縄文土器、石器

１号竪編物石

居立遺跡（第２次）

１号竪１

１号竪７

１号竪８

１号竪 12

１号竪 13

１号竪 14

１号竪 15

１号竪 18

１号竪 20

１号竪 22

１号竪 26

１号竪 27

１号竪 32

１号竪 38

１号竪 40

１号竪 41

１号竪 43

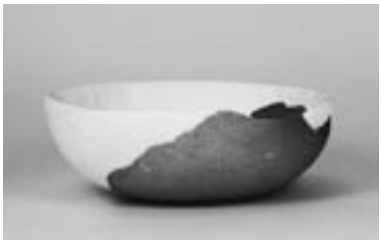
１号竪 46

1号竪 47

1号竪 48

1号竪 49

1号竪 51


1号竪 52

1号竪 53

1号竪 54

1号竪 55

1号竪 58

1号竪 59

1号竪 60

1号竪 64

1号竪 70

1号竪 72

1号竪 73

居立遺跡（第２次）

1号竪 74

1号竪 75

1号竪 77

1号竪 80

1号竪 91

1号竪 92

1号竪 93

1号竪 94

1号土坑６

1号竪 96

1号土坑１

1号土坑３

1号竪 97

1号土坑２

森吉古墳

Aトレンチ

Bトレンチ

Cトレンチ

Dトレンチ

出土遺物

1号土坑出土遺物

下郷遺跡

調査区全景

第１号墳

第１号墳遺物出土状況（１）

第１号墳遺物出土状況（２）

第１号墳遺物出土状況（３）

第２号墳

第２号墳遺物出土状況（１）

第２号墳遺物出土状況（２）

下郷遺跡

第１号溝

第１号溝遺物出土状況

第１・２号溝

第１号竪穴建物跡遺物出土状況

第１号竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡カマド

第２号竪穴建物跡遺物出土状況

第２号竪穴建物跡カマド遺物出土状況

下郷遺跡

第２号竪穴建物跡カマド

第１・２号竪穴建物跡

第３号竪穴建物跡

第３号竪穴建物跡カマド

第１号土坑

第２号土坑

第３・５・９号土坑

第６号土坑

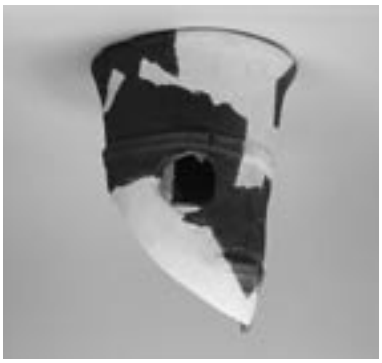
下郷遺跡

第７号土坑

第８号土坑

１号墳１

１号墳２



１号墳３

１号墳４

１号墳５

１号墳 12

１号墳 13

１号墳 14

１号墳 15

下郷遺跡

1号墳 16

1号墳 17

1号墳 18

1号墳 19

1号墳 20

1号墳 21

1号墳 22

1号墳 23

1号墳 24

1号墳 25

1号墳 26

1号墳 27

1号墳 28

1号墳 29

1号墳 30

1号墳 31

1号墳 32

1号墳 33

1号墳 34

1号墳 35

1号墳 36

1号墳 46（1）

1号墳 46（2）

1号墳 47

1号墳 48

下郷遺跡

1号墳 49

1号墳 50

1号墳 51

1号墳 75（1）

1号墳 75（2）

1号墳 75（3）

1号墳 76（1）

1号墳 76（2）

1号墳 77（1）

1号墳 77（2）

下郷遺跡

1号墳 78

1号墳 80

1号墳 85

1号墳 82（1）

1号墳出土形象埴輪

1号墳 82（2）

2号墳1

2号墳2

2号墳3

2号墳4

下郷遺跡

２号墳５

２号墳７

２号墳８

２号墳９

２号墳 12

２号墳 14

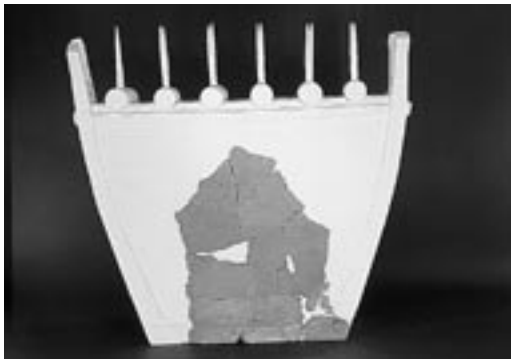
２号墳 15

２号墳 16

２号墳 17

２号墳 21

２号墳 38



２号墳 39（1）

２号墳 39（2）

２号墳 39（3）

２号墳出土形象埴輪

１号溝出土土錘

１号溝 29

１号竪 9

１号竪 10

１号竪 13

１号竪 15

１号竪 16

下郷遺跡

１号竪 19

２号竪１

２号竪３

２号竪２

２号竪４

２号竪５

２号竪６

３号竪１

３号竪２

調査区１

調査区 11

鉄製品

縄文土器・石器

報告書抄録

ふりがな	いだて（だい２じ）／もりよしこふん／しもごう
書名	居立（第２次）／森吉古墳／下郷
副書名	
巻次	
シリーズ名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第92集
編著者名	知久裕昭
編集機関	深谷市教育委員会
所在地	〒366－0823　埼玉県深谷市本住町17－3　　TEL　048－572－9581
発行年月日	2007(平成19)年８月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡	北緯 (°′″)	東経 (°′″)	調査 期間	調査 面積	調査 原因
居立遺跡 (第２次)	深谷市上増田 字居立44－3	11218	176	36　21　28	139　32　85	19980727 ～ 19980814	150㎡	個人 住宅
森吉古墳	深谷市東方 字森吉2980－1	11218	117	36　19　51	139　32　69	19981002 ～ 19981111	110㎡	事務所 建設確認
下郷遺跡	深谷市東方 字森吉2980－1、－2	11218	029	36　19　51	139　32　73	19981002 ～ 19981111	650㎡	豚舎建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
居立遺跡 (第２次)	集落	古墳後期	竪穴建物跡　１棟 土坑　４基	土師器 石製品 縄文土器 石器	
森吉古墳	古墳	古墳後期	溝　３条 土坑　１基	埴輪 土師器 須恵器 ロクロ土師器	
下郷遺跡	古墳群 集落	古墳後期 ～ 平安	古墳跡　２基 溝　２条 竪穴建物跡　３棟 土坑　９基	埴輪 土師器 須恵器 ロクロ土師器	

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第92集

居立（第２次）／森吉古墳／下郷

印　刷　　平成19年８月27日
発　行　　平成19年８月31日

発　行　　埼玉県深谷市教育委員会